

昭和十九年十二月二十五日

部  
外  
秘

177

南支南洋時報

第四十號

臺灣總督府外事部



内閣文庫	一一冊
和書	八〇四六三号



305
12

南支南洋時報

第四十號

昭和十九年十二月二十五日

臺灣總督府外事部

目次

資料

南方の石油資源……………一頁

佛印の家畜育成状況……………元

廣東金融事情概況（昭和十九年第二・四半期）……………四

時報

海口金融事情概況(昭和十九年第二・四半期)..... 二  
廣東民族の史的移動及び其の地理的分布..... 空  
中國土地制度の沿革..... 空

福建省..... 空

福州攻略譜..... 空

福州方面作戰軍幕僚談..... 空

廣東省..... 空

胡文虎廣東で新聞發行..... 空

九月中の廣東生必需品指數昂騰..... 空

粵漢線復舊に挺身する中國人..... 空

廣西省..... 100

廣西省桂林の近況..... 空

梧州の經濟的價值..... 空

貴州省..... 102

在支米空軍、貴州省基地化に狂奔..... 空

香港..... 104

香港交易公社設立..... 空

佛印..... 106

在佛印邦商總監督制を採用..... 空

佛印タンニン工業本格化..... 空

佛印在留邦人に愛國國債貯金を勸奨..... 空

佛印アルコールの生産順調..... 空

日佛印諸問題今後現地で解決..... 空

佛印製材工場を電化..... 空

新情勢下佛印の立場..... 空

交趾支那で灌漑施設を増設..... 空

佛印のゴム生産好調..... 空

泰國..... 113

泰國軍異動..... 空

三原則具現に邁進するタイの經濟..... 空

馬來..... 114

馬來の勞務管理..... 空

遊休エンジンでローリー製作..... 空

マライの決戦即應施策  
スマトラ..... 馬來敵性銀行の預金拂戻し決定 四  
..... 一五

スマトラに於ける農園研究品發表會  
スマトラ正金支店網擴充  
ジャワ..... 獨立許容聲明に關するスマトラ方面軍布告  
..... 一三

ジャワの農企業  
ジャワ住民防衛と建設に挺身  
ジャワ木船建造豫定量突破か  
ジャワ敵産企業農園一部原住民に委託經營  
ボルネオ..... 決戦完勝週間全島に展開  
..... 一四

ボルネオ建設二年半の成果  
北ボルネオの食糧増産顯著  
最近の北ボルネオ經濟狀況  
セレベス..... 西ボルネオにて椰子油を増産  
..... 一五

セレベス勞務管理具體案成る  
セレベス勤勞奉仕隊の活躍振り  
ブラウの建造進捗  
ボルネオにて椰子油を増産  
南ボルネオでダイヤの増産實施  
..... 一五

セレベス運航會で帆船十三隻を進水  
南セレベス衣料の自給達成に邁進  
..... 一五

比島の參戰經緯  
比島經濟の新段階  
比島の政治經濟自戦自活に整備  
比島の鑛産物對日還送順調  
..... 一五

比島でカツサバを増産  
比島生必品の生産配給を統制  
比島農業視察團感想發表  
參戰比島に二億圓信用供與  
..... 一六

最近のビルマ經濟  
パンハン調査團長語る  
ビルマの植物油栽培順調  
..... 一六

ビルマで薬吹大量生産開始  
在緬邦人に二規定を施行  
..... 一六

ボース首班我が航空機増産に百萬圓献金  
..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

..... 一五

南方一般

南方の邦人商社重點開發に邁進

東印度に對する獨立許容の聲明

儲銀の對南方蓄積資金膨脹

六

一八

統計

南支各地域別在留邦人人口概計表（昭和十九年三月一日現在）

一四

南支各地物價表（昭和十九年三月末日）

三〇三

華僑送金表（昭和十九年三月中）

三〇八

資料

南方の石油資源

一 南方資源に於ける石油の地位

敵米英が狙ふ日本の南方依存資源中、最も重要なものは石油補給源の遮断にあることは、頗る明白に之を觀取することが出来る。即ち、石油資源に恵まれることの少い我が國に對し、南方の石油補給源を切斷して内地工業地帯との連絡を阻止し、これによつて軍需生産力を減殺せしめ、以て一舉に我が本土を襲撃せんとする策略にある。敵が常に物量を持ちとせることは、既に今次大戦の始まる以前から我が國民には夙に認識されてゐるところである。一、二の例について觀るに、我が國に於て使用する屑鐵及び石油の殆どは米國に依存してゐたのである。即ち米國より輸出の屑鐵は、日本がその大半を占めてゐたことは第一表の示す通りである。

第一表 米國屑鐵仕向地別輸出高 單位：千噸

國別	一九三七年	一九三八年
日本	一、九〇五	一、三三二
英國	八四三	三九〇
伊太利	三八一	四三七
獨逸		八八
和蘭		一四三
計(他共)	四、〇九三	三、〇〇四

出所：日鐵參考資料、六卷、二〇號

その他第二表に示す如く、英米ブロックに依存の物資としては、輸入総額に對しニッケル一〇〇%、アルミニウム九八%、銅九七%、鋼材八八%、屑鐵八四%、原油及び重油七四%、燐鐵六三%、鉛五五%、亞鉛五三%、棉花四五%、鐵油二三%、羊毛一四%であるが、これら諸物資は殆ど南方圏にも産出されるものであり、必ずしも歐米に依存せねばならぬものではない。南方の建設が著しく進捗して、日本の戦力増強に敵米英は深く畏怖を抱くのは此の點である。

第二表 日本對歐米重要原料輸入表 (一九三六年)

輸入總量	ニツアルミ	ケルニウム	銅	屑鐵	原油及重油	燐鐵	鉛	亞鉛	棉花	鐵油	羊毛
ヨロツパ	一五	一八	一	二五	一六	一	一	一	一	一	八
輸入總量	三六	三〇	四七	二六	三九	八〇	四三	二五	七〇	一六	一八

177

外調第二五九號

昭和二十年一月六日

台湾總督府外事部長事務取扱

齊藤



内閣總理大臣官房 御中

「南支南洋時報」第四十號送付件

首題冊子 一部御參考迄及送付候也

追而本冊子掲載記事中心ハ每號部外秘ノモノ有之  
防諜上之ガ取扱ニ関シ既ニ充分御留意ノコトト存スルモ  
時局下一段ノ御注意相成度申添候

裏面白紙

第一表 米國屑鐵仕向地別輸出高 單位：千噸

國別	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九三八年	一九三八年
日本	一九〇五	一、三八二	獨逸	一九三七年	一九三八年
英國	八四三	三九〇	和蘭	八八	二二一
伊太利	三八一	四三七	計(他共)	一四三	二〇七
出所：日鐵參考資料、六卷、二〇號				四、〇九三	三、〇〇四

その他第二表に示す如く、英米プロツクに依存の物資としては、輸入總額に對しニツケル一〇〇%、アルミニウム九八%、銅九七%、鋼材八八%、屑鐵八四%、原油及び重油七四%、燐礦六三%、鉛五五%、亞鉛五三%、棉花四五%、鑛油二三%、羊毛一四%であるが、これら諸物資は殆ど南方圏にも産出されるものであり、必ずしも歐米に依存せねばならぬものではない。南方の建設が著しく進捗して、日本の戦力増強に敵米英は深く畏怖を抱くのは此の點である。

第二表 日本對歐米重要原料輸入表 (一九三六年)

輸入總量	ケルニウム	銅	鋼材	屑鐵	原油及重油	燐礦	鉛	亞鉛	棉花	鑛油	羊毛
一、五	九〇	一、四七	一、四七	三、九三	八〇	四三	一、五三	三〇	一、六四		
出所：下田博著、南洋經濟論、一五八—一九頁											

アメリカ合衆國

カ	ナ	メ	中	南	中	及	計	輸入總額に對する比率%	單位	出所
〇二	〇九	〇六	一	一	一	一	八八	二〇〇	原単位	下田博著
一四	一四	一四	一	一	一	一	二五	九〇	原油	南洋經濟論
一四	一四	一四	一	一	一	一	二五	九〇	重油	
一四	一四	一四	一	一	一	一	二五	九〇	燐油	
一四	一四	一四	一	一	一	一	二五	九〇	棉花	
一四	一四	一四	一	一	一	一	二五	九〇	羊毛	
一四	一四	一四	一	一	一	一	二五	九〇	其他	

アメリカの物量に對し、毫も畏怖する必要はないが、その物量の無限大を信ずることは敵の宣傳に乗ぜられるものである。又それが天文的數字なるが故に之を輕視することも當らない。勿論最近に於ける我が物量方面も、敵の物量に抗すべく國內のすべてを戦力増強に集中し、一大増産を期してゐるが、物量は人力によつて始めて威力を發揮し、人力はその精神状態、もつと明確に云へば、今日に於ける國家總動員戦は國民の戦闘意識の如何によつて決せられるからである。これは戦ふ上に於て最も貴重なる要素であるが、世界に冠絶した我が國民の國家觀念と、戦闘意識については、決して敵米英の追従を許さず、又眞似んとしても及ばざるところであり、且つ俄かに作り上げようとしても企て得ないものである。





二 世界石油産出状況

世界に於ける石油の埋蔵地域は、大陸と大陸とが互に近接したところの底地に形成した海洋の「ヘリ」の周辺に集中されてゐるが、この重要産油地帯は次の如く三箇所に分けられる。

- (イ) アフリカ、歐洲、アジアの三大陸に圍まれた地域
  - ソヴェト聯邦の南、イラン、イラク、アラビヤ、エジプト各國の豊富な油田
  - (ロ) メキシコ灣、カリブ海の周邊地區
  - 米國南部、メキシコ、ベネズエラ、コロンビア各國の大油田
  - (ハ) 東南アジアと濠洲との中間地區
- ボルネオ、スマトラ、ジャワ、ニューギニア等の各油田
- 右の三地域中、一九四〇年に於ける世界産量の六三%は米國によつて占められて第一位にあり、ソ聯は一〇%で第二位、東印度(北ボルネオを含みます)は僅かに二・八%に過ぎないが、石油資源に恵まれることの薄き大東亞共榮圈内に於ては最大の産地であり、共榮圈全産量の八五%を占めて極めて重大な意義を有し、東印度に於ける資源としても最大なるもの、一つである(第三表参照)。東印度の外にビルマ、北ボルネオがあり、要するに南方諸地方に於

てはボルネオ、スマトラ、ジャワ各島及びビルマ國の四地方しか産出されず、ニューギニア島には相當の埋蔵量を豫想されてゐるが、未開發の状態である。

第三表 世界各國の石油産量比率 (一九四〇年)

ア	メ	リ	カ	六三・〇	東	印	度	二・八
歐	州	聯	十・〇	其	他	二・七		
ソ	十・一	(中、ビルマ、三・七	北ボルネオ、三・三註)					
ル	マ	ニ	ヤ	二・〇	南	北	ア	
其	他	〇・九	ベ	ネ	ズ	エ	ラ	
ア	ジ	ヤ	九・二	メ	キ	シ	コ	
イ	ラ	ン	三・七	其	他	四・三		

出所：字井市之助著「石油讀本」  
(註：米國政府發表數字は新南方資源より)

三 戦争と石油

近代戦に於て油田を確保するか否かは、勝敗に深刻な影響を與ふるものである。従つて我が國にとり南方地域の



油田は極めて重要である。幸に今次の作戦に於て南方の石油資源を早急に確保し得たことは、戦略的及び資源的にみて、我が絶対不敗の態勢の基礎を築いたともいふべきである。

アジア大陸は世界陸地の三分の一、人口は三分の二を占めながら、石油は世界産額の十分の一にも達してゐないといふ事實に對し、豊富なる南方の油田に思惑して、之にのみ依存して安易感を抱くものは無いであらう。現在二億超の石油を生産するアメリカに於てさへ、尙これを以て満足とせず、ベルンヤ、アラビヤ諸地方に於て英國と油田の奪取や送油管敷設権の獲得につき石油戦を展開してゐる。従つて一千超の石油資源にのみ頼る過度の樂觀は禁物であり、國內に於ける不急方面は極力消費を節約し、代用燃料を以て充足し、強力なる消費規正によつて、一滴でも多く石油を第一線に送り、以て忠勇なる我が將兵の要望に應ふべきである。

尙、石油の生産量のみを以て直ちに勝敗を決すると思ふのも早計である。何となれば、生産量の總てを戦争に使用することは不可能であり、更にその他種々なる制約を受けるからである。

石油の用途はその範圍頗る廣いが、その中、飛行機、自動車、船舶等に使はれるのが最も重要なものとされてゐる。石油はそれらの動力源となつて速度が高められるからである。戦争は一面から見て速度の競争である。速度の優劣によつてその勝敗が決められるものであり、謂はゞ近代戦は石油で戦争し、石油なしの戦争は既に考へられぬのである。

石油の重要性は第一次世界大戦によつて深刻に鮮明に浮び上り、石油資源に恵まれないフランスの宰相クレマンソーをして、石油の一滴は血の一滴と嘆せしめ、また米國大統領フーバーは石油を制するものは世界を制すとも謂はれ、その後石油の重要性は益々加重し、特にその軍事的意義は、第一次大戦に比し、比較にならぬ程重大であり、この傾向は今後愈々顯著ならんとしてゐる。即ち今日の如き立體戦に於て、近代戦の花形たる航空機によつて制空権を握り、機械化部隊によつて陸戦が決められ、艦船の活躍によつて海上権が確保せられる。此の航空機、戦車、艦船は何れも揮發油、重油、潤滑油等の石油精製品によつて動かされ、如何なる作戦計畫といへども石油を考慮せずしては成り立ち得ないのである。従つて石油こそはこれら兵器の活力源であり、血であり、生命ともいふべきものである。

單に戦場のみならず、銃後の生産戦に於て、鑛、工、農、漁業、並びに交通運輸等の各方面に機械油として、又は燃料としても不可欠な要素である。世界に於て生産されるエネルギーの五分の一は石油によつて供給されてゐる程であり、石油が近代戦の寵兒となつたことは當然のことで、吾人の石油から受ける恩恵はまた測り知れない程である。

#### 四 南方の石油

南方各地に於ける油田の産出量は凡そ一千萬噸(第四表参照)にして、これらの諸地域は現在全部皇軍の制壓下にある。

昭和十一年以前に於ける我が國の南洋産石油輸入量は、備かにミリ油田やタラカン油田から五十萬噸乃至七十萬噸に過ぎず、一千萬噸といへば非常に老大的の如くに思はれるが、當時我が國の需要量は専ら米國に依存してゐたので、南方よりの輸入は少かつたのである。然るに今日東亞に於て必要とする石油は全部共榮圈内の生産に俟たねばならぬのであるから、一千萬噸は老大的なる量ではないが、此の量は「大東亞の自給自足が一應出来る」(註二)のである。然しながら、敵軍の敗退に當り、油田地帯の徹底的破壊焼却からその復舊に相當の時日を費し、且つ今日の如き老大的なる消耗戦に於ては、石油の消費も必然的に著しく増加するので、若し大東亞戦勃發前の如き生産能力を以てしては、到底充分に需要を充當することは困難である。殊に南方諸地方は電力の普及が充分でない爲、住民が必要とする燈油は、彼らにとり絶対に生活必需品であり、更に共榮圈内各地の消費量を加へたら、この量だけでも實に莫大なるものである。(註二)

幸に緒戦の大戦果に次ぎ、我が國の技術、人員、機械設備等を動員して復舊を急ぎ、既に遙かに戦前の水準を超えて「東亞に於て戦争を遂行する上に於て、石油戦には何の不安もない」(註三)までに到達してゐるのである。著増の原因としては、今まで支配權を持つた英米側資本の利潤確保策から、その開發が抑制されたものであり、然るに

今日に於ては利潤は問題とならず、只管敵の原動力補給の一翼を擔つて、増産に挺身してゐる關係上、増産は當然のことで、之は敵側の最も畏怖するところであり、我が石油戦に不安のないのはかかる増産があるからである。尙、南方には調査未完の有望産區が廣大あり、且つ從來の油田は出油層が淺く、深度四百米乃至一千米であるから今後之を深掘すれば相當増産の見込がある。殊に既に石油の徴候を知られてゐるタイ國、及び幾多有望なる試掘油田を保有しながら、政策的に世界の眼を蔽うて來たニューギニヤこそは、最もその將來を刮目されるものである。而して今後の問題は生産面よりも寧ろ輸送に大きな障害が残されてゐるのである。(註四)

第四表 南方油田産出状況 (一九四〇年)

ジャワ・マドラ	八三九、四九五
スマトラ	五、二六八、七〇九
ボルネオ	二、七八五、〇〇〇
南ボルネオ	一、七九三、〇〇〇
北ボルネオ	九九二、〇〇〇
モルツケン	九七、六四一
ビルマ	一一二、〇〇〇
計	一〇、〇二、八四五

一 東印度の油田

東印度に於ける石油の埋蔵量は一億三千八百萬噸にして、米國、ソ聯、イラク、イラン、ベネズエラに亞いで世界第六位、三・四%を占めてゐる。(第五表参照) その産出量は一九四〇年に於て八百萬噸、米國、ソ聯、ベネズエラ、イランに亞いで世界第五位で、二・七%を占めてゐる。

現在採掘されてゐる主要油田地はスマトラ、ボルネオ、ジャワ及びセラム諸島にして、特に最近の増加傾向は主として南部スマトラのバレンバン及ジャムビ兩油田の開発によるものである。而してこれら石油及び石油製品の約八〇% (一九三九年) は輸出に向け、残りは領内に於て消費されて居たのである。最近の産出状況は第六表の如くである。

第五表 世界石油埋蔵量 (單位—百萬英噸)

國名	埋蔵量	世界總埋蔵量に對する比	國名	埋蔵量	世界總埋蔵量に對する比
米	二〇二九三	四九・九	イラ	三九五〇	九・七
ソ	五五〇七	一二・五	イラ	二九九〇	七・三
ベネズエラ	二二五・一	五・八	英	二九二	〇・七
東印度	一三八〇	三・四	ベル	一五七	〇・四
ルーマニア	一三・一	二・八	アルゼンチン	一一一	〇・三

ポロランド	六九〇	一・七	獨逸	一・三	〇・〇
コロンビヤ	五〇三	一・二	世界總埋蔵量(其他共)	四、〇六六・九	一〇〇・〇
メキシコ	四九・三	一・二			

第六表 東印度(舊蘭印)各地油田産出状況 (一九四〇年)

地方別	油井數	産出量	%
中部ジャワ	三三〇	八三九、四九五	一〇・六
東部ジャワ	一	一三六、〇〇〇	一・七
スマタラ	一、五二〇	七〇三、〇〇〇	八・八
バレンバン	一、三五〇	五、二〇八、七〇九	六五・六
ジャバ	一、一七〇	三、〇七七、五五〇	三八・五
東海岸	一七〇	一、二一〇、三九八	一五・四
アチ	一七〇	一五六、四八八	二・〇
ボルネオ	八八〇	七六四、二六七	九・五
ボルネオ東部	一	一、七九三、一四八	二二・六
タラカン	一	九八三、八九九	一二・五
		八〇九、二四九	一〇・二

モルツケン	五五	九七、六四一	一一
計	二、七八五	七、九三八、九九三	一〇〇〇
(一) ジャワ油田			

東印度に於ける石油発見の歴史はかなり古く、石油は原住民間に於てはランツーンと稱して使用してゐた。然し之が企業化は極く最近の事で、一八六〇年以後世人の注目するところとなり、その急速なる發展は一八九〇年頃からの事である。

ジャワに於ける石油の探掘は、一八七二年北部チレボンのマジャに於て始めて鑿井が行はれたが、これは失敗に終つた。其の後一八八七年ドルツセ石油會社が設立せられ、スラバヤ附近のジャバ・コタの油田の探掘を開始して好結果を収め、一八八九年始めて石油を市場に出したのである。同社は一九一一年ロイヤル・ダツチ社に合併されるまでは、事實上ジャワ唯一の石油生産者であつた。

(二) スマトラ油田

スマトラに於ける最初の油田開發は、北部タランカット油田で、一八八三年スマトラの一農園主サイケルがテラガ・トンガルに於て有望なる油田を掘り當てたので、一八九〇年和蘭の實業家ケスラーを社長とするコーニンクリック石油會社を組織した。之が所謂ロイヤル・ダツチ石油會社である。

米國のスタンダード石油會社はバレムバン油田開發のため、一九一二年ネーデルランセ・コロニアル石油會社を起し、コーニンクリック社の見捨てた鑛區を買収して鋭意開發に努力した結果、遂にスマトラのバレムバン州内に於て豊富なる油田を掘り當て、最近まではスマトラ産油の過半を占めてゐた。

其の後ジャムビ油田を繞るコーニンクリック社對スタンダード社の二大トラスの對立により、和蘭政府は一九二二年半官半民の蘭印石油會社を設立し(資本金一千萬盾)、探掘はバターフェ社がその任に當つて居たのである。

(三) ボルネオ油田

ボルネオ全體の石油生産は約二百八十萬噸にして、全東印度諸島の三〇%、世界産量の一%を占めてゐるにすぎないが、今後の開發に俟つべきところが多いので、東亞共榮圈内に於て占める割合は相當大きく展開されることを豫期し得るのである。

1. 南ボルネオ

南ボルネオの油田は東海岸一帯に分布し、東北部のタランカタン油田、南東部のサマリダ油田及びサンガサガ油田等があり、年産百七十八萬噸にして、全蘭印の二三%を占めてゐる。油質は重油が主で、ガソリン分はスマトラに比し稍劣るが、これは精製技術の關係で、若し近代的技术、装置を以てすれば、直ちに優秀なもの

を獲得し得る見込である。

サンガサング油田の開発は、一八九六年和蘭技師メンテンなるものが、クテイ沿岸に油田を試掘したのに始まり、頗る良好なる結果を得たのである。これは直ちに英國資本家の着目するところとなり、一八九八年シエル・トランスポート・カムパニーの出資により、蘭印産業貿易會社が設立せられ、メンテンの鑛區及びバリクパバン灣よりクテイ河に至る地帯の油田を獲得して事業を開始し、之が最近までボルネオ第一の油田といはれてゐるサンガサング油田である。同社は相互の利益擁護のため、一九〇七年コーニンクリック社と合併してパークーフセ石油會社を設立したのである。

2 北ボルネオ油田

北ボルネオに於ける油田で現在開發されて居るのは僅かにブルネイのセリヤ油田と、サラワクのミリ油田のみで、兩油田とも海岸に近いところにある。

(1) セリヤ油田

セリヤ油田は一九二九年四月に發見されたもので、開發以來尙日淺き新油田であるが、産量は旺盛である。油帯が海底に偏在してゐるので、海底油層の掘鑿をして居るところもあり、ある油田の如きは海岸から二五〇米の沖に存在し、又海岸より斜掘法を行つてゐるところもある。

(2) ミリ油田

ミリ地方に於ては往時から原住民が堅穴を掘つて採油してゐた形跡があり、古くから知られてゐたのである。

一九〇九年アングロサクソン石油會社によつて採掘せられ、最近では産量が次第に低下の傾向にあり、中には既に涸竭してゐるところもある。

然しながら過去に於ては、東洋に於ける英國アジア艦隊の重要な給油地として實に重要な意義を有し、今後も之を再建して無敵海軍の重要な給油地として再生するものと思はれる。

最近に於ける北ボルネオの産出量は第七表の如くである。

第七表 北ボルネオ油田産出状況、單位一千噸

年次	セリヤ油田	ミリ油田	計	年次	セリヤ油田	ミリ油田	計
一九三五年	四三	七	五〇	一九三八年	五七	三	六〇
一九三六年	四二	七	四九	一九三九年	五七	二	五九
一九三七年	三三	七	四〇	一九四〇年	六八	一	六九

ニビルマの油田

一六  
ビルマ油田は西部に偏在し、イラワチ河の下流及びその支流チンドウイン河流域を中心とし、アラカン山脈及びベンガル灣岸地帯に及んでゐる。

一八八六年イギリス資本で設立された石油會社によつて、エナンジョン油田を開發したのが企業的經營の始まりで、爾來油田の探掘、製油、販賣とも全部イギリス系資本の獨占するところとなり、ビルマ人は全く石油事業に介入するのを許されなかつた。

第八表 ビルマ石油産出状況

一九三五年	一、〇〇九 <sup>千</sup>	一九三八年	一、〇四九 <sup>千</sup>
一九三六年	一、〇六七	一九三九年	一、〇八七
一九三七年	一、二〇三	一九四〇年	一、二二二

一九四〇年に於ける産量は百十萬噸にして、主なる油田はエナンジョン、シングの二油田が壓倒的で、全ビルマ産量の八割を占めて居る。各油田は原油の儘、ラングーン對岸のシリナム精油所で處理されるが、品質はパラフィン含量が多い。最近に於けるビルマの石油産出量は第八表の如くである。

五 結 び

以上を以て南方に於ける石油資源の様相を一瞥して見たのであるが、油田が東亞共榮圈内に存しながら、専ら英米蘭の資本主義によつて開發されて來たこと、而もその開發は東亞共榮國の需要充足を目的の下になしたのでなく、當初は主として蘭英米等の國際資本の爭奪裡に促進せられ、その後次第に提携の機運が濃厚となり、以て資本の獨占獲得に狂奔して來たのである。ビルマは殆ど英國の資本によつて經營されてゐるが、東印度に於けるその投資狀況は第九表の如く英米蘭の獨占である。然しながらその開發歴史は尙淺く、又政策的に開發が歪曲せられ、抑壓せられたところもある。各油田は戰禍のため或る程度までの破壊は免れなかつたが、今後我が技術陣の強化努力により、平面的又は立體的に、將來發展の餘地は十分にあり、之が開發は頗る期待し得るものである。

第九表 東印度石油投資額

和 蘭	二四八、四八〇 <sup>千</sup>
イギリス	一一三、六〇〇
アメリカ	一一〇、〇〇〇
日本	一八〇
民間側計	四八二、二六〇
政府	五、〇〇〇
總計	四八七、二六〇

註 (一) 昭和十七年二月四日貴族院に於ける岸商相の演説より

(二) 渡邊四郎氏の論文によると、南方に於ける燈火用油の必需量は次の如くである。

東印度及びフィリピン 三五萬トン タイ及び佛領印度支那 一〇萬トン (昭和十七年五月六日、日刊工業新聞による。)

(三) 昭和十七年十二月十一日、日獨伊軍事同盟強化新協定締結一周年記念日に於ける盟邦記者團に對する東條首相談話。

(四) 檢査は輸血路以外その設備も又重要である。商船隊中油槽船の總船腹に對する割合は次の如くである。

(一九三六年)

英國 一二・三% 米國 一九・〇% 日本 四・五%

〔附記〕

本稿完結後に於て入手した情報によると、最近のタイムズ紙にク比島を指向してと題する論説に「米軍の比島作戦は、比島の位置が日本にとつて不可欠な石油供給源たる東印度並びに占領地マライ半島への海路の中心を占める直接の要處にあるからだ」と、發表されてゐることを附記して置く。

〔蕭〕

### 佛印の家畜育成狀況

印度支那に於ける數ある家畜は組織立つた管理をされて居らず、そこには植民者、農夫を通じて佛人の専門家が

居らず、その育成は全く自然のままに放棄されてゐると云つても過言ではない。

佛人が印度支那に入り込む前まで家畜がどんな風であつたか確としたことは判らず、家畜の類別もなく其の數額も知られてゐず、どんな風に科學的な訓練をされてゐて、生産方法がどんな風であつたのか、その利用がどんな風であつたか少しも判明しない。他方、育成方法がカンボジャ人、ラオス人によつて違つてゐたのか、どうかの據るべき記録もない。家畜の流行病をどんな風に豫防したのか、豫防せずゐたのか、其の被害はどんな風であつたのか、それらも少しも判つてゐない。

植民佛人は貸貸家畜の制を採用した。この制度は十五年繼續し來つたが、果してどんな結果を生んだであらうか。記録のない時代にも安南人、クメール人、タイ人は野牛、牛、馬、豚、家禽たる鳥類を育養してゐた。たゞ羊のみは近時に至つて移入されたもので、未だ確たる落付きを見せてゐない様である。

クメール人と安南人とに取つて野牛と牛との育養は絶對的のものであつて、勞務にあたる生産の協力者なのであつた。その肉の消費は安南人にとつては第二義的のものであつたし、クメール人にとつては肉は宗教上で禁制品であつた。だからして肉の大部分はラオス人の重要な食糧となつてゐた。

野牛の育成は儀式のときの犠牲たらしめやうとする爲ではなく、如何なる家畜も其の乳を利用するのではなかつた。





これらのことは各部落によつて大した相違もない。然しその内に牛肉に需要が集まるやうになり、牛から攝る乳にも需要が起るやうになつて牛乳はその所要量を非常に増すことゝなつた。他方、奥地へ入つた移民は仕事を初めた、山間の溪谷に小家畜群を放ち、そこには小流が通つてゐる家畜群が他へ逃れ去らないところを選ばうになつた、安南の多くの場所にこれが行はれた。これがだん／＼と數を増し、カンボジアにも擴がつた。安南、ラオスではその餘剩となつた家畜をコチン支那とトンキンに送つた、これはそのまゝに今日に及ぶ重要事となつた。かくしてこの家畜の積出しはサイゴン、チューラン、ハイフォンから支那、フィリピン、マライ半島にと及ぶやうになつた。

トンキン、ラオス、カンボジアの原産地で馴された牛は原産地で屠殺者の手にかゝつて肉、其他となり、他に移出されるやうになつて、いつしかこの印度支那は家畜の一大輸出國となつた。

家畜の一にポポ・プバリン（牛と羚羊との雜種）といふものがあるが、これはもとから相當の數を持してゐたのに、この最近の十年間に驚くべき巨量を出すやうになつた。

印度支那全體を通じて豚肉は滋養の源泉でもあり、その肉は固有の紅色を帯びた佳品であり、魚肉と共に廣く分布されてゐる。この糞はヌオック・ナム（Noc-man）とブラホック（Pahoc）を含み肥料分に富むのであるが、南部佛印では顧みられてゐない。早くから支那ジャンクは季節風を巧に利用してこの豚をデルタ地帯に運び、進んで

はマライ半島から香港へまでも運び込んでゐた。後に輸出業者は汽船を利用するに至つた。運輸はかくして年々いろいろと増すに至つたので、ジャンクの取扱數は振はぬやうになつた。それに地方の人口が増加して輸出に廻す分も漸減する傾向となつた。兎も角も印度支那の貨賃による豚養殖は世紀の初に興つて急に増大するに至つたものである。

馬の各州における分布の種類を瞭にすることは非常に困難なことである。馬は各州に廣く分布されてゐるが、就中、養育してゐるのは安南馬（Poney annamite）である。この馬は小型で均勢がとれて居り、外觀は極東種に酷似し、比較的に他種の體格、才能、性質を多く引き、原種からはやゝ退化して劣つた類似をしてゐるので、外觀からしては近代旅行者の伴侶たり得ない。

この安南馬はバタンバンや、コンボン・チャン地方（カンボジア）に居たもので、それがこの二十五五年程の間にダラツクやコンタム（安南）やトラン・ニンや、ヒュバン（ラオス）に移つたものである。馬たる資質として大切な各部の良い發達、均勢のとれた體格、偉れた體力を備へてゐるのであるが、それをよく看破するものは少ない。其の後、この養育に一大危機があつたが、その中心地ではよく、これを維持して次の子孫を絶やすやうなことにはならなかつた。此の馬の飼養を各地で放棄するやうになつたのは祖先たる馬種に劣ることを考へられたからであるが、二つの補足があつて舊に復することゝなつた。道路が開かれて昔、限定されてゐた區域から引き出すことが出来る

やうになつたこと、荷車を曳かすことゝなつたことがそれであつて、牛の曳く荷車、自轉車、自動車と共に道路を通行することゝなつた。

換言すると、印度支那に於ては馬に關する賃貸制は馬を貧弱ならしめ種を漸次に退化せしめたとも云へるので、この點で安南馬の育養は危機にあるのであり、今にして、これにより一層の關心を持つ要があるし、關係當局も亦、良識を發揮せんことを望まれるのである。

家禽の育成は連年絶えざる發達をなしつゝあるやうである、主長達の抜目のない先見、少しづゝの堅實なる進歩振りで、假小屋にての訓練もよく行届き、家禽の育成は人口の増加と共に、非常なる増加を見せるやうになつた。かくて餘剰分は食糧供給として重要な輸出品目を受け持つことゝなつた。近時、鳩、牝雞、家鴨と殊にそれらから出る卵は食糧供給としては、その土地の中心地を充した上に、南支那や、マライ半島や、同じくフランスや、英國の工業都市に及んで一大貢獻をなしてゐるが、印度支那に於ける養禽業は確かに將來性を有つてゐる。

技術的に言ふと養禽業は次のやうな遺り方であつてゐる。印度支那人の一般家内飼養は各地方によつていろいろの遺り方に分れてゐるが、結局は經濟的觀點からみて、早熟早老、目方と截切との不足、周到なる用意の不足等からして、その成績は良好とは云へない。だから飼養数は多くても實際の効率はすつと割引される。

フランス植民人の大部分の家庭及び多數の印度支那人養禽家にあつては、いろいろと改善が行はれ、血統を純に

することを重要なりとしてゐて、原初種の選擇に重點を置き、適良なる發達と改善とに力を入れて、これが改良品種の生産を計つてゐる。歐人飼養家と印度人飼養家とは巧みに經營してゐるのであるが、其の數は田舎の人口に比して甚だしく、しかもあまり伸展してゐないが、これは一般的に言つて飼養方法及び力の入れる點に、又、飼料の點などで、専門家の注意を受けねばならぬことがあるのではないかと考へられる。大半の百姓は無智で、その努力の仕方が逆方向的に走つてゐるやうであり、有効なる指導もあまり効果を奏してゐない、又質疑するといふ熱意もあまりない。獸醫部は全區を五區に分ち、各々が家畜飼養の設備を有してゐて、根本的に混種を作つて良種を殖やすことに努め、機會あるごとに、これを宣傳して飼養家の啓蒙に盡してゐる。

今、各賃貸家禽の數々を、その擧げ得べきものによつて之を示すと、次の如き近似數を得る。

牛	二、〇〇〇、〇〇〇	牝	山	羊	三五、〇〇〇
猪	一六〇、〇〇〇	羊			八、〇〇〇
豚	三、〇〇〇、〇〇〇	象			一五〇〇
馬	七五、〇〇〇	禽			一五、〇〇〇、〇〇〇

これらの數字は家畜、家禽の數を示したのであるが、この價格は五億ピアストルと推定される。

印度支那經濟聯盟の一博士は現時の状態を佛人の相當權威ある者につき、これを五箇所に於て觀察して、賃貸家

畜の將來性について、それが絶えず需要を考慮し、肉を屠殺者に処理させ、豚肉料理を盛んにし、牛乳を生産し、かくして活氣を充溢せしめるなれば印度支那の需要を充分にして餘剰を輸出せしめ得ると斷じた。

この處見と少し異なるものに、この最後の意見たる輸出はあまり重視すべきでないとするのがある。輸出のことは政治上からして、經濟上からして、又衛生上からして一種の僥倖を得やうとするに過ぎない。それは區別なしに凡ゆる地上の家畜を殖やさうとすることであつて指向の漠然たることを示すに過ぎない。

人々はやがてこの飼育が幻滅の悲哀を暴露することに氣付くのではなからうか、責任がぐつと重加するのであるから助力者は豚生産の増加に努めても、加速度の増加となると各方面に力が分散して順應性を反つて稀薄ならしめるであらう。牛と野牛と、馬との各飼育は決して一樣でない。又飼養者は得てして、一般の大多數の爲めに計るといふことには無關心になり易いし、それに奥地の開拓とも深酷なる張り合ひをせねばならぬこととなる。

今日の急務は、第一にはより同類型のもの、生産と改良に、そして、それは同時に資質の向上でなければならぬ。これに對する規定は遲延することなく主要なる種類の採用に向けらるべきである。次いで大切なことは關係ある地方の道路を良くして運輸を速かならしめること、かくして、あらゆる部面を、より合理的にして各種の萬全なる發展を期せねばならない。

この二つの提言を綜括すると次のやうなことになる。

一、選擇を吟味して形式を單純化すること。

二、これが實現の期間はなるべく短期間とし、これを農園に及ぼすことを擴大すること。

かくして劃時代的の施策を最も早きに行ひ、家畜の改良を完了し見學者をして印度支那が成就し得たる「良き見本」に接せしめ、これによつて、又、賃貸家畜をなせる殘餘のものをして、これにならつて早き期間にこれを實現せんことを望むのである。今日切要なることは良い結果を一般化せしめることである。又土地と事情とを適切ならしめて、全印度支那を一丸とする聯盟を取り結び、これをアメリカや中央・南アメリカに見るやうな一大養畜機關たらしめることである。そして小經營者を糾合して中庸を得たる飼育法を普及して作業の能率を向上させることを定むべきである。

又植民農夫と村民達に働きかけて、十年乃至十二年間の試験成績表を作り、それには基本的事項を詳細に記し、總ての養鶏を志す者達に理解を完からしめ、心得て居らねばならぬ指針を印刷して頒布することも一つの方法である。

品種の選擇は總ての改良點を基本としてその家畜の飼育に於て成就することの出来る種類を選ぶべきである。随分多くの、枝葉的に互つた缺點あるもの、實際に「雄」として力の無くなつたものが飼養されてゐるが、これは何よりも前に淘汰せねばならない。生殖用として優秀なものをよく育成し、種馬の良いものが他の地方にあり、それが

餘裕のあるときは借りて来て、良い種付を計らねばならない。

二六

選擇の完了は結局は「種とり」にある。だが、それには宣傳に迷はれずによく自分で吟味するものでなければならぬ。これは大切なことで選擇は重大なこととなる。數量と比率との具合、どんな變形となるか、血液が精純であるか、營養の状態、出産、一般衛生上に欠けることなきや等の吟味は忽かに出来ない。

「種とり」で力を入れる點は血の純度で、これは生粹のものを得るのが最もよいのであるが、大抵は四分の一の純度位で、専門家の間でも二分の一の純度なればよい方だとされてゐる。これが進んで四分の三位の純度になると非常に立派なものとなる。

家畜を絶えずその傳染病から保護せんとしたる努力は四十年間に非常に美事な實績を示してゐる。

特に「角を有する家畜」の牛疫で斃れた數を示すと次の如くである。

一九〇〇年 約一五〇、〇〇〇頭、一九二〇年 約七五、〇〇〇頭、一九四〇年 約五〇〇、〇〇〇頭

シンド種とオンゴール種とは全印度の牛種の中で最もよく改良が行はれてよく調和のとれた良種とされて居り、肉屋はその肉質を賞め乳質も適當なりとしてゐる。然し優秀性は確かに拔群であるが、適合性が總てに互つてゐるわけではない。或る地方にはその原種を歐洲種、アメリカ種、濠洲種からとつた雜交のもので非常に強壯なものもある。これらは地方産のものに配してその早熟性と質の精緻さと、肉色の光澤の良さ、それは到底印度牛では得ら

れぬものを攝ることせねばならぬ。

野牛の改造は今まで印度支那で全然等閑に付せられてゐた。これら野牛は稻の耕作と森林の伐採にのみ従つてゐた。その肉は原住民の消費に充てられ、その皮は一般には相當に買はれてゐた。

これが荷車用として、もつと速い動物や機關に取つて代はられるやうになつてからも相當永い長月を経た。だがこの野牛による交通機關が今日でも歐洲の或る國々（イタリー及バルカン）で使用されてゐる事は牢記して置かねばならぬ。

これは選擇の方法によつて土著種の多數の中から調和のとれた良種を導き出し、次にはそれに印度種の中位のものを雜交させるべきである。

馬の良種の中で、ヘノイやサイゴンの競馬場に入出入するものゝ中に優秀なものゝあることは、獸醫がそれらを種馬として指定することによつても證據立てることが出来る。これらは指導がよいと人語を正確に解して活動し得る優秀馬に誘き得る、周到なる考慮を拂つておけば後悔するやうなことも少い。軍馬や官用の馬として採用されるに至らぬまでも輝きある良種たることを得る。

有能なる良馬のタイプとしては四分の一純血のアラブ種が推される、これは官に上納されることになつてゐて、傳播せしめ得る程には残つてゐない。

二七

豚の品種改良は印度支那の農家全體に關する問題である。現在では、ほんの少しの村のみで研究が行はれ、そこには模範畜豚場などもあり。特にコチン支那やトンキンでは、その明確なる結果が發表されてもゐる。これは保持と永久性だけに止まるのを成功とするのではない。

これについては雜交に多くの形があつて、それらがいろいろと研究されてゐる。この選擇のやりかたは各地方によつて區々であるが主たるものは三つである。コチン支那では、養豚がとくに優れてゐて、こゝでは仔豚にパークシヤ、ヨークシヤの四分の一純血や、半純血のものを得てゐる。トンキンや、北安南では、ムオンコン種や、隣接地の豚の流れ入るのを制限して、遠くから良種の適切なものを導入して出来る限り品種の取替をしようとしてゐる。カンボジアと南安南のある地方では夫れ／＼の品種に應じてパークシヤ種、ヨークシヤ種、タムワイス種の血統を導入せしめやうと計つてゐる。

これには尙ほ、全體社會の利益と經濟とも顧慮しつゝ、貧賤養豚の徹底的分布、良種の雜交を急がねばならない。雜交は需要のはつきりしたものより急速に行ひ、不適のものは整序を正して除外し、一定期間内に、形、骨格、數、性質の上に改善の實を擧げることが望まれ、その進歩の跡が歴然たる事實の上に示されることが肝要である。屠殺者と料理店とが屠る豚の數量は絶えず増大してゐる。衛生的に處理した豚肉の量を示すと次の通りである。

一九〇〇年、約二三五、〇〇〇頭、一九二〇年、約七〇〇、〇〇〇頭、一九四〇年、約一、三〇〇、〇〇〇頭

羊の問題は一番の難問である。羊の育成はフランス植民人にもあまり行はれて居らず、適當なる設備も施されてゐない。多くは試験的に行はれ、安南やトンキンの各地に現在百あまりづつで小群を成してゐるに過ぎない。だからして、これが決定的のものとなるにはまだ／＼時日を要するし決定は仲々困難である。現在ではどんな羊の種類が適良なのか決定することすら難しいし、地方の事情に應じて何を採用し、どんなものを紹介してそれが需要の満足に合致するやを定めることは容易でない、羊類の適良なる一定の型を發見することが先決の問題である。

牝山羊の飼育は割合に安易であるが、これは印度支那にあつてはあまり重要なこととなく改善を口にするのは未だ早や過ぎるやうである。だが他面、この牝山羊の飼育は牛乳の生産を多からしめる必要のあること、牝山羊に良種の乏しいことからして牝牛の飼育に代ふべきものであるかどうかには疑問を持たれてゐる。一體、この山羊は人々からして農園や森林の「可愛い掠奪者」と呼ばれてゐる位なのである。

牝山羊雜交の成績は種々の種類を通じてその體質と乳量が多いことで土著種を最も優れたりしてゐる。これは實際の結果も一致する。インド種の山羊はいろいろの型があるが、これの取り柄は馴らすのが樂なことで、これは最小限度に、所期する目標に近いものが出来れば僥倖とし得るに過ぎない。

家禽に關してはその目的に従つていろいろと觀點を相違する。家鴨の育成についてはあまり干渉したくない。こ

これは主として輸出の爲であり、それも支那人の消費に當てられてゐるからである。他面これには家禽流行病を未然に防ぐべき要請もある。この育成はある様式が定つており、顧客の希望をも入れねばならず、需要増加によつて急増加をも計らねばならぬことになるのである。

上記の家鴨に關することは卵の生産についても同じことが言へる。卵は輸出の爲めの産業である。それで、これは土地の合理性と利潤との關係から設備を左右されるし、卵は蛋白質の具合で黄色のものと色々分ける土地を要する。この卵はサイゴンを経て遠くシンガポール（今の昭南島）、香港にも輸出されてゐたもので、安南の工場から送られてゐたものである。鳥から出た羽毛は第一にコチン支那で處理されて、サイゴン、シヨロンの工場で整理される。

雑交で改善を計ることの急務に迫られてゐて、家禽小屋は土著種を経験によつて區別せんとしてゐるが、或る種のもは尙ほ計畫されずにある。鶯鳥、七面鳥、ほろほろ鳥、これらには家禽飼養術が巧に利用されて、各鳥類の脂肪が家庭工業として攝取されてゐる。これらも雑交によつて良種を得られるし家禽飼育は仲々に捨て難い。

家禽飼育の副産物としては、脂肪、皮、角、蹄、剛毛、産毛、腸が擧げられる。だからして鳥の数を増せば従つて多くの家畜から多くの産物が出る譯である。又皮剥ぎの技術を習練し、鞣すことが巧になれば出来た皮類を色々用途に充て得るのである。印度支那の皮は、いづれもフランス、英國、トルコへと市場が開かれてゐた。

現在、家禽飼育は産業的に行はんとすると、家庭的に改善して行こうとするので、重大なる衝突を惹起してゐる。

それは運び出しの點でも不安を孕む。これはゆる／＼と緩除されるのであらう。これも地方の中間級の飼育者に歩みよりを導くことが困難なのである。家禽流行病がはやつて損害を生ずると、獸醫は個人的にも總動員して精神力を盡くして之を防ぐに全力を盡す、姿勢は刻々に變化する。總じて獸醫の職責たるや組織的に進まねばならない。家畜病の蔓延は凡ゆる方法を盡して行はねばならないのであり、土地を多く管理する支配人は村中を經廻つて出来る丈の豫防方法を講ぜねばならない。

家畜の榮養を安定させ、絶え間なしに雑交を行ひ漸次に改良種を殖やし、組織的研究を總てに互つて行ひ、それは農學上、及び獸醫學上の見地からして行はれるのでなければならぬ。

つまり、質貸家畜に色々やりかたを用ひ、又各個の種類に互つて適切なる改良を施すことによつて絶對數を殖やす以外にはない。

この二つの目標に向つて進むに當つては如何なる支障があらうとも、漸を追ふてこれを實現することに全力を傾倒せねばならない。これには眞に有利なる改良點を把握して實行に向ひ、常に歐人と印度支那人とが遠大なる計畫の下に利用し合ふことによつて全般の向上を計るでなければならぬ。

このことは一般に恩恵となるやうな進歩を考へるでなければならぬし、同時に小飼育家や一般の農夫にもこれを均霑せしめるでなければならぬ。爲に耕作が再興され、田園の人々の生活事情が良好となり、同時に印度支那

大衆の經濟上の潛勢力をすつと高めることではなければならない。

佛人の植民人がこの十五年間に全印度支那に及ぼした良影響及び農家の小家禽に盡した功績を無視するとすれば、それは公正なる見とは云へない。或るものはその驚くべき良結果を享受してをり、その功績は充分に讃ふべきである。又政廳は國家的の事業として勇敢に施設を試みるものに充分なる協助をなし若し偶然の災事が起つたときなどには充分に保證するの途を講じて、その組織と維持とに十全を期せしめねばならない。

昔時には無かつた大小の搾乳所よりの新鮮乳の産出量は非常に増大した。即ち左の如くとなつてゐる。

一九一〇年、一、〇〇〇百立、一九二〇年、五、〇〇〇百立、一九四〇年、二五、〇〇〇百立

〔附〕西貢の食糧補給と殺菌乳

一九一四—一九一八年の第一次歐洲戰爭は、歐洲に於ける牧畜の操縦と同時にその獎勵方針に大きな擾亂を與へたばかりでなく、アフリカ、アメリカ、濠洲、アジアの貸貸家畜にも大きな影響を及ぼした（シベリアはこれより除く）。

眞の世界的の戰爭が一九三九年より引き起されたが、その損害の莫大さは世界五大洲を通じてまことに驚くべきものがある。

それで、貸貸家畜の荒廢と四散とか、土地經濟に及ぼす被害は甚大で、たとへば年々の農業生産もあまり大した

發展もせず、しかもこれに要する家畜の出生は如何に再組織に骨を折つても最小の限度を出せず、二年間の小家禽の出生は四年間の大家畜の出生とつり合ふといふ具合であつて、共にその最小限度を出ぬのである。

註 貸貸家畜の制 (Grazing) は十三世紀頃から歐洲に起つたもので資本家が資金を百姓に貸與して牛を飼養させ牛乳を搾らせ、て牛乳を經營し、百姓はその牛群を便宜使用して農耕に當て利益は略ぼ折半するやうにしてゐた。

こんな事情下にあつても増殖は一日も忽がせにすることを許さず、依然として到る所で増殖が獎勵されて居る。これは實に牛乳・肉こそは生命に關する重要事だからである。しかも又この選廢に當り得る動物は絶えずその多きことを望まれてゐるのに事實は恐るべき生産率の減少となつてゐる。

ベタン元帥は金言を垂れて「勉めよ、産ませよ、厩一厩にと」この言葉の適用はいろいろの指示と共に今日の畜經濟にとつて特別な意義を含んでゐる。

印度支那聯盟行政部は懸命の努力を拂つて食糧供給の危機を克服し、家畜群の増殖と改善とに努めてゐる。

これに關係する組織を擧げると、總督府經濟部の指示機關、土地組合經濟部、農業調査局、牧養者組合及び獸醫調査部と緊密なる連契下に動いてゐる。

デ・コックス海軍大將は、家畜飼養上の問題に關し非常に熱心で絶えず重要な指令を發し、且つこれが實際の經營振りについて各個人農家を訪ふてゐる。彼は一九四一年九月二十日にコチン支那の知事、M・リポールと共にタ



ン・ソンの種畜場を訪ひ、其の結果として家畜經濟上の諸種の問題に付き現況に適切なる事例に付き意見を發表してゐるし、コチン支那の家畜牧養については、該聯盟長が同じく諸種の計畫を樹て諸情勢に適切なる對策を施さんとしてゐる。

コチン支那知事のリポートルはコチン支那の「牛乳」の重要性を説き、特にサイゴンの食糧補給が、太平洋に戦端が開かれるに至つて一層に重視されるべきに至つた點を強調してゐる。

之れを要するに、從來地方に於ける牛乳生産、就中、南部印度支那の牛乳生産が兎角等閑視されてゐたことは事實なのである。

今一九三九年中に於けるサイゴンに於けるこれが取扱數量を挙げると次の如くである。

完全牛乳一二四、二三三、七〇二、七〇二、七〇二 砂糖分を容れずにコンデンス(濃乳化したもの)二〇、〇〇六 砂糖を容れてコンデンスしたもの三、三三三、七五五 固定牛乳二、三九八

その當時は需要が、割合に逼迫してゐなかつたのであるが、今日の需要は實に切實になつてゐるのに、しかも年々コチン支那の新鮮乳は減少の事實を示してゐる。

今、全牛乳の使途別による集計を見ると次の如くである。

一 歐洲人乳香兒の榮養料(使用が同一量なりとして)

年必要量一八二、五〇〇立(この四分の三を充たしつゝあるものとして一三六、八七五立)

二 安南人母體の榮養料、及び搾り零れを加へて

年必要量二七三、七五〇立(この二分の一が實際を充しつゝあるものとして一三六、八七五立)

三 安南人幼兒の榮養料

幼稚園二箇所、託兒所三箇所、育兒院二五箇所分

年必要量一、五九五、〇八〇立(この二分の一を充しつゝあるものとして七九七、五四〇立)

四 夏期、林間學校のフランス人幼兒、安南人幼兒及び青年のキャンプ用の榮養料

年必要量七三〇、〇〇〇立(この二分の一を充しつゝあるものとして三六五、〇〇〇立)

五 病院に於ける歐洲人病者の榮養料

年必要量八六、三五五立(この二分の一を充しつゝあるものとして四三、一七七立)

六 病院に於ける印度支那人病者の榮養料

年必要量二、一三六、七四三立(この二分の一を充しつゝあるものとして一、〇六八、三七二立)

總計 年必要量五、七八二、三四三立 實際使用量二、五四七、八三八立

この實際使用量なるものは平時に於て必要缺くべからざる量なのである。衛生當局の言ふところによると、この實際使用量は尙ほ一部に於て減少するを免れ難い。それはこの三、四に於て絶對的に増量を計らねばならぬからである。それで結局は安南人の幼兒を養育するにはその乳母の榮養を良くしてやらねばならぬし、進んでは、その手





段の一として豆乳、小麦乳等の代用品によることも考へねばならぬ事となる。佛人及び安南人の幼児に對しては行き互つてゐない。牛乳量は年最小限度一、三八五、二九八立と考へられてゐる。

一九一四年十一月五日、當時の總督は、公文書を地方長官に致して新鮮牛乳を生産する組織化の必要性を人民に訓へ不可缺の需要量を満足せしめねばならぬといふ意旨を説き、食糧供給は、これを貯蔵品として納めて仕舞ふ以前に一般に充分に行きわたらすやうに計らねばならぬと力説した。

コチン支那の知事は、サイゴン農事試験場長メスナード博士と共に、衛生的に新鮮乳を生産する計畫を實施せんとし首都の全需要を満足せしめんことに努めた。

一方、實驗室に於ける研究は遂に牛乳の殺菌を最低價格で行ひ得る事に成功し、これを地方に實施せしめ得るに至つた。獸醫部は家畜飼養上の重要な一解決策としてこれが普及に當つた。

コチン支那の賃貸家畜の中心の搾乳量は、牧養者の大半によつて行はれることになつてから、牛乳は多量に衛生的なものが得られることになつたのであるが、急にこれを地方に配達するといふことはなし得ずにはなつた。その爲に、この十年間コチン支那では努力の効果が充分に擧げられずにはなつたわけである。地方の獸醫部では施策を計畫的に樹て、見榮えはせぬが、がつちりしたやり方で功を期して、家畜流行病にかゝらぬやうに家畜を保護することに努めた。その方法はワクチンや血清を注射するやりかたで、これは主として印度支那獸醫官ジャコトット博士及びピナ

チヤング農事試験場長との勤勞によるのである。地方土着の牛群に、印度牛の血液を注入せしめることが大切な事が判明して、これはコチン支那の各種畜場で競争的に行つてゐる。又、コチン支那に於ける印度人牧養者及び農作者は牛乳の搾取に大童となつて、何時でもサイゴン、シヨン地方に之を送り、進んで同じくチアデイン地方にまでも及ぼしてゐる。

尙ほ印度瘤牛とその牝牛の搾乳量、地方種との雜種も之を看過することは出来ない。指令と指導とは充分にかゆい所までも行きわたつて、宣傳機關も忠實に之を守り、事ある毎に正確なる數字を示して獎勵に努め、チアデイン地方に對しては小家畜の詳細に亘り又雜種牛の搾乳量及び去勢した印度雜種牛等のことを記載してゐる。

安南農家は土著牛の搾乳を家畜經濟の上から有利なものとして、彼等の獨占體制のものとし、印度人搾乳者を除外することを計畫してゐる。サイゴンの搾乳者に殘されてゐることは、尙ほ外に衛生上の見地からの改善があり、彼等は傳統的のやりかたを株守してゐるのであるが、これらは地方々々によつて規律あるやりかたで、熱帯地にあり勝ちな舊習は之を改めねばならない。

牧養獎勵の結果は戦前の年には相當なものとなり、その最後の六箇月にはその結果が顯現して、一九四二年の五月二十二日には近代式牛小家の全完成が登録された。一九四一年十月の豫見では一日搾乳量八〇〇—九〇〇立とされたものが、一日最少限一、五〇〇—一、六〇〇立を證されるやうになつた。この搾乳量は季期の變化によつて一日

に二〇〇立宛の相違を以つて示されるものなのである。

全體としての量の問題は假りのもので不定のものではあるが、搾乳の量を改善するといふことは重要なことであり、その搾乳が健康なものであるといふことは榮養の點から、病者に對する點からして先決すべき事柄である。一九三九年頃までは印度支那では牛乳に最も必要な殺菌を行ふべき事を少しも意とせなかつた。だからして地方の牛乳は幼児や病者には不可欠なものとは考へられず、主として、大人の飲むものとのみ考へられてゐた。

其の上にサイゴン、シヨロン地方やデアイン地方の牛乳屋は、それ自身が板垣ひをした柵の内に粗末な設備をした牛小屋と住居を同じくしてゐた、かやうな古びた掘立小屋式の不完備なものであつたので、設備の改善等は思ひもよらなかつた。

然るに、乳牛の管理に改善を計ることがゆるがせにならぬことが考へられるやうになり、一種の管理が實行されるに至り、榮養にも意を用ひられるやうになり、搾乳とその賣買がサイゴン、シヨロン地方及びデアイン地方で確とした牛乳業者の手によつて行はれる事となつた。土地の管理は土地所有者に委ねられることとなり、これに反するものは財産處分をせらるゝこととなつた。必要な資金が投せられて模範的の牛小屋が建設され、種々の改善が強制され管理は着々と進んだ。

デアイン地方では牛乳屋の手でサイゴンの郊外に立派な一流の牛小屋が建てられるに至つた(一九四二年二月)。

この建物はデアイン—ゴバツプ—ホックモン國道五號に近く、サイゴンから十四軒にある公有地に建てられ、總ての設備は完備に近く、一文なしの搾乳者はその設備を荷馬車に積んで運び來つて加はつた。そしてこれらの一切の管理はサイゴンから派遣された獸醫の指揮に從つたのである。ハラスとデアインの者は安易を感じたが、遠く郷國を離れて來たものは兎角涙もろくなつてゐたが、牛乳屋全體に不穩な氣がたゞやうといふやうなことはなかつた。又、ビンデー—サイゴン—ホクモン鐵道線がトラン・チャン驛から此の地まで延長されることになつた。水の供給も至極便利で、各自の牛小屋の傍に掘井戸が設けられたが、それらの井戸は必要な水を深さ四米から八米に及んで年中たゞえてゐるのである。

叢林に至るまでの通路は草生地でありサイゴン河の右岸に沿ひ、其處に家畜群は朝に夕に草を喰ふのである。トラン・チャン市の牛乳商のものは建設の途中にあるが一六〇の牝牛と、それらの仔牛とを有し、それは四部屋に分けられてゐて、土地の周圍に區劃をつけることには相當の困難を感じてゐる。家畜の遊食する小牧場は *Camps* といはれる材木柵が設けられ、それには數條の小道路が通つてゐて、中央の建物からこの牛小屋を監督するやうになつてゐる。

これらの牛小屋はマラバル(印度)の牛小屋を少し近代化したもので、そこには日に二回水流を通し得ることとなつてゐる。搾乳は毎朝行はれ四時三十分初まり五時三十分で終り、午後は十二時半から十三時三十分迄の間に行

はれる。搾乳のときには牝牛の乳頭に小布を當てるのであり、搾乳者は短かい白衣を着け白い球帽を戴いてゐる。牛乳は熱湯で温められた桶に注がれ、次いでその桶は他の容器に移され、綺麗にして永久的の種痘を施されて検印される。容器はかくして牛乳商に送られ、計量されて漏斗状の篩に覆される。これは二十五立入りのアルミニウム製のものであるが、こゝで充分に殺菌される。

この容器は同じ場所、氷の充たされた冷凍箱に個々に入れられる。

これが済んでから牛乳はサイゴンの中央殺菌所に鐵道で送られる。

トラング・チャンの牛乳商は、搾乳の點では前述の Cochinchina 支那での公式的なやりかたと均ほ同じことを經濟的に行つてゐるのである。

新鮮牛乳を取扱ふ搾乳業者は牛小屋、一般施設、諸材料につき行政官廳の監督を受ける。然しこれは經濟上の點には及ばず、場所と設備とに關するものに止まり、それらは獸醫部の統制に服するので、獸醫部は牛小屋の衛生状態、新鮮牛乳の操作指揮に忠實に従へるや否やを調べるのである。

生産者は前述の如き指揮命令に忠實に服してゐれば、其他のことについては如何なる計畫を行はうとも至極自由なのである。

チアデインのトラング・チャンにはシヨロン州の例にならつて、ピン・トリ・ドングの事業を改善して模範的の牛舎

を建設したが、それは四〇の牝牛を收容する設備なのである。

サイゴン、シヨロン地方の行政部は風土と乳質との關係を研究して、サイゴン郊外の牛舎に色々施設せしめるところがあつた。

かくして、一九四二年七月一日にチアデイン州では制令を出して地方の搾乳をサイゴン郊外に集めて新鮮乳の徹底を期することとなり、主要なる道筋には鋪裝を加へた。

サイゴンの牛乳は、かくして朝と夕に嚴格なる時間表に従ひ、評價表に従つてカーン・ホイイの中央殺菌所に運搬されることとなつた。

(山 霞)

## 廣東金融事情概況

(昭和十九年第二・四半期)

### 一 一般概況

四月中に於ては日華兩當局の施策宜しきにより、前期末の物價大反落の後を受けて、人氣は全般的に低調であり、特に在庫高要申告十三品目中の處分物が出て、相場は軟調を呈したのであるが、商統會成立後の情勢見透しが困難

のため、買手見送りの状態にて市況は概ね不勢裡に推移した。

五月中に於ては環境に別段の變化なく、米價は軍並に關係當局の對策宜しきにより低落歩調を續け、雜糧も之に追隨して下押し、砂糖、綿糸布、生糸は品がすれにより底意が固く、商狀は區々ではあるが、一般に警戒氣分が濃厚で、商況は先月に引續き低迷裡に推移した。

而るに六月六日の反樞軸軍の北佛上陸は、歐洲大戰に於ける所謂第二戰線の形成實現と目され、財界に相當な衝動を與へたのであるが、下旬の湖南作戰に呼應して、南支派遣軍の北上作戰が開始され、一方新米の出廻りに依り、一時懸念された米價も概ね安定を豫想せられる等強弱材料が相錯綜して現出した爲、商品市場は成行靜觀の形にて何等の動搖も無く推移したのである。唯携帯便利な金塊は、患感筋の買煽りに依り六月初め三千七百圓より暴騰を續け、月末五千八百圓の如き高値を示現したことは、不純分子の動向を示すものとして相當警戒を要すべきものである。

四二

## 二 金融事情

金融事情を觀るに、四月中銀行は直接戦力増強に關聯なき新規資金の放出は全面的に抑制せられ、以て資金の重點運用と、通貨面よりの物價抑制策に協力したのである。尙日本及び北支の例に倣ひ、金融非常措置として、非常

事態發生の場合は、民生の安定を計るため日本側三銀行間に於て、一箇月最高三千元迄の預金支拂が實施されることになつた。

五月中に於ては新規資金の需要見るべきもなく、上中旬は先月に引續き窮屈ながら平穩裡に推移したのであるが、下旬に日本側三銀行は、當局の指示により全面的に資金の放出を抑制したので、金融は一段と梗塞状態を呈した。

六月に入つても資金の放出は依然抑制せられ、市中資金は益々逼迫を告げたが、前記の戦局により何等の影響を受けず、平穩裡に越月したのである。尙特記すべきことは、興亞報國會の總驅起運動に應へ、日本側三銀行が年額三千萬元を目標に、決勝預金の取扱を開始したことで、これは廣東經濟の現状に鑑み、金額に於ては大なりとは謂へないが、居留民の熱誠により頗る好成績を収めて居る。

## 三 商統會廣東分會成立

商統會廣東分會は四月八日正式に設立せられ、同會の成立により、廣東物資輸移出入配給組合聯合會は發展的解消となつたのである。從來省政府經濟局の戦時物資移動許可權並に稅關事務の一部移讓と、更に國內交易に關する事務は一元的に商統會の管轄下に入り、決戦下に於ける廣東市經濟の自活統制機關として、今後の運営は各方面

四三

より期待されて居る。

四四

#### 四 商 品 市 況

(一) 生糸 四月に於ては本年度第一造糸の出廻りが僅かに四十擔見當であつたため、商内は閑散で、相場は月末九萬七千元を唱へた。

五月に於ては第二造糸の生産が百十擔見當と推定されたが、搬出は僅かに二十擔で、相場は強調し、下旬十萬元を唱へ、商内は小口ながら散見された。

六月に於ては第三造糸二百擔見當の生産であつたが、奥地に於ける消化が可成あり、出廻りは七十五擔見當に過ぎず、相場は九萬元を小浮動した。

(二) 雜糧 本期中に於ける雜糧の入荷配給は共に無かつた。然しながら土産落花生油、茶種子油、オリブ油及び小麦、豆類等は特殊筋の買付があり、四月末は一萬五千元を昂騰したが、五月は米價の低落に伴ひ、相場は軟調、六月末は先月末に比し二割方の強調を示したのである。

(三) 綿糸布 四月には入荷配給共になく、商内は見るべきものもなかつたが、實需筋の小口物色買があり、相場は強含み裡に越月した。五月には久し振りに相當の入荷を見たが、晒金巾百三十三反の自家用特配を除く外は、一般

に配給なく、市中は品がすれで強調を持續した。六月には民需用の配給は無かつたが、特殊筋より相當數量の放出があり、その上節電により工場筋に於ては操短を實施したため相場は下押の状態であつた。

(四) 砂糖 砂糖は四月に於て、邦人業者並に家庭向四百擔、一千二百二十五元六十一仙替、一般民需向九百擔、三千二百六十七元六十一仙替、五月には邦人向四百擔、一千五百八元替、民團特配三箇月分二千二百擔、一千四百八十四元七十八仙替、六月には居留民向二百二十五擔、一千五百八元替にて夫々配給があつた。

商内は四月中は環境眺めに閑散であり、相場は保合推移したが、五月に一般向の放出なきため、在庫が漸減して下旬には澗糖五千二百元と上押し、六月には比糖二千五百擔見當の入荷があり、品がすれに幾分緩和されて、相場は六千元見當強保合、商内は閑散裡に推移し越月したのである。

(五) 水産物 四月上旬は入荷なきため相場は強調、下旬は沿岸魚の入荷があり、そのため上旬に比して二割方下押しで越月し、五月は日本物干魚は全然入荷なく、沿岸魚は上旬南方より二百噸の入荷があり、並物五百五十元見當に下押ししたが、下旬降雨のため香港、澳門よりの輸入減に因り、二割方昂騰強調裡に越月した。六月下旬には西貢より鹽魚五十噸、香港より少量入荷があるも、荷動き活潑でなく、品薄顯著にて大口商談なく、相場並物四千五百元を唱へた。

四五

(華 銀)

## 海口金融事情概況 (昭和十九年第二・四半期)

四六

### 一市況

本期の初期に於ては大陸よりの雜貨移入は引續き杜絶して居たが、近縣周邊よりの土産物資の搬入は、出廻期に際會して居る關係上旺盛であり、特に中頃に至り豆類は豐作により、而も收買價額も昂騰して居るので市況は次第に活況を呈し、六月に入り、舊曆の端陽節、遊神祭等の祭事が多く、金銀紙の消費及び肉類の需要が激増して、市況は低調ではあるが活氣があつた。

### 二物價

物價は本期に入つても昂騰は依然として竭まなかつた。臨時政府に於ても銳意之が對策を考究中であつたが、その結果大東亞戰完遂上、本島重要物資の動員を行ひ、戦力増強に協力すべく、戦時物價管理暫行條例を公布し、戦時適正物價を設定し、之が管理及び取締りをする事になつたのである。而して之が指定せられた物資は、戦時に於て特に必要な物資即ち、油、砂糖、豆類及び日常必需品たる棉製品、藥品類等にして、其の成行は注目され

て居る。

尙邦人商社に對する戦時特殊損害保險法は、四月に施行せられ、本島開發は一段と促進されるものと思はれる。小賣物價の狂騰趨勢を觀るに、鮮魚は一斤四月に於て平均三圓二〇錢、五月平均六圓四〇錢となり、野菜類も夫々續騰した。

特に一期土産米は稍端境期に入つたが、輸送不圓滑のため昂騰し、五月末に於ては一斤一圓五十六錢を唱へられ

たが、第二期作の不作を懸念されて、目先強含みである。尙物價指數を觀るに、末期に於ける祭事による諸物價の昂騰と、土産米の端境期による高騰から物價指數は異常なる上昇を示し、小賣物價指數は本年一月二二・四であつたが、五月一四・八、六月一七・七二、卸賣物價指數は本年一月六五・七、五月七二・〇と上昇し、就中肉類、衣料品、調味及び嗜好品類の値上りは最も目立つて居る。(物價指數は、昭和十四年二月皇軍上陸直前を一〇〇とせるものにして、交易協會發表の指數による)

### 三通貨事情

海口市以外の舊法幣は、今尙餘喘を保ちつゝあるが、闇相場は四月に於ては前月と保合の状態であつた。而るに樞軸國戰況の推移は直ちに敵側の謀略宣傳の具に供せられ、無智なる民衆の乗せしめられるところとなり、

四七

奥地に於ては軍票相場は軟調の一途を辿つたのである。  
探聞するところによれば物價の昂騰により海口市内に於ては、軍票一錢券は取引の單位膨脹により、市場にては  
使用せられなくなつたとの事である。

四 其 の 他

瓊崖臨時政府に於ては、その機構も漸く整備擴大せられたので、六月に瓊崖所得稅暫行條例を設定公布し、七月  
一日より徵稅を開始され、財政の安定を確保すると共に、同生共死、戦力の増強に邁進することゝなつた。

五 軍 票 回 送 高 (昭和十九年四月中)

一回送高	定 安	二九、三六〇圓
二回送高	澄 邁	六〇、〇〇〇圓

(華 銀)

廣東民族の史的移動及び其の地理的分布

目 次

一、緒 言	四
二、廣東民族の地理的背景	五
三、廣東民族の史的移動	六
(一) 廣東の原住民族	六
(二) 漢民族の南下	七
1 本地漢族の南下(以上本號)	七
2 客家漢族の南下	八
3 福老漢族の南下	九
四、廣東各民族最近の地理的分布	一〇
(一) 原住民族の遺留	一〇
(二) 本地漢族の地理的分布	一一
(三) 客家漢族の地理的分布	一二
(四) 福老漢族の地理的分布	一三
(五) 蛋 民	一四
五、廣東に於ける民族別人口の集中及び其の移動的 趨勢	一五



中華民國の國民は四億に上る尨大な數であるが、中國國民の中心をなすものは漢民族である。漢民族は中國全人口の九割以上を占め、主として中國の本部に居住してゐるので、普通支那人と言へば大抵漢民族を指稱するのである。而して漢民族では中國人又は華人とも自稱し、特に廣東では唐人とも自稱してゐる。元來此の四億人口は地大物博を特色とする中國内に於て、その民族、構成は頗る複雑であり、種々なる種族が包含されて居るが、同じく漢民族と謂つても更にその言語、習慣等により著しく異つてゐる。

今、廣東の民族と中國北部の民族とを比較して見るに、幾多の同じからざるところがある。之を風俗習慣等の方面から見れば、廣東には廣東特有の風俗習慣があり、北方にも又北方特有の風俗習慣がある。更に民族性の上から見れば、北方の民族は淳朴にして忠厚、廣東の民族は活潑にして進取的である。體質方面からいへば、また幾多の差異が出て来る。露西亞のある人類學者の説によると、次の如き結論を下して居る。(註一)

- 一、廣東人は東北部の中國人に比べて身長は低い。
- 一、廣東人は他の中國人に比べて手が長い。
- 一、廣東人は脚が短かいので、脚が短かい。
- 一、廣東人は東部中國人よりも腕の短かい方に屬する。

一、廣東人の頭型指數は東部中國人に比べて短かい。

一、廣東人は鼻の指數が大きい。これは北よりも南に進むにしたがひ、寒い乾燥地帯より海岸附近の熱帯氣候の方が大きいやうである。

一、廣東人の皮膚は自然の力によつて暗黒色を帯びてゐる。これは南方に於ける太陽熱の影響によるものである。

以上の七條から得た結論は、廣東の民族と北部中國或は東部中國の民族との差異は更に明らかとなるのである。明治二十七年、八年の口清戰役に際し、多數の俘虜に就いて人類學者の小金井良精博士が調査したところによると、九四二人の成人の中、身長平均一米六七、頭型指數の平均八〇・二(中頭型)であり、總じて南方中國人は北方中國人に比べて身長が低く、且つ短頭型のもが少いやうであると發表されてゐる。福老漢民族の身長が平均一米六四であるが、其の他の南方の漢民族特に廣東人の身長平均は一米六一・八、頭型平均指數は殆ど七九乃至八〇のやうである。尙漢民族の身長は最短一・四米、最長一・八米、平均一・六五米で、世界の諸民族の平均身長にほぼ達してゐる。如何なる理由で廣東民族と他地方の中國人とは同じくないか。これに就いては多數の人類學者が研究し、その解答を得んと努力して居るところである。然しながら現在中國人自身は此の問題につき特に注意を加へず、僅かに少數の外國旅行家及び人類學者が研究してゐる位であるが、これもまた種々の都合で得た資料も寥々にして幾許も無く、充分に研究の目的を達することが出来ない。



然し乍ら此の點に就いては次の如く觀察されて居る。(註二)

一、或は北方中國人の變種とも觀られる。これに就いてはブキストンも北方中國人とチベット族との混血だと主張して居る。(註三)

二、或は廣東民族の變異であるとも觀られる。

三、或は以上の二つの原因が同時に起り、即ち北部民族の變異と共に廣東民族も變異したとも觀られる。

尙廣東民族の變異に就いては二つの影響がある。

第一は、特殊地理的環境の影響である。

地理的環境は人體に對し常に直接又は間接的に影響することは、多くの學者の既に認める事實にして、且つ多くの人類學者は人類の種族の變異が、すべて環境の同じからざる影響に基いた結果であると認めて居る。廣東民族の黒い皮膚と鼻指數の大きいことは、亞熱帶の強烈なる太陽及び濕潤なる氣候の影響に基づくものであると學者は主張して居る。ロシアの人類學者シロゴルフもその一人である。

第二は、廣東民族は他の異民族との混血であることは、混血の結果は異族の身體の構成要素を受けるので、従つて北部の漢族と異なるのである。シロゴルフもまた廣東の漢民族は四種の異なる種族型より混成したものであると謂つて居る(註四)。即ち一、中頭型と高鼻型 一、高鼻型と高頭型 一、短頭型と極高鼻型 一、低頭型と短

頭型の四種族であるが、この四種の不同種族が如何なる種族であり、又何處から來たものであるかは彼自身もまた確實にそれを指摘することが出来ない。本問題に就いては既に多くの學者の尙研究中に屬し、従つて本篇に於ては廣東民族の變異問題に就いては暫らく措くことにして、只民族移動史及び地理的分布を記し、以て廣東民族の變異問題につき若干の解答を求めんとし、先づ廣東民族の地理的環境より起し、歴史的移動に進み、最後にその地理的分布狀況を記さんとするつもりである。

## 二 廣東民族の地理的背景

廣東は中國の南部海岸に位し、西北部には世界最大の大陸地を控へ、そこは人類文化の故郷といはれて居るところである。前方には又世界最大の大洋即ち太平洋に面し、と同時に臺灣及びフィリピン群島の島嶼圍繞地帯を前衛として、天然の外縁地帯を構成して居る。後方には大陸を背景にして、前方には大海があり、従つてその氣候と人文は大陸性又は海洋性を帯びることになる。或は大陸性と海洋性との漸移型とも稱すべきものである。

廣東は大部分亞熱帶の區域内に在り(南部は既に熱帶の區域に屬してゐる)、季節風が省内に盛んに吹き、夏季は炎熱にして濕潤、冬季は溫暖にして乾燥である。廣東市各月の平均氣温及び雨量を示せば次の如くである。

廣東市各月平均氣温・雨量表

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
氣温	一五・八	一四・五	一五・五	一七・五	一八・五	一八・八	一八・四	一七・五	一六・四	一五・四	一五・七	一五・五	一五・五
雨量	三三・六	四〇・五	四一・一	三〇・七	二四・三	一四・七	三九・四	二四・五	二六・六	三〇	五〇	四二・四	二五・六

廣東省内の森林は亞熱帯林に屬し、古代は非常に繁茂してゐた。然るにその後人口の増加に伴ひ、森林は多く伐採せられ、現在の如き無森林地帯になつてしまつたのである。

尙廣東の地形も南支の一特徴を具有して居る。廣東省内には無数の並行にして且つ同じやうな隆起地帯が南西より北東に至り、恰も海水が風のために打ち上げられたる波浪の如き状態を呈して居る。山脈の方向と隆起地帯は互に相重なり、山中の岩石の地層の方向も又山脈の外表と同様であり、西南より北東に走つて居る。此の中に於て古代の褶曲は多く破壊され、僅かに破壊された褶曲が尙残つてゐるに過ぎないが、同方向の斷層は遂に今日の如き地形の重要因子となつて居る。山脈は平直にして脊梁の状態をなし、鋸齒狀の出入が少く、山脈と山脈の間を細長い縦谷を以て狭み、山の高度は甚だしくなく、高峯でも一千米以上のものは少く、多くは數百米に過ぎない。山脈も常に河川に横貫されて相連続しない。これが廣東地形の重要な特徴である。

最大の山脈は本省の北部にあり、貴州、廣西の間の苗嶺より入り、東に向つて走り、五嶺山脈となし、湖南、江西の邊境に綿延して福建省の西部に至り、折れて北東に向ふ。此の如く廣東省内最大の山脈が省の北部に横たへ、

長江流域と珠江流域の分水嶺を形成すると共に、廣東省北邊の障壁をなして居る。此の障壁は廣東の人文地理上重要な位置を占めて居る。即ちそのために揚子江流域の文化と民族の廣東侵入を阻害して來たのである。而し本山脈上の幾筋かの山道、湘滙分水嶺、梅嶺關等の如き地方は、中國民族の南遷して粵地方に入る孔道となつて居る。省の中部及び沿海一帯にも幾筋かの山脈があり、雲浮山脈、羅浮山脈、文筆山脈等の如く、これらは並行にして且つ相似て南西より北東に至つて居る。

次に廣東に於ける河流は、これを二つの重要な系統に分けることが出来る。

(一) 珠江系

- 1 西江—西江は廣西より東下し、山間を穿ちて通り、時には山脈を横斷して三水附近に至り北江と合流して居る。
- 2 北江—北江は東西二つの源がある。東は江西に起り、西は湖南に起る。韶州地方に於て二流相合して、南に流れ、三水にて西江と合流して居る。
- 3 東江—東江もまた江西省五嶺の餘脈の南に發し、東北より南下して惠陽に至り、折れて東に向ひ、廣州市附近に於て珠江に流れ入る。

西江、北江、東江は、共に廣州市附近に於て合流して海に注ぐ一筋の河流となり、特に珠江と稱されて居る。珠江河口は大三角洲を形成し、土壤肥沃にして河道網の如く、灌溉上、交通上非常に便利なところである。従つて珠江流域は單に廣東全省の中心をなすのみならず、全省の最も富裕な地方であり、全省最大の人類の集團地である。

ある。

五六

## (一) 韓江系

韓江もまた南北二つの源がある。北は福建省の西南部に在り、北より南に向つて居る。南は文華山の北に在り、南西より北東に向ひ山脈に沿つて流れ、三河埧地方に至つて北流と合し、それより折れて南に向つて流れ、潮安を経て海に入る。河口もまた三角洲があり、面積は甚だ廣大ではないが、矢張り肥沃に富み、現在最も發達して居る汕頭市は、即ちその三角洲上に在る。

此の他沿海一帯には尙幾多の小さな河川があり、殆ど北より南に向つて流れて居る。その中、漢陽江、韓江、廣江の三河川は最も大にして、その沿岸及び河口地方の都市は最も人類の居住に適して居るところである。

要するに、廣東は亞熱帯の炎熱濕潤の丘陵地帯にして土地肥沃、物産も豊富で、周邊の民族を吸引して集中せしめる上に於て充分なる要素を備へてゐる。山脈は並行状をなし、南西より北東に向つて居るので、北方民族の南下にはやゝ不便である。然しながら山脈間には處々に比較的平地にして通過し得るところがあり、梅嶺關の如きは漢族の南下歴史上最も重要な位置を占めて居る。また西、北、東の三江の河谷平地も移住の吸引に極めて重大なる素因を成して居る。

## 三 廣東民族の史的移動

### (一) 廣東の原住民

歴史上から見れば、漢民族は陝西省の渭河盆地に起り、黄河に沿ひて東下し、その後次第に南に向つて移動し、揚子江の河谷を過ぎて珠江の流域に至つたのである。漢民族が未だ南下しない以前に於て、揚子江以南の森林地帯は既に文化の幼稚な人種が住んで居た。これが歴史上に所謂南蠻と知られて居る種族である。然しながら南蠻とは南方諸民族の總稱で、その中には苗、獠、猯、狛家、獯夷等の諸族十數種を下らず、彼等は殆ど文化的に低く淘汰された民族であり、現在でも尙僅少なが南支各省の邊疆地方に残留して居る。

南支に於ける最も古い民族はインドネシア族であらう。歴史上に於てはインドネシア族の移住が印度より亞細亞洲の南部半島及び東印度諸島に移動し、現に中國西南の羅々、海南島の黎民は全部此の種族に屬して居る。また別に北方より南下のモン・クメル族の移動があり、この移動は之を二つに分けることが出来る。一つは東方に向つて發展し、之が四川方面の盤瓠である。別の一つは東南に向つて發展したもので、これが現在、雲南、貴州、湖南、廣東、各地の苗、獠族である。モン・クメル族に隨伴して南下したものにチベット・ビルマ族なるものがある。彼等はインドネシア族を壓迫して南下し、現在のタイ地方に來り、これと同時に盤瓠族と苗族も四川地方より南下したのである。

中國關係の史書によれば漢の時代、中國揚子江上流南部地方は尙蠻族の占有するところであり、漢民族より數次

五七

の南征、壓迫を受けた。その壓迫を避けてモン・クメル族のある一族は南下移住してビルマ、シヤム及び其の他東方北緯二五度以南の各地を占領し、これは貴州、廣西、湖南、更に江西、浙江諸省をも包括して居る。此の種族は自らタイ族と稱し、タイ王國を雲南に建立し、四世紀より八世紀に至つて居る。

以上の如き准漢族の南方民族は、到底北方より南下の勤勞にして文化の比較的高い漢民族に抵抗し得ず、久しからずして次第に衰退し、人口も亦漸次減少して、或は漢民族に吸収されたものもあり、或は山間僻地に散退し去り、遂に南支の肥沃なる土地は漢民族の手中に收められたのである。

(二) 漢民族の南下

漢族が始めて廣東に移つて來たのは古くて二千餘年前の事である。此の二千餘年の間には數次の重要な移動を経て居る。移動の時期が同じくないので、彼等の原住民族との同化程度もまた深淺の差があり、更に各種族の起源も同じくないので、これもまた種々不同の派別に分けられる。

晉唐の時代に於ては廣東には既に多くの漢族が居住し、當時は漢土雜居であり、原住民族との同化程度は最も濃厚で、丁度現在の雲南西南部と同じやうな状態であつた。これらの漢人は自ら「本地」と稱し、「本地とは即ち土着」を意味するものである。これは彼等が廣東に移住して來た最初の漢民族であつたからである。南宋に至り、中國中部の漢民族が異民族に壓迫されて南遷して來たが、當時廣東に移住して來た漢民族には二つの重要な民族移動がある。

一つは陸路によるもので、これは現在の客家漢族である。「客家」とは即ち新來の民族を意味するものである。もう一つは沿海より福建に移住したもので、これは福老と稱せられたものである。

次に此の三種族の漢人につき分けて觀察すれば次の如くである。

1. 本地漢人の南下

秦の始皇帝(三十三年)は南越を征して番禺を首都とし、桂林(廣西)、象郡(佛印)、南海(廣東)の三郡を置いたと司馬遷の史記に記載されてある。(註五)。史記正義の中にも「五十萬人五嶺を守備す」とあるが、秦以前に漢人が廣東に來て居たかについては、史書の上には何等の記載もなく、又既に古い古いに屬するのでそれを知ることが出来ない。秦が南嶺を經營してから廣東、廣西が始めて歴史的に展開されたのである。従つて秦時代には廣東地方には既に漢民族が居つたことは疑の無い事實である。秦の始皇帝の死後、中原は紛亂絶えず、廣東の漢臣趙佗(河北省保定道正定縣の人)なるもの、漢楚分争の際に獨立して自ら粵王と稱してゐたが、漢高祖が中國を統一するに至り、粵王も亦之に隸屬された。而るに高祖の死後は呂后專政し、金、鐵、農具、馬、牛、羊等の戦力増強に必要な資源の廣東地方に搬出するのを禁止したので、趙佗は又自ら越武帝と稱し、兵を擧げて長沙邊邑を攻略し、數縣を掠奪し去つたが、孝文帝の即位するに及び、陸賈の招撫により歸順して、又漢に臣事した。此の時代には廣東に於ては漢蠻兩族が雜居して居るのであるが、政權は悉く漢人の手中に握られ、且つ漢人の力は充分に蠻族を統率すると共に、

中部中國にも抵抗し得たのであるから、廣東には漢民族が少くないのを知るであらう。

漢の武帝元鼎五年(西紀前一二二年)南越の相呂嘉等が南越王興(明王の太子、趙佗四世の孫)及び太后樛氏その他漢の使者を殺し、明王の長男建徳を立て、王となし、南越が亂れた。漢武帝はこの亂を鎮めるために、伏波將軍路博徳桂陽に出で、湓水に下り、樓船將軍楊僕は豫章に出で、沮水に下り、其の他將兵十餘萬人を遣はし、翌年十月呂嘉の首を得て遂に之を平定し、廣東を南海、蒼梧、鬱林、合浦、交趾、九真、日南、珠崖、儋耳等の九郡を定めた(註六)。これは漢軍の南越に於て未だ曾つてかゝる大威容を現はしたことが無かつたので、數百年來、叛亂常なき南越は此處に於て始めて安定することが出来たのである。

漢族の勢力が一段と加へられた後に於て、歴史上民族間の闘争は二つの新しい現象に發展した。第一は政治不安地帯の南遷である。光武十八年(西紀四二年)交趾の徵側叛き、馬援は伏波將軍となり、兵を率ゐて翌年之を平らげたが如き之である。第二は廣東の内部に於ける漢民族と蠻族との衝突であり、それが急激に尖鋭化して來たことである。漢の安帝三年(同前一〇九年、以下同前省略)蒼梧、鬱林、合浦の蠻夷族の背反及び靈帝元年(一六八年)合浦の烏潯蠻の叛亂等の如きはこれである。この二つの事實によつて當時廣東には漢民族の大増加と、奥地に至るまで侵攻して、蠻族の身上に至る迄之を壓迫したことを知る事が出来る。従つて秦漢の時代は、漢人の廣東に入つた第一期であると観ることが出来る。

晋に至り、惠帝暗愚にして、やがて八王の亂起り、東晋の頃は、僅に揚子江の南の地方を保つに過ぎず、江北には五胡及び漢族が互に雌雄を争ふこと凡そ百三十年の長い間に及び、華北各地は胡族によつて占領せられ、國內は著しく亂れて居た。この時黄河流域の漢民族は、漢民族の政治的勢力中心が南方に移動すると共に大移動を行つたのである。即ち北方の漢民族は當時湖南の湘江及び瀘江の谷間に既に開けてゐたので、湖南省より廣西を経て廣東に入り(註七)、又北方には通古斯族の壓迫あり、國內には匪賊があつて著しく亂れ、此處に於て揚子江下流の漢民族も多く珠江流域に向つて移動した(註八)。従つて當時多數の漢民族が廣東に漂流して居たことは確實であり、これが漢民族の廣東に移動した第二期であると観ることが出来る。

更に降つて唐末に至り、玄宗は晩年政務を怠り、楊貴妃を寵して奢侈を極め、重税を課したので國民離反の兆が起り、異族の安祿山叛旗を擧げ(七五五年)、又、睿宗の時黄巢亂を起し(八七五年)、諸道を侵掠して遂に長安を陥落し、これより國內益々紊亂して遂に唐が滅亡したのである。その後續いて豪傑並び起つて互に攻争すること約五十年間(九〇七年—九六〇年)に五代の國が興亡した。之が世に云ふ五代の亂であり、殆ど社會經濟の恐慌を反映せる政治的紛亂とも云ふべきものである。

李濟教授が二十四史中の統計により人口一萬以上の縣の分布状況を研究して得た興味ある結論によると、西紀六一八—九五九年、即ち唐初より元末に至る間に於て、長江以南の各地にして一萬以上の縣の數は異常な激増を示し

て居たことである。

當時過剰人口には三つの南下ルートがあつた。(註九)

- 1 浙江方面より太湖に沿ふて發展するルート
- 2 江西方面より鄱陽湖に沿ふて南下するルート
- 3 湖南方面より洞庭湖に沿ふて南下するルート

此の三つのルートは相互に聯絡は断たれて居た。これは地理的狀態より觀て三つの湖沼の附近は殆ど海拔二百米の平原にして、土地は肥沃、交通は便利ではあるが、三つのルートの間には五〇〇乃至一、〇〇〇米の高度の山脈があり、それを隔絶して居たからである。而して此の三つのルートの長短に就いては、また各々同じからず、太湖ルートは浙江省外に出ることが出来ず、鄱陽ルートは當時江西境内に限られ、洞庭ルートは既に湖南を過ぎて、江西の東北部より珠江の河口に至つて居つた。

江西と廣東には長い境界があるも兩省の間は山脈によつて遮ぎられ、南下せんとする民族をして江西の境内に止めさせたのである。湖南、廣東の間には更に高い山脈があり、民族の移動もまたその阻碍を受けた。只、湘灘の分水嶺のみは、丘陵地帯をなして古代より漢民族の廣東方面に出る唯一の大ルートとなつて居た。當時廣西にある五つの一萬以上の人口を有する縣は、全部省の東北部にあり、また廣東に於ける二十四個の一萬以上の縣は全部廣西

の五つの大縣と相連続せる地點に分布して居た。此の種の連絡ルートは人口の膨脹方向を示すものであり、以上の事實から觀て唐末は本地漢民族の廣東地方に南下した第三期であると觀ることが出来る。

次に遼、金諸族が北部中國に侵入し(註十、十一)、宋室が金の勢力を避けるために南渡して江南の杭州(臨安府と改稱)に都し、續いて元が中國を統一し、宋朝が滅亡するに至る迄は、漢族もまた歷史上未だ曾つて有らざる南に向ふ一大移動が起つた。當時に於ては多くの北方漢民族が廣東に移り、その中には客家及び福老が最も多かつた。之は當時戦争の進展に従ひ、江西、福建より來たもので、また其の他にも少なからざる民族が避難のために渡つて來たが、後に至り次第に本地漢民族に同化されたのである。廣州府志の卷一六〇に「吾が廣東市の望族は南雄の珠璣巷より出で、祥符に珠璣巷と號せり」とある。宋の南渡も朝臣駕に従ひて嶺に入り、南雄に至りて止む。故郷を忘れず、亦其の地を珠璣巷と號せり」とある。此の時期は廣東に於ける本地漢民族南下の第四期と觀ることが出来る。

以上の歴史上の事實より推察するに、漢民族は秦の時代より南宋の滅亡、蒙古族の中國に侵入して中國を支配するに至る迄、凡そ千百餘年の歴史を経て居る。此の長い時期に於て、四期の南下の大移動を見出すことが出来た。而して北方より南に移動した漢民族の中には、新しく來たものと、古くから來て居るものとの間には、また同じからざるところがあるも、然しながらこれは長い時期に於ける同化作用によつて、現在に於ては非常に混雜化されて、遂に言語、習慣等の上からはそれを區別することが出来なくなつたのである。

北方の發展を阻碍され、政治的、軍事的には他民族に征服された漢民族が、新たなる出發を見出すべく南方中國の開發に乗出したのであるが、その移動は多く王室を中心とした上流社會人がその殆どを占め、下流社會はその僅北部中國に留まり、かくて從來化外の蠻域と稱せられて來た南部中國地方は、俄に衣冠社會の中心、文化の根源となり、或は他民族を同化吸收して居るが、固有文化を失はず、この事は特に晉の南渡以後に於て甚だしいのである。此處に注意すべき點は、以上の四期の移動時期は相對的に見たものであり、また或る時期中に於けるある種族の漂流或は膨脹を指摘したもので、實際上平時に於てもまた多くの漢民族が廣東に移動して居たのである。例へば商人、兵員、或は罪人の如きはこれであるが、就中政治上の犯人流謫場所として知られ、唐の韓退之（潮州刺史に貶せらる）、柳宗元（廣西省柳州の刺史）、宋の蘇東坡（最初廣東省の惠州に貶せられ、詔州、雷州、海南島瓊州、儋州等に貶せらる）等の如き中國文化史上實に屈指の大文豪が流寓されたものも少くなかつたのである。（未完）

註一 シロコルフ著「東部支那及び廣東省の民族」五五頁  
註二 葉瀛論文、地理學季刊、第一卷第四期二頁  
註三 ブキストン著「アジャの民族」一六五頁  
註四 註一の七一頁

註五 司馬遷史記、始皇本紀の中「始皇三十三年、發謫營南亡人、營贖買人略取陸梁地、爲桂林、象郡、南海、以適遺戍」とある。  
註六 漢書武帝紀

註七 晉書第十四卷地理誌雍州及び荊州篇

註八 廣東通誌十八卷三二頁交廣紀

註九 李濟著、英文「支那の民族系統」二三五六頁

註十 條「蒙古族の契丹人である、南北朝の頃より内蒙古の東部滿洲、遼河の上流地方に散居し、唐末に至り、その一酋長耶律阿保機は契丹の諸部落を統一して、後宋の時、自ら皇帝と稱した。其の後中國北邊十六州を取り、更に大皇帝として後晉を滅し（西紀九四六年）、一時開封に據つたこともあつた。

註十一 金、女眞（滿洲族）、鞏靼種族の一部は初め渤海に從ひ、後、遼に屬したが、遼の衰へるや、その一酋長阿骨打は諸部落を統一して獨立し、皇帝と稱して國を金と號した（西紀一一一五年）。遼金の民族は中國を征服したが、殆ど漢民族化され、次代の蒙古人は之を漢人と稱してゐた程である。

(續)

### 中國土地制度の沿革

歴史上の發展には一定の線索があり一定の成因がある。こゝに既往に鑑みて將來を圖るべき要を生ずる。過去の



數多の經驗に根據して現下の問題の根本に對して找出と解決とを試みねばならない。現階段に於ける中國の土地問題を研究せんとして歴史上の中國土地問題を回顧するのは其の因をこゝに發する。

土地公有制度の崩潰したる以後は、土地問題は中國歴史上の重大關心事となつた。ドラゴニア (C. F. Dragonia) は云ふ「權利が均等を失する毎に土地は少數人の手中に轉移し社會と政治とは必らず絶對的の變異を起す。中國の歴史上に顯示さるゝところの多數の朝代の覆亡は此を主因となす」と。事實上、秦より以後、朝代の改換は一として土地問題と關係の無いのはない。甚しきに至つては幾多の朝代は農民との争闘によつて變換を餘儀なくされてゐる。故に、説を爲すものは、曰く「中國の歴史は是れ一部の耕地争闘史である」と。

中國土地制度の歴史に對して一般學者の分類法は相同じくない。三個の時期に分つて研究せんとする者があり、又、五個の時期に分つて研究せんとする者もある。然し乍ら一般の意見として考へらるゝものは、これを四個の時期、即ち次の如く分けてゐる。

一、土地公有の時期 太古より周末に至る間でこの時期にあつては土地は全く國有に屬し、人民には祇だ使用權ありて所有權なし、老と死により則ち官に返還す。

二、土地私有制の萌芽時期 戰國末より南北朝に至る間で、この時期にあつては分配返還の制度が推翻され、個人私有の制度が之に代つて興り、此よりして天下の土地は分れて私有と官有との二種となり、國家が自由に處分し

得るのは僅だ官有地に止まり、私有地は則ち人民が自由に賣買するに任かし、以つて所謂「富は阡陌に連なり、貧は立錐の地なし」の現象を造成せしめるに至つた。

三、土地公有制の復興時期 後魏の孝文帝より唐代の中葉に至る間で、この時期にあつては頗る多く土地公有制的の企圖を復興したのであるが、然かも時勢を格さんとするに何の効力をも及ぼさなかつた。

四、土地私有制の確立時期 唐代の中葉より以つて今日に至る。

この上記の區分時期は一種の形式上の分類としては一應は正鵠を得てゐるが、實際上の事實に照らすと多少の齟齬を免れない。即ち土地公有制は周末に在つても已に破壊してゐたのであり、以後は都て私有制的發展の時期であつた。要するに此の種の區分法は土地制度の輪廓の平面的區劃であつて、深い考察の對象とはならない。これでは中國の歴來した土地制度下で、土地問題なるものが如何に因つて發生したか、何に縁つて消滅したか、局に當る者がこれに如何に對處したか、壓迫を受けたものが如何に抗争したかに付いて、探究を深めることが出来ない。

寧ろこれを次のやうな區分になすときに、具體的展現に便ならんかと考へられ、その區分によつて所論を展開せんとするのである。

#### 一、原始土地公有制度の概況

#### 二、土地私有制度の畸形的發展

#### 三、土地私有制度改革の試み

#### 四、農民の反動



今日に於て原始土地の公有制に對し其の遺跡を追尋しようとするには歴史上の去來を考察するの要があるが、史籍は周より以前は總て考ふことが出来ない。即ち、殘篇、斷簡に古史を記載するも、多くは荒誕、無稽の神話であつて、正確の史料として周代以前の土地制度を探究するの資料となすに足らない。これは絶對に不可能なりとするのではないが、非常に困難なる事柄である。充分に正確なる上古史料なるものは得難いのであるから、歴史上の一般社會經濟の發展過程を根據として、以つて些少乍らも史實との關係を考へ、傳説と記載とを相適應せしめるとき、又以つて原始土地の公有制の一般情形を窺見し得るかと考へられる。

歴史上の一般社會經濟の發展過程を根據として思考するに、原始時代に在つては土地は原來、各一個の公有公用のものであり、部落には土地領有者があり、そこには狩獵區、牧場、耕田、荒地があり、總ては部落の共有財産であつた。其の後、軍事技術と農業技術の發達、及び封建領主の興起で原始の公有制度は始めて崩潰を告げ始めたが、但だ土地のみは國家に由つて分配され、消費は仍ち公有より得ることゝした。今これを零碎なる當時の詩歌中に求めると當時の情形が多少想見し得る。

「賚我來牟、帝命率育、無此疆爾界」(來は小麦、牟は大麥)

「日出で、作り、日入つて息ふ。井を鑿つて飲み、田を耕やして食ふ。帝力我に於て何かあらん」

この兩首の詩歌を見るも原始時代に公有制度が尙ほ未だ崩潰せざる時の情形を窺はしてゐる。次にその公有制度の崩潰した以後の情形は次の詩歌によつて看取し得る。

「普天の下、王土に非らざるはなく、率土の濱、王臣に非らざるはなし」。

「我が公田に雨ふらし、遂に我が私に及べ」。

原始公有制の崩壊以後に在つては、所謂「普天の下」の土地は都て王の有となり、即ち封建領主の所有となり、農民を使用し、農民は必らず賦税と徭役とを負擔すべきものとなつた。この兩個の階段は中國歴史上に於ける土地公有公用時期と土地公有私用時期なのである。

一般的の論斷に従ふと、中國原始土地公有制度の典型的なるものは「井田制度」なりとされてゐる。然るにこの「井田制度」なるものが眞に存在したのであるか否かと云ふことが、近時紛紜の標的となつてゐる。或者は「必らず無し」とし、或者は「儒者の傳ふる所の井田制度は實に其の事なし、井田の事は憑空虛造に屬し、盡く然らず」となしてゐる。

井田制度の有無の論争は之を姑く措き、當時の書籍に據り井田制度を在りしものとなして、その由來及び其の內容を示すと次の如くである。

中國古代の傳説に據れば、伏羲、神農、黃帝の三皇の世があり、伏羲は民に佃漁、牧畜を教へ、犧牲を養つて以つ

て庖厨を充さしめた。神農は則ち民をして耒耜を爲さしめて始めて農業を興した。近時の學者は又説を爲して云ふ「伏羲と神農とは眞に其の人ありしに非らず、たゞ太古に於て中國が牧畜時期から農業時期に到る兩個の象徴を表はすのである」と。農業時期の初に在つては耕地は實行を開始されたもの、なほ遊牧の性質を脱せず、土地制度などのあらゆる管もなく、土地は廣く人は稀で、各部落は各處に散在し耕地に對して土地制度の必要もなかつた。即ち當時は、土地は部落の公有物なのであつた。

黄帝が他の部落に戰勝するに連んで、「野を畫し、州を分け、土を經かり井を設け人民は定住に安んず」となり、井田制度は遂に誕生した。黄帝時代の井田制度に關して通典は次の如く記載してゐる。

「昔は黄帝土を經り井を設け以つて争端を塞ぐ、歩を立て畝を制し、以つて足らざるを防ぐ。八家を井となし、井は四道を開き、八宅を分ち、井をその中に響る。一に則ち地氣を洩さず、二に則ち一家に費無からしめ、三に則ち風俗を同じくせしめ、四に則ち財貨を通じ(五を缺く)六に則ち存亡共に守る。七に則ち出入相同じく、八に則ち嫁娶相媒る。九に則ち有無を相貸し、十に則ち疾病相救ふ。此れ十利なり」と。

農業上に在つて首として先づ官制的のものを設けたのは少昊氏である。此れは官吏の責任が農業技術の指導及び農作物を養する鳥獸を驅除するにあつたからである。當時は農村にあつて農事を除いては他に問題が存すべくもない。夏禹が半水に功あり、立つて帝王となり、土地制度は乃ち一大變革を生じた。原來、井田制度なるものは原始

公有制度より漸く發達したもので、禹以後は一變して賦役の中心的存在となつた。従前の井田は完全に部落の所有であつて納賦の制度はない。此の時代に到つて公田私田の別をなし、並びに賦役の中心たらしむるに至つた。夏、商、周の土地制度にあつてはその徵稅の方法は同じからずして各々異に岐る。この三代の徵稅方法の異同に對して孟子は次の如く云つてゐる。

「夏后氏は五十にして貢し、殷人は七十にして助し、周人は百畝にして徹すも其の實は皆な什の一なり。」言ふ所の貢、助、徹の三法は實に三代の井田制度の特徴であるが、三法の運用は各々同じくない。然して名稱は同じくないが、其の實質は皆な什の一である。顧炎武は之を解釋して云ふ「蓋し三代の民に取ることの相異は貢、助、徹にあつて、五十、七十、百畝にはない丈尺の不同ありと雖も田に異なるのでない。故に其の實は皆な什の一を取るのである」と。

所謂「貢」なるものは、數年間の平均收穫總量の十分の一を租稅の定額とし、年歳の豐歉によつて加減せない。これについて孟子に説がある。

「數歲の中を校つて以つて常となす、樂歲には粒米が狼戾し多く之を取らざるも虐とならず則ち寡く之を取ること、なるも、凶年には其の田に肥料を施すに足らず、則ち必らず盈を取ること、なる」と。

所謂「助」は井田制の耕地稅收法である。即ち土地を劃して井の字形となし、外廓を以つて私田となし、分けて八

家に給し中央を公田となし、八家をして共に耕せしめその努力を以つて租税に代へるのである。即ち詩に云ふ。

『我が公田に雨ふらしめ遂に我が私に及ぼせ。』

『惟だ助、爲すに公田有り。』

孟子に説あり、『これに出つて之を觀るも周と雖も亦た助なり』と。

所謂「徹」とは即ち私田が收むる所の十分の一を取るのである。論語の一節に「徹」に關する一段の記載がある。

『哀公、有若に問ふて曰く「年饑へて用足らず、之を如何にせん」。有若對へて曰く「盍し徹乎」。曰く「二つともして吾れ猶ほ足らず如何にしてそれ徹ならしめんや』。

「徹」とは果たして何物なのか、此の點について史家の所説は頗る不一致である。或は謂ふ「徹」は「助」の別名なりと。或は謂ふ「徹」は「貢」と「助」との二法の兼用なりと。或は謂ふ「其の田を通じて耕やし其の粟を通じて之を析するを徹と謂ふ」と。則ちこの最後の一説に照らすに則ち徹は共同耕作の制度であつて、「一を以つて君に奉じ其の九を分ける」ものである。

周が岐に在る時に所謂「九一」の説がある。孟子が説いて曰く「昔、文王の岐を治むるや、耕やす者は九の一なり」と。

所謂「耕やす者九の一」とは孟子が解釋して、「請野は九の一にして助なり」とするもので、これによれば「九の一」

は就ち「助」の法なのである。滕文公、畢戦を使ひして孟子に問はしむるに井地のことを以つてする。孟子説いて曰く、

夫れ仁政は必らず經界より始まる。經界、正しからずば井地均しからず。爵祿平らかならず。是れ故に暴君汚吏は必らず其の經界を慢だす。經界既に正しく田を分け祿を制す。坐して定まるべきなり。野を請ふに九の一にして助とし、國中、什の一を自ら賦せしむ。郷以下には必らず圭田あり、圭田五十畝にして餘夫二十五畝、死、徒も郷を出づるなし。郷田は同井にして出入は相友に守望相助く。疾病相扶持して則ち百姓親睦す。方里を井とし、井は九百畝、其の中に公田あり。八家皆は百畝を私し、同じく公田を養ふ。公事畢り、然る後に敢へて私事を治む。これ野人と別るゝ所以なり」と。

近時の學者は云ふに、これは孟子の謂ふところの理想制度なるものであつて、實際には周代に於て何種の土地制度を採用してゐたかは斷言し難い。「貢」「徹」「助」の三者は恐らくとも存したもので、許還、以つて之を盡すに足らず。結局は周代の耕地稅收制度は一種の複雑さを持ち、單一なる制度ではない。既に井田があり、九分の一の公田稅制を徵收し又農民の生産品から十分の一の稅をとり、又田稅は耕地の性質によつて超過があつたり、十分の一より低い稅をとつたりする稅收制度なのであつた。

周代の耕地分配制度に至つてはその授田法と還田法とを一頓せねばならない。一家に授田する、その多少によつて

は、人民の年齢が幾何に達したときに授田したかは、是れ又、學說上に頗る紛岐のある點である。或は云ふ。これは戰國後の學者の理想を語つたもので、爲に、群相の臆測を生じ、常に自ら低語するのであると。還田法に至つては、これは土地が公有制なりしことの一證をなすもので、若し土地にして祇だ授けらるゝのみにして還さずとすれば、こ便ち是れは私有であつて公有でないのである。

井田制度は戰國時代に至つて社會の發達、人口の増加、商工業の勃興によつて崩潰を開始し、秦に至つて完全に廢止された。井田制度の崩潰過程と其の發展過程とは共に悠久なる時期を經過したものであつて、一朝一夕に完成し、一朝一夕に廢棄されたものでない。井田制度は實に黃帝時代に在つて萌芽を開始し、夏商に至つて已に或る種の完整した形態を具備し、周朝に至つて大成した。この發展より完成に至るまでに千餘年の長年月を經過したのであるが、春秋戰國の時代にあつて井田制度を崩潰せしめんとしたるものあり、又同時に三代の遺制を殘存せしめたものもあり、且つ還た極力、井田制度を恢復しようとしたものがあり、然かも井田制度は終に時勢の推移によつて歿落を免るゝことを得なかつた。

この井田制度の崩潰過程にあつて、土地の私有制度は漸を遂ふて擡頭し來り、且つ之に並んで商業勢力の擴張が隨伴して畸形的發展を形成するやうになつた。

## 第二節 土地私有制度の畸形的發展

土地私有制度の特徴は土地を商品の如く見なして自由地として賣買し得ること、錢あれば他より買ひたい土地を買ひ、窮すれば土地を賣りに出す。土地を以つて自由地として賣り出し得るのである。此れによつて「富者は田阡陌を連ね貧者は立錫の地なし」の現象を生ずるに至つた。

或る者は、土地の私有制度の成立は「秦が商鞅の法を用ひる」に至つた結果であるといふ。然し乍ら、實際は商鞅の「井田を廢して阡陌を開く」といふのは、當時の時勢の要求であり、事實上には已に土地制度として流行してゐたのを法律上にも承認するに至つたに過ぎないのである。當時の情形からすると、商鞅があらすとしても他人によつて「變法」を行ふべき時となつてゐたのである。

土地私有制度は「商鞅變法」に由つて成立したもので、商工業の孕育した産兒とするのが正鵠に近い。即ち商工業の發展に因つて土地私有制度が誕生するに至つたのである。

土地私有制度が何を以つて商工業の發展によつて誕生するに至つたか、こゝに商業資本發展の情形について端倪の要がある。

商業は周初に在つて已に相當の發展を見てゐた。周官九賦中に「關市の賦」があるが、これは商税を徵收した制度の存したことを證してゐる。交換といつた點から見ても、此の時、已に物々交換の方式は進んで、商品と貨幣との交換方式により、周代が貨幣制度に對して精確なる規定を存してゐたことは、當時の商業發達が相當度に達してゐたこと

とを想見し得るのである。文献通考は次の如くに説いてゐる。

七六

『周制は商を以つて貨を通じ、賈を以つて物に易ふ。太公は又九府圖法を立て黄金は方寸にして重さを一斤とし、錢は圓くし孔は方とし、輕重は銖を以つてす。』

孟子の次の説話を見ると、當時、商人が已に市價を操縦して利を取り、爲めに政府は徵稅の方法を以つて其の發展を抑制せねばならぬ情況に達してゐたのである。

『古の市なるものは其の有する所を、その有せざる所に易へ、有司は之を治するのみ。賤丈夫あり、必らず壟斷を求めて之を登せ、左右望して市利を罔(網)みす。人皆な以つて賤となし、故に従つて之を征す。商を征するは此の賤丈夫より始まる』

春秋戰國の時代に到り、商業は空前の繁榮を呈現し、政府は商人に對して、只に其の兵役を免れしむるのみならず其の自由發展に任じ干渉を加へず、是を以つて各地の商業は異常に發達した。例へば「臨淄の塗(ミチ)、車轂、擊ち、人肩摩し、椎を連ねて帷を成し、袂を齊へて褙と成し、汗を揮つて雨となる、家放にして人足り、志高くして氣揚る」とあるに見ても、其の盛んなりしことを推察し得るのである。

同時に商人の財富と權勢とは之に因つて大々的に膨脹し、猗頓、邯鄲、郭縱は都て王者の富を誇るるに似てゐた。子貢は齊魯の間に在つて商を營み、「駟を結び、騎を連ね、乘帛の幣、以つて諸侯を聘享し、到る所の國君、庭與の抗禮

を分たさるはなし」孔子の名天下に揚り、力をこゝに得、經商の、徒少ならず、秦の始皇、天下の富豪十二萬戶を咸陽に移し、畜牧を以つて家を起したる烏氏倮の如きは封君に比せられて時を以つて列臣とともに朝請し、丹穴の利を擅したる巴蜀の寡婦清なるものは、貞婦と爲して客とせられ、巨商呂不韋は秦相となり、秦國の太上政權を操持したるに觀るも、商人の財富と權勢との如何に厚かりしかを見るべきである。

商人は一面に於て賤しきを買ひ、貴かきに賣りて農民の身上より利潤を擄取し、又他面に於て高利貸的方式で農民の土地を掠奪し、土地の農民は論ずんで佃戸となり奴僕となる。或ひは生産者と消費者との隔閡を利用し、或ひは商品價格不同の兩地の商品を運轉して其の價格の差を收取し以つて利潤と爲し、管仲が「任を負ひ荷を擔ひ牛に服し馬に駟し以つて四方を周りその有する所を、その有せざる所に易へ賤きを買ひ、貴きに賣ぐ」と云つたところのものであり、或は商品價格が兩時に異なるのを利して、商品を屯積して其の價格の差を收取し、以つて利潤となす。史記貨殖列傳に載するところ「朱公、おもへらく、陶は天下の中央に當り、諸侯四通じ貨物を交易するところなり乃ち産を治め居を積み、時を逐ふ、……十九年にして三たび千金を致し、……白圭は時變を察觀し、故人棄てたるを我取り、人取るを我與ふ、夫れ歲熟すれば穀を取り之に絲、漆、鹽を與へ、歲兎なれば帛絮を取つて之に食を與ふ」。商人の顧客の最大部分は農民であり、商人の得るところの利潤は農民の身上より擄取し來つたものである前。漢の晁錯は此の點を指摘して曰く「商賈の大なるものは貯を積み息を倍し、小なるものは列に坐して販賣し、其の奇

七七

贏を操り、日々都市に遊び、上の急に乘じ賣るところ必らず倍し、……其の富厚に因つて王侯と交通し利を以つて相傾す、……これ商人が農人を併はす所以であり、農人の流亡する所以である」

高利貸は戦國時代にあつて甚だしく横行した事實は、孟嘗君が馮諼をして債務人を召集して證券を焼いた故事によるも明らかである。管子輕重篇には債務及び貸借の記載として、「凡そ貸を稱する家は資本を出すこと三千萬、粟を出すこと三四千萬鍾、利息を受けるもの三萬家」とあり、以つて當時高利貸が横行し、その必然の結果として、農民はその土地を抵當として遂に土地を喪失し、淪んで佃戸或は奴僕となつた。

商業資本の壓搾下にあつて、農民は「相忍んで以つて飢寒し、相強くして以つて勞苦し」、仍ち土地を賣賣し或は抵債して、淪んで佃戸或は奴僕となり、商人は錢ありて卻つて以つて大地主となり「田有つて耕さず」、工を雇つて之を爲さしむるに至つた。

商業的發展に隨着して商業資本は轉化し土地を以つて資産となし、土地兼併の現象が是によつて發生するに至つた。舊時の土地制度は實際上、已に破壊し終つて遺すなく、時勢、此の如くにして商鞅は遂に之に因つて「變法」を行つた。土地私有制度の最初に成立したのは關中であつた。これは「黄金を背にした驢子」が舊時の土地制度を踏み破つたのである。かくて土地と商品とは一樣に已に交換の過程に入つた。

土地分配不均の現象は、土地が商品と成つた時に已に發生し、秦が六國を統一してより後は封建が廢され、郡縣が立

てられ、諸侯の土地佔有權は消滅し、土地賣買及び佃租制度が推行され、是に於て土地私有制度の弊害が益々明顯するに至つた。「富者は田を運ねること阡陌、……又、川澤の利を誦ばらにし山林の儲を管し、荒淫にして制を越え、俊に踰えて以つて相高しとし、邑に人君の尊あり、里に公侯の富あり」然して「貧者は立錐の地なく、……又月を加へて更率となり、已に復して正となり一歳、成に屯す。一歳、力は古に二十倍し田税鹽鐵の利は古に二十倍す、或は豪民の田を耕やし、税は十の五を見る。故に貧民は常に牛馬の衣を衣とし、犬彘の食を食とし、重ねるに貧暴の吏を以つてし形戮妄りに加ふ是に於て「山林に逃亡して盜賊となり赭衣、道に半ばし、斷獄は千萬を以つて數ふ」とあり、これに由つても土地私有制度の畸形的に發展した一斑を知り得るのである。

土地私有制度の畸形的發展をなしつつあるとき、漢の高祖は農民の叛亂を好機として秦室を推翻し了したが、然かも土地私有制度は只に改革を見ざりしのみならず、更に發展を加ふるに至つた。

晁錯は説く「今、農夫五口の家、その役に服する二人を下らず、其の能く耕やすものにして百畝に過ぎず、百畝の收は百石に過ぎず、春耕夏耘、秋に穫り冬に藏し、薪樵を伐つて官府に治め、徭役を給せられ、春は風塵を避けるを得ず、夏は暑熱を避けるを得ず、秋は陰雨を避けるを得ず、冬は寒凍を避けるを得ず、……勤苦すること此の如く、尙、水旱の災あり、急政暴虐にして賦歛時ならず朝令して暮改し、その有するものは半價にして賣り、亡きものは倍稱の利息を取らる、是に於て、田宅を賣り妻子を鬻ぎ以つて債を償ふ」と。

漢の高祖、即位の初に、曾つて「重農賤商」を厲行したが、絲毫の効果もなかつた。晁錯、又説く「今、法律は商人を賤しむも商人已に富貴なり、農夫を尊つとぶも農夫は已に貧賤なり故、に俗の貴つとぶ所は主の賤しむ所なり、吏の卑しむ所は法の尊つとぶ所なり」と。

漢の武帝は商業資本が勢力猖獗を極むるに鑑み、曾つて商を抑制する政策を取つた。「強宗と豪右とは田宅、制を踰え、強を以つて弱を陵ぎ、衆を以つて寡を暴らす」といつた事情は屏出して窮まるを知らず、因つて武帝は商を抑へ國を富まさむとしたが、商人は資本を把つて地を賃借にし土地を譲渡するに至つた。是に於て土地を兼併する趨勢は只に減輕せざるばかりでなく本を變じて厲を加ふるに至つた。

土地兼併の結果、大地主の財富は充足し千戸侯等と等しくなり、之に反して農民は百畝の收あるも破産せざる能はず、所謂、牛馬の衣を衣とする、佃戸となり或は牛馬と同爾する奴僕となり、地税は輕しと雖も農民の痛苦は減輕せず、「官家の惠は三代に優り、豪強の禁は亡秦よりも酷だし」謂ふところの「豪強」は商人地主の化身であり、彼等の農民に對する壓迫は至らざるなく、その身は奢を窮め欲を極め、形容すべくも無かつた。これについて賈誼は説く「兼併の風、淫侈の俗、日月を以つて長じ、瑛賦公行され止まることあるなし、大命は賤され賑救あるなし」と。

漢代の情形此の如し、漢代以後は直ちに現在の情形に至り、之に過ぎるありて及ばざるなし、土地私有制度の成立してよりは中國農村の基礎は便ち畸形的發展を續けつゝあるものであり、時に一時的に安定と發達とがあつたが

時ならずして衰退と動搖とを來し、其の間に多少の變遷と改革とを經過したが、土地私有制度には未だ曾つて根本的改造が行はれず、數千年來、土地兼併の禍害は未だ嘗つて少しも減せず、農民の受ける痛苦は日とともに増す、而かも帝國主義勢力の侵入に隨着して中國農村の土地私有制度は愈々畸形を加へ行くのであつた。

### 第三節 土地私有制度改革の試み

土地私有制度の畸形的發展に隨着して、大多數の農民は流離破産し、少數の官僚、地主が強取豪奪を爲し、貧富の階級が之に因つて顯明となり、階級的闘争が之に隨つて發生した。階級闘争の形勢が尖鋭化したとき必然に一種の反動が起るのである。此の種の反動は兩方面から説くべきで、一は統治階級が其の統治の地位を維持せんとして革命勢力に對して形を畧へて讓歩し、固有の土地制度に對しても少しく改革を加へるのである。他の一は土地私有制度の畸形發展下に破産した農民は群集して統治階級に對して奮起して革命に及び、土地私有制度に對しては死を誓つて闘争するのであつて是れは歴史上に常に見るところなのである。

秦より後、幾んど毎朝毎代に土地私有制度の試があつたが、曾つて一度充分なる満足を期すべくして「所有」の改革で半途にして廢せられた。(漢の惠帝の時、田租令の免收をなさんとして撤回した) 便ち根本に於て實行せない。(董仲舒、師丹の提出した均田制の如き) 其の主要原因を考へると統治階級に改革の用意ありとするも、それは革命の空氣を緩和するに過ぎず、土地制度に對して根本改革の決心がないからである。

この土地制度に對し改革を試みんとしたる経過を見るに、それは租税の軽減と井田制度の恢復の二種の外に出でず、又この二種の辦法を推行するにして統治者は往々「重農賤商」の政策を採用し、法律の力で農民の痛苦を解除せんとし商業資本の發展を遏止せんとするも、その結果は毎に其の反對となつて顯はれてゐる。

租税を減輕せんとして反つて土地の兼併を促進し、井田制度を恢復して反つて土地私有制度の畸形發展を助長し「重農賤商」の政策は反つて「今、法律は商人を賤しむも商人は已に富貴たり、農夫を尊とぶも農夫已に貧賤なり」の矛盾を成す。這の一例は中國歴史上にあつて擧げるにたえず、今その中の顯著なるものを擧ぐると次の如くである。

漢の高祖は農民群衆の力量を藉りて政權を取得したる後、農民の負擔を減輕せんことを宣布した。然し乍ら高祖は完全に農民の賦税を豁免することを得なかつた。只だ最初に法令は十五分の一税を規定した。漢の文帝十二年又晁錯の議に従ひ、「民に田租の半を賜ふ」とあり、十三年マ農事を獎勵することに因つて全額を免收し、十餘年を経過した後、景帝二年に到り始めて民をして『半ば田を出し、三十分の一の税とす』とし、光武が漢家の天下を恢復したる後に、税租を減輕する詔書を下し、仍ち田租を三十分の一とする舊制が行はれた。租税の減輕は兩漢の土地制度に對する最大の改革なのであつたが、其の結果は如何にと云ふに、それについて荀悅の説くところ次の如くある。

「今、漢人、田或ひは百にして一の税たるは鮮しと謂ふべし、然れども豪強人の田を占めること逾々多く其の賦の大半は官、その百分の一を税にとるも人は大半の賦を輸せしむ。官家の惠は三家に優り、豪強の暴は亡秦よりも酷ごし、是れ惠を以つて下通せず威福を豪人に分つのである。今、其の本を正さずして租税を除かんことを務む、適々以つて富強に資するのみである」と。

此の種の租税を減輕する方法は「適々以つて富強に資する」のみ、貧民には何等の裨益するなし。農民が耕種するの土地は、是れ皇帝の賜令する所のものでない。是れは地主から佃租し來つたものである。土地兼併が已に已成の形態となつた後には、皇帝が命令を以つて租税を減免しても、地主は依然として佃戸に向つて、其の「大半の賦」を要求す、故に皇帝の恩惠は祇だ能く地主に加はるのみ、澤は佃戸と土地を喪失したる農民に及ぶ能はず、同時に皇帝は自己の政權を維持する見地よりして只だ能く幫助し、地主は益々富庶を加へ、絲毫も農民の生活を改善する能はず、これによつて租税の減輕は反つて土地の兼併を促進し大地主の發生を助長したのである。

井田制を恢復せんとする企圖は、董仲舒の限田論を以つて首めて其の端を開いたのであるが、彼は次の如く云つてゐる。

「秦は商鞅の法を用ひ帝王の制を改め、井田を除き、民に賣買を得しむ。富者は田、阡陌を連ね、貧者には立錫の地なし。漢興り循つて改めず、……古の井田法は卒かに行ひ難しと雖も宜しく少しく古に近づくべし、名田を限る



も以つて賤はすに足らず、兼併の路を塞いで然る後に善く治むべきなり」と。

賈誼の主張は董仲舒の限田論とは異調なるも彈する點を同じとする。誼は均田制を實行したる上に更に封建制度を恢復せんとしたるもので、曰く、

「天下の治安を欲するにせば衆く諸侯を建て其の力を少にするに若くは莫し、其の力少なれば則ち使ふに義を以つてし易く、國小なれば則ち邪心なし、海内の勢をして身の臂を使ふ如く、臂の指を使ふごとく制從せざるは莫し。諸侯の君、敢へて異心有らず輻輳して並進し、天子の制地、定制に歸命す。齊、趙、楚をして各々若干國たらしめ、其の子孫をして次を以つて之を受けしむべし」と。

繼いで起ちたる者に師丹、荀悅、孔光、何光があつたが何等の結果をも齎らさなかつた。これは誠にラデツク(Radeck)の説く如く、「貨幣が經濟上にあつて優位を占めるに至つた後に、土地私有財産を消滅せしめんと圖り井田制度を恢復せんとするも是は全く不可能事に屬す」漢の高祖は秦室を推翻したるものゝ、經濟に對しては何等の改革をもなさず、たゞ成帝の時に會つて一度「諸侯王、列侯、公主等はその田に名を附するに限りあり、關内侯は吏民の名を田に附し、皆な三十頃を過ぐるなからしむ」と決定したるも、この法令は久しからずして「貴戚近習皆な不便となす」といふ理由によつて打消された。

歴史上最も注目すべきものに井田制の恢復の擧がある。是れは王莽の實行した「王田制」で、その法令には盛んに

古の井田制の美點を擧げてゐるのである。

「古へは井田を設け、則ち國給し人富み頌聲あり、此れ唐虞の道にして三代の遵行するところなり」。

之に次いで秦漢が井田制度を廢除した流弊に説き及ぼして曰く、

「秦は無道たり、聖制の井田を廢るを壞し、是れを以つて兼併起り、貪鄙生じ、強者は田を規するに千數を以つてし、弱者は會つて立錐の居なし、漢氏、田租を三十の一に輕減するも豪民は之を侵凌し、田を分ち、假に却かし名を賦き三十の一に對し什の五の税たらしむ。富者は驕りて邪を爲し、貧者は窮して茲を爲し俱に辜に陥り刑は錯はざるなり」。

而して莽の改革辦法なるものは次の如きものであつた。

「今、更めて天下の田を王田と爲さん、奴婢は私屬なりと曰ふも皆な賣買すべからず、其の分口は八に過ぎざらしめ、田は一井に滿たず、餘田を分けて九族、鄰里、鄉黨に與へしむ、故に田なき者に制度の如く田を受けしめ、無法に業を惑はす者なからしめて諸を四裔に移さしめ、以つて魍魎を禦がしめん」と。

彼れ莽の改革案は階級的矛盾を調和して實行に上せんとしたのであるが、根本にあつて彼の政權は階級矛盾の交叉點にかゝつてゐるのであり、王莽自身が一個の貴族であつて斷然、天下の大不韙を冒して漢を篡つて之に代はり非常手段を以つて土地私有制度を改革せんとしたのであるが、實際上には農民の利益を計り得なかつた。當時、風

兩颯播中にあつた中央政權は之に因つて一切の改革が都て只だ「吏縁のものゝの爲を爲す」の機會を與へたばかりで實益を農民に及ばさず、反つて「姦吏、猾民、並び優すに至つて衆庶は久しく安生せず」となり、土地改革の政策は根本的に不通となつた。是に於てこの歴史上に著名なる土地改革は三年の短かい内に完全に失敗した。其の失敗した原因は一つには、この改革が未だ農民に實益を與へぬばかりでなく反つて之に痛苦を加へたのと、二つにはこの改革が地主階級の利益に觸犯して彼等の反抗を招かせ、法の進行を妨げるに至つたからである。

御批通鑑輯覽は之を次の如く説いてゐる。

「莽は性、燥擾にして不能無爲、興造するところあり、動もすれば古を慕はんとし時の宜しきを定めず、制度又定まらず吏縁つて姦を爲し、天下斃々たり、刑に陥るもの衆し、莽は民の愁怨を知り、乃ち民をして王田に食せしめ皆な之を賣るを得せしむ」

これは祇だ王莽個人に對する指摘で實に當時社會が混亂なる情形にあつたことを寫照するのである。王莽の天下は彼に在つては成命を收回したのであるが、久しからずして地主階級の代表たる光武に奪取された。

光武は農民の群衆的革命勢力を利用して政權を奪取して以來は仍ち前漢の遺制を踏襲して僅に田賦の減輕を實行したのみ、根本的なる土地制度の改革に従ふ能はず、土地問題は只に依然として未解決で過ぎたのみでなく、更に其の制を嚴ならしめることゝなつた。其の後、各朝は多少土地私有制度に對して改革の試をなし、例へば魏、晉六

朝の間に、「一夫、田を治むること四十畝、中男二十畝」として均田法を行つたし、唐代には「凡そ天下の丁男は十八以上の者は田一頃を給し篤疾廢病のものには田四十畝、寡妻妾は三十畝、若し戸を爲すものは二十畝を加ふ」となし以上は均しく班田法なのである。宋代に入つては「人の耕田を以つて其の膏腴瘠瘠を相して之を分つ」といふ限田法となり、金代に入つては「官田を占むること十頃、皆な籍を捨てて官に入れ均しく貧民に賜ふ」といふ平均土地となり、元代に入つては「今の務に於て井田を興復するに如くは莫し」といふ限田の議となり、以つて明、清の土地制度に及んだのであるが、都て是れ、些少の改革を行つたに過ぎず、統治階級の土地私有制度に對する積弊は愈々深きを増し、以つて社會騷亂の時に至り「農民群衆に對するものは一種臨時の策略のみ」とあり、中國は毎朝毎代に都て土地制度改革の試みがあつたが、土地問題は其の抜本的の解決を得ず、直ちに今日の必迫したる情勢となつたので、未だ始より別に歴史上の原因によつて、こゝに至つたのではない。

#### 第四節 農民の反動

上節までに土地私有制度下の反動の一方面を考察し來つたのであるが、本節に於て再び中國歴史上の農民土地争奪運動について見ることにする。これは土地私有制度下に必然に發生するところの反動の別の一面なのであつて中國歴史上に於て最も酷烈を極める場面なのである。

土地平分説なるものは中國歴史上に於て中軸をなす思想であつた。即ち「寡きを患ひず均しからざるを患ふ」と

いふ思想は、數千年來の中國統治に於て一貫した經濟の基本原則をなすものである。これを事實に徴するも秦の後、朝を改め代を換ふるものとして土地問題に關係のないのではない。甚しきに至つては、たゞ農民闘争のみで産出した朝廷をも數朝を數へ得るのである。

農民、動いて暴となるや一種偉大なる力を養成し、發動するや猛烈を極む。たゞ彼等の經濟關係はその鄉村、或は縣邑に限られ、若し其の勢が他に及んで勢力を擴大し得たりとするも、彼此の關係は反つて疎遠となり、同時に彼等は自身に於て獨立の政治作用を行ふ能力を缺き、必ず別の一階級に頼つて、その階級の政治的領導によつてのみ歴史上の任務を遂げ得るのである。故に、毎次の農民戰爭は勝利を占め乍ら、其の結果は農民に與へられずして、政權は卻つて別の一階級の手中に歸し、農民はたゞ一時の蘇生を歡ぶのみであり、而かもやがては以前以上の痛苦を受けることとなる。換言すれば、農民は暴動の結果によつて古い桎梏を切斷したに過ぎず、換つて新しい鎖に把へられるのであつた。

中國歴史上の第一次の大規模な農民暴動は秦代の末年に起つた陳勝、吳廣の「竿を掲げて起つ」を以つて嚆矢となす。これが秦代以前に起らずして秦代末年に及んで發生を見るに至つた所以は、秦代に於て初めて商業資本の勢力が勃起し來つたからである。自然經濟の支配する社會内にあつては農民暴動は發生するに至らない。封建的自然經濟にあつては農民は領主の剝削を受けると雖も其の剝削には限りがある。然るに商業資本の發展下に入ると、彼等

農民は既存地主の搾取の外に商業資本からも搾取を受ける。この二重の搾取に會すると、農民は窮極まり身を挺しても險に走らざるを得ない。農民暴動の動機は大凡そこゝに發する。「今のまゝに亡びるも亦た死なり、大計を擧げるも亦た死なり、國に死するを可とす」といふ。出路なきうちにあつて出路を求めんとするのである。

買誼の過秦論は、秦代統治の滅亡と農民勢力の偉大なりしことを述べてゐるが、非常に警闢せしめらるゝものがある。誼は云ふ。

「秦は諸侯を兼併し、山東三十餘郡、繕津關は險塞に據り甲兵を修めて之を守る。然かも陳涉は戍卒散亂の衆數百を以つて臂を奮つて大いに呼ばり、弓戟の兵を用ひず鉏耰、白梃、屋に望んで食ひ天下を横行し、秦人阻險にあつて守らず關梁、固じず、長戟刺さず、無弩射たず楚師深く入る……」

「陳涉は魏闢繩樞の子、叱録の人にして遷徙の徒なり、才能は中人にすら及ばずして、仲尼、墨翟の賢あるに非らず、陶朱、猗頓の富あるに非らず、行伍の間に躍行し、什、佰の中より崛起し、罷散の卒を率ひ、數百の衆に將となり、轉じて秦を攻め、木を斬つて兵と爲し、竿を掲げて旂となし、天下雲集して響應し糧を贏つて景從ひ、山東の豪俊並び起つて秦族を亡ぼす……」

「是れ陳涉が湯武の賢を用ひず公侯の尊を藉らずして、たゞ臂を大澤に奮つて天下響應す。其の民危ふければなり」と。

其の民が危ふしとなすときは、統治階級が如何に強大なる武力を有して壓制するも、壓制を受ける農民は、必ずしも仲尼、墨翟の賢、陶朱、猗頓の富あらざるも一たび臂を奮つて起てば、鋼鐵の強剛政權を推倒し了るのである。

九〇

漢朝の天下は便はち農民の力の造成によつて確立したのであるが、同時に農民の暴動によつて覆亡し去つた。其の他、朝代の興亡大凡そ然らざるはない。西漢末には轟々烈々たる赤眉銅馬の亂があり、東漢の末には一世紀の久しきに亘つて「黃巾の亂」があつた。隋末に李密諸人があつて農民を領導して叛亂せしめ、唐末に「人を殺ること麻の如き」王仙芝、黃巢の亂があり、元末には劉福通、張士誠、諸人が領導した農民暴動があり、明末には李自成、張獻忠の流寇の亂があり、清末には歴史上に空前の大規模なる太平天國運動があつたが、これらは都て農民の暴動であつて同時に歴代朝廷興亡の動力となつたものである。

歴代農民運動の性質と闘争の方式は都て一樣の類型のもので、其の失敗の原因も皆な同じ類型のものであつたし其の結局も皆な同じやうなものであつた。その性質から云ふと都て所謂、富を却やかして貧を濟ふのを原動力となし、闘争方式は原始暴動の形式を脱せず、失敗の原因は總て農民が自身に於て經濟關係に於て制限を受けたのと軍事上に於て持久の戦法を執り得なかつたのと、政治上にあつて明顯したる意識を鮮明ならしむる能力を有してゐなかつたこと等であり、故に農民は長期の戦闘に入ると、便ち之に倦みひたすらに田に歸らんことを想ひ、統治階

級が少しくこれに惠與を施さずと忽ちに感服して良民と做る。彼等農民には明確なる政治綱領があつて革命的の行動を指導されるのではない。僅かに迷信的術語や、神話的の教條に靠つて群衆の心理を繋ぐに過ぎない。眉毛に紅を畫き黃頭巾を戴くも、以つて名を正し、號を稱へ、統治階級と對抗するのでない。軍事上に在つて持久の可能なとはあるべくもなく、充分の知識もない。政治上にあつても明確なる意識もなく嚴密なる組織もない。故に戦争が延引すれば内部は漸を逐うて涣散し、戦争が幸ひにして勝利となるも内部に交託を見るに至る。結果は何れにしても所謂「一轟して起り一轟して散する」底の結了となるのである。

唯だ清末に起つた「太平天國」運動のみは、これと多少同じからぬものがあり、これは性質上、土地制度を除いた以外にも相當重要な事項を存して居り、闘争の方式に至つては暴動といふには少しく組織的であり、革命の意識を存してゐた。彼等の失敗の原因は内部の涣散と交託とのみに止まらなかつたが、兎も角太平天國運動は、中國の歴史上にあつて最も偉大なる農民運動なのであつた。彼等は原有の土地制度を改革して別に制度を立て、土地を農民に平均分配せんとした。稻葉君山はその著に云ふ。

「癸丑三年(西曆一八五三年)、天朝田賦制度なるものを頒行す、分つて九等と爲し、毎田一畝、早晚二季を以つて千二百斤を出さしめるものを上上田と爲し、千百斤を出さしめるものを上中田となし、以下遞減して四百斤を出さしむるものを以つて下下田となす、上上田一畝は下下田の三畝に當り人口に照らして分給す、田を受けるの標

九一

準は男、婦一人、十六才以上に田を受け、十五才以下は其の半を受く、若し一家六人なれば則ち三人好田を受け三人劣田を受け一年を以つて定と爲す、此の制の精神には確に見るべきものがある。その首倡者は云ふ、天下の田は天下の人が之を共耕すべきであり、此處に足つて彼處に遷移し、彼處に足らずして此處より遷移すべきなりと、又曰く凡そ天下の田、豊荒相通じ、此處、荒なれば彼處の豊に移し、以つて此處の荒を賑はし、務めて天下をして共に天父皇、皇上帝の大福を享けしむ。田あつて耕を同じくし、飯あつて食を同じくし、衣あつて同じく穿ち、人をして飽暖せざるならしむ。此れ等の理想の下に土地と田畝とを私有せしめず、金錢は私藏を許さず、故に銀十兩、金一兩を貯藏するものも私藏して法を犯すものとなし、處罰するものとす……」

此の土地制度の頒布は未だよく實行されたりや否や、又實行がどの程度に及んだかは知ることを得ないが、これは正しく空前の大改革と稱すべきものであつた。

(山 雲)

# 時 報

## 福 建 省

### 福 州 攻 略 譜

東南支那沿岸の海港中廈門、汕頭は支那事變初期以來我が掌中にあり、去る九月九日には温州また我が占領下に歸し、福州のみが残されてゐたが、左記大本營發表にある如く我が陸海軍精銳部隊は九月二十七日相協力して福州攻略戦の火蓋を切つた。即ち陸海軍協同部隊よりなる我が船團は海軍艦艇護衛の下に福州近海に北進、二十七日未明を期して福州東北方五十軒岱江附近に奇襲上陸を敢行、路同江兩岸地區に沿ひ敵の抵抗を隨所に撃破しつゝ、快進撃を續け、二十八日には早くも要衝連江を通過した。

大本營發表(昭和十九年十月三日十五時)

東支那沿岸の要衝福州附近攻略を企圖せる我が部隊は陸海軍緊密なる協同の下に九月二十七日早朝同市東北海岸に奇襲上陸を敢行、福州に向ひ進撃中なり



即ち九月二十七日未明福州東北海岸の大灣、堂麻の兩地點に上陸を敢行した我が部隊は、先づ連江目指し同日夕刻には早くも連江北方六軒の地點に進出した。翌二十八日連江東北高地並に同市周辺の重慶軍抵抗線を突破して要衝連江を占領、一隊は直ちに南下して嶺頭に進出し、五虎島及び忽克島を占領し引續き河口一帯の殘敵を掃蕩中である。又主力は引續き西北方並に西方に向つて猛進を續け同日夕刻迄に上祠臺附近及び堂廳に進出した。續いて二十九、三十の兩日に互つて我が部隊は重慶たる山嶽と惡路に悩まされつゝ所在の敵を隨所に撃碎して三十日には敵福州防衛の第一線陣地たる湯嶺及び梅洋を占領した。この方面の我が部隊の進撃は標高四百乃至八百米に及ぶ急峻なる岩山の連続とその中腹山嶺をぬつて人馬一列縦隊で漸く通り得る程の石ころ道を困苦の限りを盡くして且つ豫想以上に熾烈なる敵の抵抗を排除しつゝ行はれた。一方我が支那方面艦隊〇〇部隊は九月二十七日早曉陸軍部隊の奇襲上陸成功と共に上陸地點から南下閩江下流東支那海沿岸突端にある敵〇〇砲臺並に沿岸敵陣地に對し、果敢なる艦砲射撃を加へこれを完全に撃碎敵に多大の損害を與へた。

斯くて十月一日、我が部隊は福州を中心として半徑二里の周邊高地に據る敵主力防衛陣地の正面に到達した。この高地は背後に屏風の如き急斜面を以つて福州平野の三方を圍み標高五、六百米の岩山を連ねて天然の要害を成してゐる。この要害を利用して敵第七十軍（軍長陳孔達）配下の第八十師（師長李良榮）の主力は西及び東に面して堅固なる防禦陣地を構成して頑強に抵抗を試みたが、十月二日早朝より攻撃を開始した我が部隊は晝間攻撃に次ぐ夜間攻撃

を以てし三日午後には半郊の線を、四日拂曉には中嶺嶺の線を突破、眼下に福州全市を望みつゝ峻嶮を一氣に越えて福州平野に殺到、十月四日午前八時福州城を完全に占領したのである。

福州周邊地區は福建省首席を兼任する劉建緒の指揮する第七十軍が防衛に任じてゐるが、我が疾風の進撃を前に只々狼狽を極めてゐる状態である。同地の攻略により南支沿岸の要衝は悉く我が掌中に歸するところとなつた譯である。當地は敵米が潜水艦基地として、最も注目した處であり又太平洋より支那沿岸に到達し以て我が本土と南方資源地帯の連絡を遮斷すると共に支那大陸に對する戦力の投入を簡易且つ強大化し、海上、大陸の二正面から我を挟撃せんと焦つてゐるが、この敵米の戰略企圖は我が進攻作戦と相俟つて今や完全にその機先を制せられるに至つた、尙福州は昭和十六年四月我が軍によつて一度攻略されたが、同年九月同地附近一帯の敵軍事施設並に抗戦組織を潰滅し、作戰目的を完遂して自主的に撤退したところである。

(一〇三七八)

### 福州方面作戰軍幕僚談

わが福州方面作戰陸軍部隊では十月七日左の如き幕僚談を發表、今次福州攻略作戰の經過並に意義を闡明した。さきに我軍は浙東沿岸に於ける要衝温州を攻略し、今また茲に再び軍を起して敵に残されたる最後の海口、福州攻略の火蓋を切つた。即ちわが精銳は荒天を冒し海軍艦艇の護衛の下堂々東支那海を壓しつゝ南下し、九月二十

七日午前五時福州東方海岸閩江河口附近に於ける奇襲上陸に成功、直ちに進撃に移り所在の敵の抵抗を排除しつゝ翌日には早くも福州の外港連江を攻略、爾後更に敵の抵抗を排除し十月四日午前八時福州に突入した。この間支那方面艦隊の一部は海軍機と共に陸軍部隊に密接に協力し本作戦成功の要因を造られたるは實に感謝に堪へぬ次第である、この方面の敵は福建省主席劉建緒を司令とする第七十軍麾下の第八十師、保安縱隊並に海軍部隊など合計約一萬五千で豫想以上に頑強なる抵抗をなし、攻略部隊をして無益の殺傷をするの止むなきに至らしめた。然し上陸部隊がこの敵よりも更に警戒したのは在支米空軍及び近海に出没する敵潜水艦で海軍部隊また海空より嚴重監視に當つたのであるが、作戦前我方が企圖秘匿に萬全を期したのと、荒天のためこれらの敵の出現なく、我が作戦行動も何等妨害せらるゝところなく上陸に成功したのは誠に天佑といはねばならぬ。

翻つて福州攻略の意義を考へる時政治的、軍事的、經濟的に誠に重大なるものがある。即ち福州は我が臺灣に面し南支第二の都會として政治上、經濟上の重要性を有するのみならず、馬尾と共に各種軍事施設に造船廠、海軍學校などあり、軍事的には極めて大で、これが攻略は敵に重大な打撃を與へたるものである。斯くて福州の攻略によつてさきの温州と共に敵米の大陸侵攻企圖を未然に粉碎したのである。敵米よりの大陸防衛並に新中國建設に全幅的に協力する我軍は茲に必勝の態勢を完成した譯である。最後に我軍がこの地の上陸守護の任に就く所以のものは徹頭徹尾東亞の侵略者米英を打倒せんがため、斷じて善良なる中國軍民を相手とするのではなく終始相提

携して米英撃滅新中國建設に邁進せんとする決意に毫も變りない。

### 廣 東 省

#### 胡文虎廣東で新聞發行

南洋華僑の巨頭胡文虎は大東亞戰以來香港にあつて社會福利方面に活躍、更に今春來廣東方面に進出し新聞の發行、農民銀行の開設、礦物の開發事業、難民救濟運動等を展開すべく準備を急いでゐたが、この程新聞發行準備が整つたので、七月四日を期し創刊される。

同紙は公正報と題し、社長は現香港島日報社長胡山が兼務し、總編輯には賈訥夫が就任した。同紙は我が軍及び省政府指導の下に大衆本位の新聞とし、一般民衆の新中國建設及び對米英戰爭協力の機運醸成に主力を注ぐ筈である。

#### 粵漢線復舊に挺身する中國人

中南支を結ぶ粵漢線の重要性は今更言ふまでもなく、所謂大陸の大動脈として嘗ての援蔣輸血路だつたが、南支



軍の廣東攻略によつてその機能を喪失して以來、敵はこの粵漢線上よりの我軍の進攻とその利用を極度に恐れ、沿線附近住民を狩立て、徹底的破壊工作を敢てした。その實情を見るに實に「慘憺」の一言に盡きる破壊振りであり、無力なる重慶軍が名目なき抗戦の迷夢によつて演じた悲劇であつた。一本のレールも枕木もない鐵路には夏草が生え茂り、殆ど三百米、五百米置きに破壊された鐵路の殘骸が渾しなく横たわつてゐる。橋梁と言ふ橋梁は悉く爆破され、築堤部を十米乃至二十米に亘つて無數に決潰せしめ、切抜部は反對に山を切り崩して土砂を盛り上げ、更に自然の流水や河水を利用して山峽の線路上に泉を作つたり、流水による自然決潰を企てたり、その手段の執拗さは寧ろ笑止と言ふべき程であつた。而も長年に亘り放置された粵漢線上には河川が出来、住民の家が立ち、田圃が作られる等の奇現象さへ呈してゐる。然るに今度皇軍部隊の進撃成るや、勇士達は昨日まで握つてゐた銃を圓匙や十字鉞に持替へてこの破壊箇所を挑み、應急自動車路としての更生は着々として完成して行つた。殊に中國側より廣東省建設廳で編成した復舊工作隊がこれに協力、沿線住民達も粵漢線に血が通ふと眼前の事實に感激して積極的に協力し、折柄二期作植付の農繁期を控へ乍ら、一村から五十名、百名と繰出され、却つて部隊の將士を面喰はした程であつた。斯くして軍民一體の努力は二旬ならずして源潭墟以南の自動車路を完成したのである。(八・二四)

### 九月中の廣東生必品指數昂騰

廣東日本商工會議所調査による九月中の當地在留邦人生活必需品指數(昭和十五年十月基準)は總平均二、八八九・七二でこれを前月に比較すれば三〇・八・九五の昂騰である。この間嗜好品及び文化費の低落は注目を惹いてゐる。なほ平均指數を項目別に示せば次の通りである。

項目別	九月指數	前月比
主食費	一、五八三・八三	四三六・九〇
副食費	四、四一四・五八	五五一・一六
内 譯		
野菜類	五、三二〇・〇七	一、六七六・七九
豆類	五七〇・〇〇	六六六・六五
肉魚類	三、三三四・七二	六九八・〇九
漬物類	三、一五〇・〇〇	四五〇・〇〇
調味料費	一、八二三・〇七	四七五・三三
嗜好品費	二、〇三一・三四	△二四八・三八
衣料及身廻品	四、五七一・七〇	七二三・七〇



薪炭費	四、二〇八・九八	八〇四・三〇
住居費	三、二九五・七二	三五七・六八
文化費	一、五一・八五	△、一〇一・〇九
總平均	二、八八九・七二	三〇八・九五

(一〇・二五)

## 廣西省

### 廣西省桂林の近況

昆明と共に西南支那の重要な抗戦據點として、また在支米空軍の中樞基地として、抗日の狂想曲に明け暮れた廣西省首都桂林は我が懸軍萬里怒濤の進撃に餘命正に旦夕に迫つた。在支米空軍第十四航空部隊の司令部所在地として七千萬ドルの巨費を投じ建設した豪華なる對日反攻基地は、再び米蔣軍の手によつて木葉微塵に破壊され、また前衛據點として抗日の温床と化した市街は「日軍迫る」の聲に紅蓮の焰に包まれて焦土と化しつゝある。長沙に次いでまたも徹底的焦土抗戦の犠牲と化したこの桂林とはどんな處であらうか。こゝに桂林を解剖しよう。

廣西省の東北、五嶺の南麓に獨秀峰、象鼻山などの名峰、奇山に圍まれて古都桂林がある。黃巢の亂、太平天國の

亂の根據地として千年の夢を秘めた幽玄極りない小邑であつたが、支那事變の勃發と共に西南軍略上の要衝として再び時代の脚光を浴び、上海、香港を失陥して以來は援蔣路の中繼基地として、また米空軍の重要な前衛據點として重慶政權に至大なる役割を果してゐた點は極めて特筆すべきであらう。桂林市は唐の時代に臨桂縣と呼ばれ、清時代に桂林府と改稱され、民國二十六年(昭和十二年)に市制が布かれたのであるが、事變前にも所謂廣西派の牙城として特殊な性格を持ち、反蔣運動の本據として國民の注目を惹いてゐたところである。廣西派は廣東派と共に西南派とも呼ばれ、民衆から廣西派三尊と親しまれた李宗仁、白崇禧、李濟等廣西はえ抜きの將領が民國當初から大廣西モンロー主義を標榜して中央の南京派に楯付き、事々に紛争を繰返した因縁付きの歴史を持つてゐる。廣西省は地味も瘠せ、物産にもさして見るべきものはないが、支那革命史に於ける政治的地位は輕視出来なかつた。事變以來湘桂、黔桂兩鐵路、公路の開通、飛行場の設置、戦火に追はれた難民、上海租界、或ひは香港から引揚げた國難成金、さては南遷する文化人によつて桂林は急激にその貌相を一變してしまつた。戦前の人口約七萬だつたが戦火に追はれた難民と富豪の蟄集で、本年初頭には既に四十萬を越え、この人口の激増によつて住宅が拂底し、俄造りの民家が郊外にぎつしり建てられたが、深刻な住宅難は到底解決されず、これがため旅館が繁昌し大小數十軒の旅館はぎつしり避難民で屋根裏まで詰つた。

事變前李宗仁、白崇禧の統治下にあつた頃の桂林は大廣西モンロー主義の旗幟のもとに三自政策(自治、自衛、

自給が強力に實踐され、質實剛健な氣風の中に民衆は育まれ、官吏、軍人、學生は勿論、うら若き女性まで灰色の廣西装といふ詰襟の支那服、木綿の廣西帽、廣西靴を着用、徹底した所謂新生活運動を實踐して醇朴な美風が保たれてゐたが、事變以來上海、香港から避難した浮薄な民衆の氾濫によつて市民生活は忽ち歐米化され、洋服や靴が流行し、廣西獨特の氣風は全く姿を消したばかりか、この古色蒼然たる古都に米空軍將校約三百名が入り込んでからは米弗が巷に溢れ、これに眼をつけて市内にはナイトクラブ、ダンスホール、バーが雨後の筍のやうに簇出、連日連夜米鬼の亂舞で不夜城を呈し、頹廢的な植民地文化に廣西の良俗は一舉に踏み潰されてしまつた。桂林は抗戰の要衝として極めて重要な役割を果してゐただけに中央、地方の軍、政、經濟各機關が集つてゐるが、工業は三十箇所の印刷工場を除いて殆んど見るべきものがない。たゞ廣西大學工學院附屬工場の外一つの小規模乍ら工作機械を製造する工場があり、重慶治下でこの種の工場を持つところは重慶と桂林だけである。出來桂林は僻遠の小都市であるが、北京官吏の永住してゐるものが多いため言葉は北京官話に近い。事變前僅かに中學校を三校しか持たなかつた桂林は、殺到した富豪階級の要望で國立廣西大學、省立師範學校、桂林美術學校を首め中學校十四校が設立され教育機關は急激に増加した。文化施設も有名な商務印書館、中華書局、世界書局等が上海、香港から導入してからは七十種に上る雑誌が出版され、新聞通信社では中央通信社桂林分社があり、廣西日報、掃蕩報、大公報、自由報、力報などの五日刊紙がある。その他省立桂林圖書館がある。これは市内の目抜き通りで道を隔て、省政府と並び、藏

書数は數十萬冊と言はれてゐるが、焦土抗戰を恐れて大部分郊外の分館に移したといはれてゐる。(1011)

### 梧州の經濟的價值

梧州は廣西、廣東兩省の境に位し廣西省東南地區に於ける軍事、政治、經濟、交通上の最大據點にして殊に北部の桂林と共に軍事上の要害である。従つてこの地の攻略は重慶の抗戰軍事力に一大痛棒を與へ、殊に在支米空軍をして愈々奥地に逼塞せしめ彼等の活躍を徹底的に壓縮封鎖したところに大なる意義がある。更に梧州は西南支那に於ける交通上の要衝で、殊に廣西省と廣西省並に奥地とを結ぶ中繼地として重要な位置にある。廣東と貴陽は西江水路によれば約四百軒で事變前に於いては上航三日、下航二日で往復可能であり、船舶の往來は極めて頻繁であつた。従つて重慶が從來廣東省沿岸地區を初め遠く福建、江西諸省を結び、所謂國民ルートの據點として重視してゐるところだけに、この地の喪失による重慶の經濟的打撃は深刻なものがあるといへる。梧州の人。約十一萬でその内五分の一は水上生活者の蛋民である。清の光緒二十三年(西曆一八九七年)清英ビルマ條約により開港された貿易港で、戰前廣西貿易の七割乃至八割を占めてゐた。貿易品の主なるものは輸出品木材、薪炭等輸入品は棉製品、鹽等である。

(1011)

在支米空軍、貴州省基地化に狂奔

第一線基地布陣を覆滅された敵が、第二線基地の中樞と待む桂林既に崩壊に瀕し、柳州また深刻なる脅威に戦慄しつつある現在、西南支那敵空軍はその限りなき動搖のうちに、果して如何なる動向を辿らんとしてゐるであらうか。最近の外電を綜合してこれを視れば、桂林基地群の喪失を豫想して敵は既に數箇月前より後退の準備を進めつゝあつたことが明瞭に看取される。即ち湖南、廣西を縦斷する線を追はれた敵が後方補給基地たる雲南に退く前にその中間の地點に踏み留まらんと企圖し、地理的に見て貴州省附近に第三線の布陣を展開するであらうことは容易に想像されるが、最近の敵側報道はこれを裏書する節が甚だ多い。その主なるものは

- (一) 貴陽を中心とする大規模な電話線敷設擴張工事
  - (二) 貴陽より輿地への道路建設
  - (三) 貴陽、昆明方面の運輸業務促進を目的とする機關の設置
- などがある。電話線は貴陽市等七十九縣市に既に延長二萬八千餘哩、受話器九百三十臺の増設を行ひ、更に近く各

縣城、鄉鎮、公署間の連絡線を完備する筈で本年末までには工事を終る豫定といはれる。一方道路建設は既に舊ビルマ公路の雲南省内の部分の修理に着手してゐるが、現在保山地區の道路修理には約十萬の婦女子を動員し、米人技師はこれを「婦人公路」と呼んでゐるといはれる。同地區の男といふ男が悉く軍務に徴用された結果、後に残された婦女子を強制動員して工事を強行してゐるものであり、こゝにも米國の暴戾振りとその焦慮が遺憾なく窺はれる。更に重慶交通部は西南輸送率増強のため西南輸入物資督運委員會なるものを新設したが、同會には九名の委員の外に米人名譽委員三名及び米人顧問一名を置くことになつて居り、その業務は物資輸送優先取扱順序の指揮監督に當る筈で、主任委員職務はこの程貴陽より昆明に赴いた。その他昆明の人力節約辦法施行や西南公路運輸隊長會議、康貴(西康貴州)公路建設計畫など昆明貴陽を中心とする各方面の動きは頗る慌しいものがある。敵が廣西基地群を後退した後に於ける貴陽の位置は中南支を窺はんとするには敵に許される限り絶好の地點であり、敵は同方面に足の長い戦闘機を集結せしめ、随時に爆撃機をも推進して同地を第二の「航空要塞」となし、成都方面よりするB29の本土空襲を相呼應して大陸擾亂の飽くなき反攻を繼續せんとするであらうことは愈々確實と窺られるに至つた。

### 香港交易公社設立

香港占領地總督部では現地自活態勢の強化に即應、軍民需物資の充足、並に戦時生産活動の確保促進を圖るべく、今回香港貿易組合を發展的に解消せしめ、九月一日香港交易公社を設立、簡素強力なる機構の下に物資交易の全面的操作を行はしめることとなつた。構成組合員は香港協力商社十八社が指定され、資本金一千八百萬圓で總督の命令に基き業務を行ふ。

(九・三)

### 在佛印邦商總監督制を採用

在佛印邦商の生産活動は近來頗る活潑化し、その全投資額は〇千萬ピアストルに達してゐるが、最近の新しい傾向として注目せられるのは、南北佛印の生産企業を調整するため、一元的統轄機關の設置が相次いで代表商社によ

り實施されてゐることである。即ち〇〇物産では七月始めサイゴン支店長増田年尙氏を現職兼任のまゝ佛印總監督に任命、南方地域最初の總監督制を實施したが、〇〇商事でも従來の泰、佛印總監督制を廢し、佛印單獨の監督制を採用することに決定、初代監督加藤佐一氏の就任を見た。この外〇〇産業でも近くこの制度を實施する豫定になつてゐるが、これは代表商社が新なる機構の下に強力且つ総合的な生産を推進せんとする熱意を反映するものとして注視されてゐる。

(八・二八)

### 佛印在留邦人に愛國國債貯金を勸奨

サイゴン日本人會では、今回在留邦人の燃え上がる愛國の熱情を結晶せしめる最高の目標に就き種々研究の結果、愛國國債貯金を全在留邦人に勸奨することとなつた。本貯蓄の特徴は在留邦人のピアストル貯金を正金サイゴン支店にて受取り、これと同額の國債を本店にて購入、預金者の名義にて積立て置くものであり、これにより現地の不動ピアストル資金を回収すると同時に、母國へ生産資金を提供すると云ふ一石二鳥の効果を收めるわけである。而して一人當りの貯金額は内地の平均三百六十圓の二倍、七百二十ピアストルを目標に運動を展開する筈で、ハイ、ブロンベン等に於ける日本人會とも密接なる連絡をとり佛印在留邦人全部をこれに参加せしめる計畫である。

(九・一)

### 日佛印諸問題今後現地で解決

一〇八

佛印政府は八月二十日ドクイ總督が佛印統治上一切の権限を附與された旨公表したが、斯かる措置は十分豫想された所であり、従来でもドクイ總督は佛印の最高政治機關として存在し來つたのであるから、同總督が元首に等しき権限を持つに至つたのは現下の佛本國情勢に鑑み極めて當然な行き方に過ぎず、外交、内政共に何等の變化もあり得ないとの見方が行はれ、一般佛人側は今後一層團結を強固にし、大東亞の一員としての佛印の立場を再認識すると共に、對日協力強化一本に進むのだとの意見に完全一致を示してゐる。一方現地人の反響として注目されるのは「佛印はこれで完全に本然の東亞的性格に還元する。米英の侵略のためフランスと言ふ實父を失ふとも、日本と言ふ信賴出来る養母に護られつゝ搾取なき眞の世界平和建設に参加出来るのだ」と我國への信賴を新たにしている點である。今回の權限委譲を我國の立場より觀察すれば、佛印が従來通り我國との協力を維持する以上、これと好關係を持續すると言ふ根本方針には何等の變化もなく、寧ろ従來ヴィシー、東京間の折衝に移さなければならなかつた諸問題の解決も我が現地當局とドクイ總督間の直接交渉により處置し得ることになるから、兩國間共同防衛協定及經濟協定の實施は數段の飛躍的推進を見せること確實である。特に經濟的協力の面に於いて遅延し勝ちであつた諸問題の解決は、我が戦力増強への寄與の度合を更に向せしめるものと絶大なる期待が掛けられる。(八・二三)

### 新情勢下佛印の立場

佛印ドクイ總督は去る八月二十日コミュニケの形式を以て本國との連絡中斷の場合、全權を委任された旨發表した。右は北佛戦線に於ける事態の緊迫化に伴ふ措置であつて、佛印は本國の事態が如何に變化しようともドクイ總督の指導下に日佛共同防衛協定による對日協力を続けるものと解される。大東亞共榮圏の一員として日本と經濟的並に文化的に協力しようと言ふ佛印の意圖は、ドクイ總督以下佛印當局の屢次の言明によつても明らかに示されてゐるが、この點は北佛作戦開始直後に行はれた芳澤、ドクイ會談にもドクイ總督より重ねて芳澤大使に對し確約がなされてゐるので變りないと見ることが出来る。大東亞政策の觀點から見た安南獨立論も佛印に對して行はれてゐるが、佛印は嘗てのフォイビン、ビルマ、蘭印等の如く敵性國家の植民地であつたのではなく、日本とは終始友好關係にあるフランスの保護下にある土地であり、又日佛關係は日佛間の條約關係によつて規定されてゐる點が、他の舊英、米、蘭植民地の立場と大部異つてゐる。大東亞戦争開始當時佛印當局が示した協力は資材面に於いて、技術面に於いても相當廣汎であり、又現在佛印の經濟機構を運営してゐるのもフランスの技術と組織である點、我々としても無視出来ぬ現實である。

然し乍ら佛印内部に會てド・ゴール派的擾亂が行はれたことも亦事實であり、佛印軍十萬がこれら分子の策動の

一〇九

的となつてはこれまた一大事である。更に安南民族の安寧に就ても亦日本は決して無關心であることは出来ない。

一一〇

(八・二四)

### 佛印のゴム生産好調

米に次ぐ重要農産物たるゴムの生産計畫に就ては、佛印當局は年産〇萬噸維持を目標に種々施策を講じ、本年初には昨年三月末現在の栽培面積の四割を許可する方針を決定したが、現在の栽培面積は既にこの限度に達し、約十四萬ヘクタールに及んで居り、〇萬噸維持は勿論優にこれを突破するものと観られる。而して業者側の態度は當局より更に積極的であり、これはゴム栽培會社の殆ど全部が最近相次いで増資を斷行、投資總額は二億ピアストル前後に達してゐることに切實に反映されてゐる。

(九・一六)

### 佛印のタンニン工業本格化

佛印の林産副産物として松脂と共に重視されるタンニン生産に就ては輸入の完全杜絶に鑑み資源開發、抽出成績の向上研究に官民一體努力を傾注してゐるが、南部佛印カモト岬、サンジャツク岬一帯のマンガローブは歐洲及び東アフリカ物に比し大した遜色のないタンニン含有量を有してゐる事が立證されたので、これが増植を奨励する一

方愈々研究時代を脱して本格的なタンニン生産工業を開始することゝなつた。マンガローブ森林面積は現在四十六萬ヘクタールであるが、うち七割強の三十三萬ヘクタールは交趾支那、特にカモト、サンジャツク一帯に存在して居り、これにより採取し得たるタンニン原料たる樹脂の數量は大體〇萬噸(年産)と見られてゐる。この抽出工業が確立されればタンニン不足は一舉に克服される譯である。

(一〇・一〇)

### 佛印アルコールの生産順調

佛印油脂需給計畫は蓖麻、ココ椰子等重要油脂資源の飛躍的増産とアルコール工業の目覚ましい進展により殆ど目的を達成するに近い好成绩を収めてゐるが、特に増産顯著なるものとして注目し値するのはアルコールである。アルコールは油脂需給計畫の中樞をなすものであり、これが製造は近代工業の形態を完全に具備せる優秀性を誇り、昨年生産高は約〇萬噸の多量に達した模様である。これは昭和十六年乃至十八年以來官民一體の努力が實を結んだ譯であるが、これが原料として使用される碎米の數量は、大東亞戦前の〇萬噸前後から二倍半見當に上つてゐる。この外玉蜀黍その他を加算すれば相當量の原料が使用されて居り、アルコール工業の躍進を物語つてゐる。

(一〇・一〇)

一一一

### 佛印製材工場を電化

一一二

佛印に於ける我が造船建造計畫は逐年飛躍的に増大し、これに伴ふ船材の需要増加に對處する爲、現地木材關係業者側では伐採の増量を圖ると共に、從來造船建造材の隘路とされてきた製材工場の電化を實現することとなり、工事が進められてゐる。これが完成すれば製材能力は現在の數倍以上に飛躍向上するものと期待される。

(一〇・二五)

### 交趾支那で灌漑施設を増設

佛印の穀倉と呼ばれる交趾支那は稷の平均年産三百萬石強を記録してゐるが、單位收穫量はタイ、ビルマに比し幾分遜色あり。陌(約一町步)當り一、二廬見當に止まつてゐる現狀に鑑み、佛印當局では單位收穫量の増大の方策を研究、先づその第一歩として交趾支那の水利灌漑施設の増設を行ふこととなつた。右は過般開催された交趾支那水利灌漑委員會に於いて決定を見たものであるが、ドクレー總督も該事業を絶対喫緊事として、これに要する費用を豫算に計上、極力支援する旨言明した模様である。この計畫によれば交趾支那を平地々帯、海水地帯、河川地帯に分ち、先づ西部交趾支那が第一工事地帯に選ばれるものと豫想されてゐる。

(一〇・二四)

## 泰 國

### 泰國軍異動

前首相ビョン元帥は挂冠後泰國国防軍最高司令官の地位に上り、依然として軍權の一切を掌握してゐたが、クオン新内閣は八月二十四日朝勅令をもつて現在の國防軍最高司令官の地位を廢し、新たに野戰警察をも含む陸海軍總指揮官を新設し、これにポット・パホン・ヨテイン大將を任命、同時にビョン元帥は國政顧問とし、其他國軍首腦の陣容整備を斷行、二十四日夜これに伴ふ勅令並に首相告示を公表した。

尙新たに泰國陸海軍總指揮官に就任したポット・パホン・ヨテイン大將は二十四日朝のラジオを以て國防軍將兵にあて次の要旨の告辭を發表した。

余は總指揮官の名に於て泰國軍の全將兵に告ぐ。諸子は武裝する特權を有するは名譽ある國權であり、國家を守護し、國王の命に従ふべきである。現在泰國は諸種の困難、特に軍事的困難と戦つてゐる。その爲國王は國防軍最高司令官及び副司令官の地位を廢し、戒嚴令の規定に基づき余は總指揮官に任命せられた。余は重大な責務の實行に萬全の努力を拂ひ、國家の爲、國民の獨立と主權の爲に、余の責務を果すであらう。余は總指揮官として

一一三

全國防軍將兵の指導原則として次の事を命令する。

- 一、余を信じ他の者の言葉に迷はされるべからず
- 二、上官の命令に絶対服従すべし
- 三、秩序を亂す勿れ
- 四、余の命令に非ざる限り兵力を用ゆる勿れ

尙クオン首相も泰國軍に對し、今回の軍部異動に對し何等杞憂する必要のない旨の聲明を發した。(八・二五)

### 三原則具現に邁進するタイの經濟

先程成立したクオン新内閣はその經濟三大原則たる

- (一) 國民經濟活動の自由
- (二) 國家財政の安定、元費の節減
- (三) 國民生活の安定

の線に沿つて着々諸種の施策を進めつゝあり。議會方面も政府の努力に對しては全幅の支持を與へてゐる。又對日經濟問題も日タイ兩當局者間のよき理解の下に頗る圓滑に進捗し、大東亞兵站基地としてのタイ國の地位は愈々重

きを加へつゝある。

#### 一、經濟審議會の設立

現下經濟諸問題審議のため、クオン首相を議長とし大藏、農林、商業、工業、内務各大臣等を委員とする經濟審議會が八月二十日設立された。右審議會の目的は國家經濟の全分野に亘る調査研究を行ひその安定促進を圖るにあるが、八月二十一日、二十四日の兩日に亘つて會合を開いた結果、食糧品、衣料其の他日常必需品の増産及び價格の引下げ、運給官吏に對する戰時手當の支給、政府の棉花買上げ價格の引上等の問題が採り上げられた。戰時手當の支給に關しては早速九月より十二月の四箇月に一千百五十萬バーツを最下級者には本俸の十割、其の他右に準ずる戰時手當を支給することゝなつた。又右審議會と併行して商業會議所の活躍も注目されてゐる。即ち從來單なる社交機關に過ぎなかつた會議所の強化を圖るため、クオン首相は會議所委員との會合の席上

政府は商業貿易の促進、關取引の防止等に當り民間商業有力者の協力に俟つところが多い。このためには商業會議所をタイ國貿易商業の中心機關たるものに強化されたい。

と要望、委員側は右要望に應へ會議所改組案の起草に着手したが、今回の政府民間業者の協力によりタイ國商業界一般の發展が期待されてゐる。

#### 二、増産と低物價政策



國民生活安定に缺くべからざる生産増加と物價の取下げに就ては、政府も深甚の關心を拂ひつゝあるが、パンナワ・ヴィンツ工業大臣は右に就き左の如き言明を行ひ、當局の方針を明らかにした。

低物價政策に關しては、極力適正價格への引下げを期するが、戦前の水準以下に引下げて財界に動搖を起す如きことは避ける方針である。更に現在の物價昂騰の最大の原因は、闇市場の存在にあり。一般市場には物資が出廻らず闇市場で尨大な取引が行はれてゐるので、今後闇市場取締を嚴にしその撲滅を期してゐる。現在タイ國工業のうち見るべきものは、製紙業、製糖業、酒造業、製肉業、紡績紡織業であるが、製紙は頗る好成績で國內需要をほとんく充足域に達してゐる。製糖、酒造業も満足すべきものがあるが、二三不振のものもあり、そのため現在品不足を告げてゐるので大藏、商務、内務各省との協力を求め改善に努めてゐる。

### 三、税制整理の適正化

大藏省では既に明年度豫算の編成に着手し、右豫算は九月末の今議會々期終了迄に提出されるものと見られる。その豫算編成に當つては財政の安定、冗費の節約、インフレの防止に意を用ひると共に、特に税制の整理、適正化を図るため、國民各層の收入に應じた最も適正な課税を行ふべく研究を進めて居り、前議會に於て可決され明年度より實施豫定であつた獨身税は、國民負擔の過重といふ理由から議會方面に反對が多いため廢止される模様である。尙國家財政も概ね健全で本年度の國庫收入は、現在まで豫定より二十萬バーツの増加を示してゐる。(九・一四)

## 馬 來

### 馬來の勞務管理

決戦段階に突入せる今日、最も必要なことはアジア十億の民の力を一つに結合して生産力擴充に、國土防衛に當ることである。生産力擴充の鍵は勞務管理の巧拙にかゝること大である。今日の馬來は勞務需要に對し供給は極めて少いから勞務管理の問題は特に痛感されてゐる。當面する問題としては厚生施設の改善、日本語の普及、強力勞務統制機關の設置要望等である。勞務動員の法令は昭和十八年下半年から十九年二月までの間に一應出揃つた觀があるが、日本人及び現住民の遵法精神の漸養の必要な事は、勞務問題に於いて特に強力なる統制を以て引張つて行くこと及び彼等の物慾を充足するが如き手段が必要である。

#### 一、厚生施設の整備

軍關係の工場では立派な寄宿舎を持つてゐるものもあるが、概して寄宿設備に乏しい。今日の如く生産力擴充が焦眉の急を要するときには寄宿舎に收容することが望ましい。各個に通動させると出勤時間に間に合ふ者が極めて少い實情である。厚生施設問題で特に探さるべきものは作業中不慮の災害を蒙つた際に十分な手當を支給し、平素

積極的に危険な仕事に喜んで従事するやうな氣風を作るのである。

## 二、日本語の奨励

獨り勞務者に限らず日本語に對する興味を増進し、之を習熟せしめる必要がある。一般的に云つて日本語に習熟せる者ほど邦人と接觸し直接會話をし、單に親密の度を加ふるに止まらず作業上の知識も上達し、當該事業に對し定着性を持つことになる。日本語を教へる事は當面する生産力擴充には直接必要がないやうに見えるが實は然らず日本語の習得は大いに必要である。

現在では日本語平常として、最高五圓の支給を認めてゐるが、馬來工業會ではこれを十圓に引上げ、更に特定の檢定に合格した者には特に最高二十圓迄支給すべしと提言してゐる。

## 三、新しい勞務供給源

現有勞働力を最高度に活用した後は、結局新勞働者を獲得する以外に勞働力増加の方途がない。新勞働者を求める分野は隣接地域、例へばジャワから移入する場合と昭南島内で現に不要不急産業又は商業に携つてゐる者を緊急部門に向けることである。隣接地域からの移入も現に行つてゐるが、昭南の配給機構の準備により商業依存人口を生産部門に向けることが望ましい。この場合生産勞務者への特配により誘導することは勿論内地に於けるが如く特定業種に對する男子就業禁止の強行方途が必要であらう。

## 四、移入勞務の管理

隣接地域から移入した勞務者の管理は特に大切である。氣候風土が少しでも違ふと彼等は案外弱い。例へば馬來では夜明けに冷える。その折風邪を引いて彼等は簡単に參つて了ふ。彼等は抵抗力がない。その原因は偏食の缺陷にあるだらうと一般に見てゐる。

## 五、一元的統制機關

昭南では勞務手帳制を採用してゐるが内地に比して効果が少い。その理由は

一、現在就業中の勞務者の全部を包括してゐないこと、民間工場では勞務手帳のない者は雇傭出來ぬことになつてゐるが、一部では之を適用してゐないから、その間隙をぬつて勞務者の奪ひ合ひがある。

二、戶籍制度の不十分なこと、戶籍が完備してゐないから勞務手帳を何回とつて變名しても分らない。

三、馬來全體に實施してゐないから各州間の移動が盛んである。

要は所屬の軍民間如何を問はず全勞務者を一元的に統制し得る強力なる勞務統制會を作ることが必要であり、今日では各方面ともこの必要を痛感して實現の機運にある。これは喜ぶべき事であり一日も速に實現し勞務動員及び勞務管理に活を入れるべきである。

(七・三一日産)

### 遊休エンジンでローリー製作

一一〇

現地の輸送難を解決すべく〇〇鑛山タイピン出張所では、オムンチエン工場でローリーに替る代用車の製作を研究してゐたが、愈々九月十六日から待望の自家製ローリーが颯爽と運轉を開始した。現在の現地開發上の隘路は開發、資材、輸送等各方面に亘り、何れも進出邦人の眞摯な努力で解決されつゝあるが、特にローリーはタイヤ電磁氣部分品が消耗し、エンジンも現地自給が困難なので、〇〇鑛山では錫鑛山の遊休エンジンを活用し、輸送難を解消することゝなつたものである。今回の自家製ローリーは十五馬力の重油エンジンを取付け、最大積載量五噸、時速十五哩で、特にタイヤを使はず、價格も三千圓程度で完成し、外観もスマートである。尙同工場では更に四十馬力のエンジンを裝備した強力な牽引車を製作中であるが、同車が完成すれば數臺のローリーを連結した自動車列車が走る譯だと張切つてゐる。

(八・二九)

### マライの決戦即應施策

マライ軍政監部では戦局の苛烈化に應へ、九月四、五兩日マライ各州長官會議を開催、重要資源の緊急還送、現地自給、防衛、勞務並に輸送の五大項目に關し決戦即應施策を指示したが、マライ軍政監は九月十二日決戦マライ

の軍政施策に關し大要左の如く語つた。

内地還送物資の現況  
マライに於ける決戦重要施策は第一に重要國防資源の内地還送であり、第二は現地の自給自足體制の緊急確立である。重要國防資源の還送に就いて視れば現在迄に、いづれも中央から示達された數量は順調に還送しつゝある實情であり、今後戦力物資たるボーキサイトを始めタングステン、錫、生ゴム、ラテックス、コブラ、パーム油等緊急還送を行ふべく萬端の準備を整へてゐる。殊に生ゴムは還送示達量の約〇倍の貯藏があり、ラテックス、コブラ、パーム油は割當量以上の生産能力を有してゐる現狀であり、計畫數量の還送に就いては十分なる確信がついてゐる。

現地自給對策  
現地自活に關し最も考慮してゐる點は食糧増産と纖維生産である。食糧事情は官民の一致協力次第に緩和されつゝあるが、未だ絶對量を確保し得ぬので萬難を排し、タイ、佛印等からも補給しつゝあるが、纖維製品は飽くまで現地で解決したい意向で、戦前マライの衣料はインド綿製品に依存してゐたことは周知の通りであつて、これは英國の搾取的植民政策によるものであると共に、他面自然的條件が棉の作付に不適當だつたためである。然し當局としてはこれらの生産悪條件を克服し、創意工夫によつて自給に資すべく〇〇紡績を企業擔當者とし、既にネグリセンピランではガラ紡の操業を開始し、一方ジョホールでは精紡工場を建設中である。なほ目下各政府の奨勵により原住民が棉花、惠利蠶増産に努めつゝあり、ペラ、ペナンにも紡績工場を新設する計畫である。

一一一

尙又ペラでは野生バナナや食糧バナナの纖維を積極的に利用することゝなつてゐるが、これら紡績工場の設置に伴ひ、家内手織機による綿布製織も行はしめる筈で、農家の副業としてこれが振興を期してゐる。

家内工業振興Ⅱ其の他家内工業としては現地で自給し得る凡ゆる日用雜貨品等に就いて最大の援助を與へる積りである。例へば製紙業では〇〇、〇〇〇の兩製紙工場が大量生産に乘出してゐるが、手漉紙などは一般住民を指導して貰ひたい。その他石鹼等も同様であるがマラッカを中心に生産されるアンペラは數量數萬枚に上り軍需用品の梱包材料として廣く活用されてゐる。斯くの如く各種の家内工業の獎勵につれて夜業も盛んなので各政廳では夜業用の燈油を特配して原住民の積極的な勤務に應へてゐる。

勞務動員計畫Ⅱ各産業の開發に伴ひ勞務の積極的動員も必要となり、今年度の勞務需給策として不急不要職業従業者の轉換、勤勞奉仕隊の結成、女子勞務者の使用、青少年工の養成、學校卒業者の計画的配置等に就き勘案、これに基き、

- 一、直接軍に必要な勞務
- 一、軍作業に必要な勞務
- 一、國防資源開發用勞務

一、食糧増産其の他に必要なる勞務

に分ちそれ〴〵計画的に配置することにした。而して不急不要職業の轉換によつて生ずる勞務者は本年度〇萬に達

する見込みであるが、戰時重要度に應じて再配置する考へである。勤勞奉仕隊はマライ各地で結成した。隊員は何れも本來の職業の傍ら軽い短期間の作業にだけ従事してゐるが、可成りの成果を収めて居り、これらの努力には感謝してゐる。女子勞務者の使用は従來男子が従事してゐた軽い職業に限るが、これがためには或る種職業に就いては男子の就業を禁じ、女子を代行せしめることも必要と考へてゐる。青少年工養成は學校や各州の技術養成所で教育する外、特に職業を轉換するもの等は直接各工場や事業場へ見習工として配し實效ある教育をする積りである。なほ勞働員對策と併行して勞務者能力向上を期し褒賞制を設ける考へである。これに關しては現住民の勤勞精神に報ゆるべく各種の褒賞制を實施したいと思つてゐる。即ち會社や優秀工或ひは模範工、技術試験の合格者等にはそれ〴〵金品または適切なる地位を與へ、また勤勞奉仕隊の如き團體の功績も賞したいと考へる。

原住民の戰爭協力體制Ⅱ以上の如く決戰下のマライの爲すべき仕事は甚だ多く、而も軍政施策の究極目的は軍民一體となり聖戰を完遂する一途にある。當局としては飽くまで英米人と異り、心から原住民の味方となり、兄弟となり、良き指導者とならねばならぬ。これがためには各州市の政治參與制度を活用し、原住民の聲を聞き、また彼等に飽くまで戰爭目的を徹底せしめねばならぬ。その具體策として優秀なる指導者層の把握並に民衆組織の強化等があるが、華僑協會首めマライ協會等に實行性ある有能者を配し、これ等の人々を通じて軍政に對する民衆の協力を強化したいと考へる。民衆組織は各州市に設置された警察共助團や自警團組織、並に隣組制度によつて一應軌道に

乗りつゝあるが、更に非常事態に際しても十分活用出来得る如く今後は戸口調査の徹底を期したい。戸主は家族を、部落長は部落民をそれ／＼指導するが如く整然たる民衆の組織を強化するつもりである。(九・二八)

二二四

### 馬來敵性銀行の預金拂戻し決定

マライ軍政監部では管下敵性銀行の預金拂戻しに關しこの程左の當局談を發表した。

マライ地區に於ける英米蘭などの敵性銀行に就いては昨年三月以來その内容の調査整理を進めて來たが、何分英米蘭等は植民地採取の常套手段により各銀行の預金準備金等は凡て本國に送金してあり、小額の残存資金も盡く焼却した。従つて整理調査の結果ではこれらの敵性銀行の預金者に對する預金拂戻しは全然不可能な實情である。しかし軍政に協力し、新生マライ建設に献身してゐる現地人の福祉増進を考慮し、特に軍の負擔に於いて拂戻しを受け得られぬ預金者に情けある取扱をなすものである。今回の拂戻率は、

- 一、百弗以下の預金残高を有するもの及び百弗を超える残高を有するものに對しては百弗までは百%
- 二、百弗を超える預金残高を有するもの、百弗を超える残高に對してはその二十%を拂戻す

なほ拂戻しの概要は左の通りである。

一、拂戻期間 昭和十九年十月十五日より十一月末日まで

二、登録期間 拂戻準備のため十月一日より十月十五日までの間敵性預金者の登録を行ふ

### 三、取扱銀行

- (一) 昭南特別市、横濱正金銀行昭南支店、臺灣銀行昭南支店、華南銀行昭南支店
- (二) ジョホール州、正金銀行ジョホール支店
- (三) マラツカ州、正金銀行マラツカ支店
- (四) ネグリセンピラン州、正金銀行セレンバン支店
- (五) パハン州、正金銀行クアラリビス出張所、同クアアンタン出張所
- (六) ペラ州、正金銀行イボー支店、同タイピン出張所
- (七) セランゴール州、正金銀行クアラルンプール支店
- (八) ベナン州、正金銀行ベナン支店

### スマトラ

#### スマトラに於ける農園研究品發表會

東海岸州各企業農園に於ける現地自活研究は農園管理要員の携まざる努力の結果、最近續々と實を結び、その成果

二二五

は直ちに活用されて現下の重要課題たる食糧増産、現地自活達成を著しく促進せしめてゐるが、農園管理局ではこれら研究の成果を広く公開し、各農園相互の技術の交流を図ると共に従来各所で隔々に行はれてゐた各種研究を統一整備し、眞に優秀なる製品の生産を奨励するため、この程シアンタル農園に於て「農園研究作品発表懇談会」を開催した。

今回発表された研究作品は何れも重要資源の確保、食糧増産等重大使命遂行途上に於いて當面せる諸隘路を現地の有合せの資材を用ひて如何に克服すべきかとの命題に對して、各現場の担当者等が或ひは過去の記憶を辿り、或ひは創意工夫を働かせて解決し得た見事な解答であつて、その何れの一個を取り上げて見ても研究者の苦心と努力の宿るもの無き貴重品である。農園管理局では近く発表された全研究作品に對し的確な検討を加へ、眞に優秀なる性能を有し、且つ大量生産可能のものを取捨選擇してこれが増産を奨励し、また同一研究にあつては比較検討を行つて右基準に最も合致するものゝみを選択、生産をこれに限定統一すると共にこれが普及を圖る方針である。これにより全農園を打つて一丸とする眞に合理的なる現地自活態勢が確立され、企業農園の經濟活動は一段と強化推進を見るものと期待される。

なほ第一回研究発表の主なるものは次の如くである。

一、潤滑油關係

ダイゼル油と生ゴムを蒸溜これに植物油(ヒマ油)を加へるもの(管理局第一地方事務所)

カーネル油を木炭で中和、加熱、これに松脂を加へる(東山農事)

ダイゼル油に生ゴムを高熱處理し、これに脱酸、脱炭せるパーム油、カーネル油の混合物を加へる(大食農場)

パーム油のみによる製造(管理局第三地方事務所)

二、ゴム關係

ガタベルチャ利用の各種製品(昭和ゴム)

ガタベルチャの葉、分枝等を生のまゝ粉砕、これをゴム、ラテックス溶液、コロイド、硫黄、硫安、蟻酸の混合液にて處理、薄く引き伸して乾燥するとゴム製代用布帛となる。これを裁斷、ゴムラテックス糊を用ひてズボン、帽子、シャツ、バンド等に仕立てる。ガタベルチャの水分吸収性、耐熱等に着目、ゴムの新用途を圖つたもので、衣類不足の折柄、布地も縫糸も要らぬといふ。これは現下注目すべき發明である。

ゴム凝固劑代用品(熱帯産業)

現地に野生する燈籠草を大量栽培、搾汁リンゴをとる。蟻酸代用の凝固劑として立派に使用できる。

三、農機具關係

種蒔き機(東山農事)ブラジルで使用されてゐるものと同様のものを考案、これを使用すれば稻の蒔付に要する勞



力を半分に節約することが出来る。近く大量生産を實施。

その他動力腐蝕機、玉蜀黍脱粒機、ラビ切斷機、精米機、ヒマ剥皮機、紡織機、畜力用鋤、陸稻用除草鋏、筵編機等(各事務所及び各社)

四、自活關係

代用醬油速製(第三地方事務所)

玉蜀黍を焼きこれを粉碎、これに魚粉末、鹽、椰子、砂糖、水を加へ十分間沸騰すれば速製醬油が出来る。

その他黄色及び赤色顔料(第一地方事務所)

亜鉛華製造法(第三地方事務所)

石鹼、グリセリン製造(スマトラ拓殖等)

スマトラ正金支店網擴充

横濱正金銀行では島内經濟建設の進捗に伴ひ本年初頭より同行支店網の擴充を計畫、本年三月にはローセウマウエ(アチエ州)、シヤンタル(東海岸州)、同じく八月にはパレンバン州ラハトに夫々派出所を設け奥地金融機關の強化を行ひつゝあつたが、今回更にタバヌリ州タルトンにも派出所を設置し此の程業務を開始した。これにより同行

のスマトラに於ける進出箇所は支店四、出張所七、派出所四、合計十五箇所となつた。その所在地は次の通りである。

支店所在地

プキチンギ、メダン、パダン、パレンバン

出張所

コタラジャ、シボルガ、バカンバル、ジャンビー、テロクバトン、ベンクラーレン、パンカルピナン

派出所

ローセウマウエ、シヤンタル、ラハト、タルトン。

(九・三)

獨立許容聲明に關するスマトラ方面軍布告

スマトラ方面陸軍最高指揮官は九月七日左の告諭を發表した。

萬邦をして各々其の得せしめんとする神意に基づき、大東亞戰爭開始せられてより茲に二年有餘、諸君は各種の困難を克服して皇軍に協力し絶大な成果を收めつゝあり。この秋に當り帝國政府は、七日議會に於て東印度諸民族の永遠の福祉を獲得する爲、將來その獨立を認むべき旨中外に闡明せり。これ全く大東亞新秩序

念の實現にして、諸子の喜びこれに過ぐるものなるべく、本職また諸子と共に喜びを俱にする者なり。今や諸子の前途は洋々として光輝四遠に普しと雖も、將來獨立國としての名譽を堅持する爲には、諸子自ら先づ米英蘭勢力並にその思想を徹底的に芟除し、これに拮抗し得る力量を十二分に涵養すること必要なり。今次戦争はその目的より見て正に大東亞民族總躍起を要する一大決戦なり。従つて今次戦争に伴ふ困難は愈々増大すべきを豫想せるも、神意に基づく帝國は、必ず最後の勝利を獲得すべきことを銘肝し、帝國に信頼して切に皇軍と共に郷土防衛及び軍政施策の徹底に挺身し、大東亞戦争の完遂に邁進せんことを望む。

右帝國の聲明に當り、祝辭を述べて告諭す。

(九・八)

## ジャワ

### ジャワの農企業

ジャワ軍政監部はジャワ農園企業の積極的振興を圖るため、この程正式に栽培企業公團並に樹業公團を解消せしめ、島内企業農園の全面的移託經營化を斷行した。戦局の進展に伴つてジャワの生産力増強は直接戦力に至大な影響力を持つだけに極めて重要性を有するが、これが目的達成のため直先に要請されるのはジャワ自立經濟の確立で

あり、ジャワ産業の大東亞的再編成である。前者に對するものが島内工業建設であり、後者に對するものがジャワ生産力の主軸をなすジャワ農園の再編成、即ち食糧・纖維作物の大部を作り出す原住民農業の積極的振興と、ジャワ農業生産力に於て大きな部分を占める企業農園の戦力化である。従つて今回斷行された企業農園の委託經營化は現在全島重要工場事業場を中心として展開されてゐる戦力増強推進運動と相呼應し、農工併進するジャワ戦力増強の飛躍的進展段階を示すものとして大きな意義を持つものである。

#### 一、農企業經營の積極化

ジャワ戦定後間もない十七年七月、軍政監部はジャワ産業經濟の主柱を示す農企業維持のため、樹業を除いた全企業農園の綜合管理を行ふため栽培企業管理公團を設立、コーヒー、ゴム、茶の企業農園及びその生産貯蔵品を軍政監部の管理下に置いて栽培、蒐荷、加工から販賣まで一切の管理經營を行つて來た。然しこの際に於て最も大きな意義を持つものは同公團による管理栽培園の直接把握を明確ならしめたことで、公團設立以來敵性國人をも含む舊管理者に農園經營を繼續せしめ、公團は總括的管理經營のみを行ふやうな形式となつてゐたものを、同管理令によつて傘下農園は總て公團の直接經營下にあることを明確にした。然るに十八年度に敵性管理人の全面的抑留による人員不足その他から同公團の活動は相制限を受けるに至り、同公團は小數の日本人職員と原住民職員のみによつて農園の維持開發に努力したが、刻下重要物資の積極的増産に比してコーヒー、茶、ゴムの如き過剩農園の維



持轉換或はこれらの物資の新利用方面の研究に於いては稍積極性を缺かざるを得なかつた。

これに加へて戦局の進展は企業農園の最高度利用、急速戦力化を要請するに至つたため、軍政監部は本年春敵性農園の委託經營化方針を決定、先般官營農園等特殊のものを除いた敵性農園全部と、企業擔當會社の要員整備状況能力等を勘案して二十二社に假擔當せしめる旨を指令したが、次いでこの程正式に企業擔當命令を發し同時に公團を解消、これに代つて産業部に栽培企業監理官(久保寛次郎前公團理事長)を置き栽培企業園の指導統制を行ふこととなつた。

### 二、栽培企業聯合會の創設

今回企業擔當命令を受けた業者は全部で二十二社で、管理の能率上物資別或は一農一團單位で無く地區別に擔當會社が配置されたが、それは各地域内に於ける総合的管理經營上大いに利便があり、經營能率上好影響あるものとして注目される。相當會社には前記〇〇藥品以下製藥會社五社、製糖會社六社の外、戦前から南方に進出してゐる二社、現在島内で棉花栽培を擔當してゐる〇〇農林、〇〇農事、ガタバルチャ栽培をやつてゐる〇〇社があり、農企業關係會社の殆ど全部を網羅してゐる。二十二社は發令と同時に栽培企業聯合會を創設、農企業に關する軍の指導統制に協力することとなつた。

### 三、今後の栽培企業對策

今回の農企業經營形態の改組に伴ふ今後の栽培企業對策は大要次の如くである。

栽培企業園に就いてはその有する特産資源の内現下の戦力増強に直接必要なるものはこれが増産を確保し、その他に就ては將來の重要資源たるものはこれが生産力維持に努め、然らざる民需物資源は現下の最小限の需要に對應する程度に生産力を維持することとし、右の限度を保持する外は農園を轉換して時局下緊要の農産物増産に活用せんとするがカカオ、ゴム、コーヒー、茶、サイザル、ココ、ラミー、デリス等の物資に對しては可及的速かに實施に移される豫定である。

島内全企業農園千九十八農園約五十萬ヘクタールの内今回二十二社に對して四百七十五農園約三十萬ヘクタールが委託經營に移されたが、この他には更に復歸邦人〇〇名に對する〇〇農園委託經營が豫定され、また原住民經濟新體制建設に伴ふ現地住民への一部開放等も近く實施される筈で、これによつてジャワ企業農園の大部が委託經營に移される譯で、また栽培企業聯合會も近く役員決定次第本格的活動を開始することとなつて居り、栽培企業監理官の適切なる指導統制と聯合會の全面的活動協力に依つて島内農企業經營は一段と積極化され、戦力増強に大きな貢獻をなすものと期待される。

### 四、糖業の委託經營化

軍政監部は栽培企業の全面的委託經營化に伴ひ、島内製糖業も委託經營に移すこととなり、この程正式に糖業公



團の解消並にこれに伴ふ糖業監理官の設置、〇〇以下六社に対する正式企業擔當命令及び軍政統制の協力機關たる糖業聯合會の設置六を認可した。これによつてジャワ裁定以來糖業管理執行員(花田菊造氏)によつて管理せられて來た舊蘭印時代からの糖業關係統制機關たるシュガー・シンジケート、ニヴァス(砂糖販賣組合聯合會)及び糖業試驗所、全ジャワ甘蔗園並に製糖工場を接收して昨年八月創設せられて以來、ジャワ産業の大宗たる製糖業の維持保全並にこれが戦力化に大きな業績を残して來た糖業公園は發展的解消を行ひ、これに伴ひ新に軍政監部産業部に糖業監理官(岡出幸生前糖業公園理事長)を置き、糖業並に糖業に基礎を有する重要工業の統制指導を行ふこととなつた。又糖業關係六社は糖業聯合會を組織し、會員の相互連絡、糖業關係事業の各種統制の實施機關として活動することとなつた。

ジャワの糖業は東印度に於ける最も重要な産業であるが、而もこれは廣大な舊蘭領東印度に於いてもジャワに限られた産業であり、實に東印度經濟の鍵を握つてゐるといふも過言ではない。最近數十年來ジャワ島内はもとより外領、主としてスマトラを中心としてゴム、茶、コーヒー等幾多の栽培企業が発展しつゝあるが、經濟的重要性から見てジャワ糖業の右に出るものは無く、前記各種農企業も糖業關係資本の息の掛つてゐるものが多く、ジャワ産業に於いて糖業の占める地位は極めて高く、原住民經濟に影響するところも極めて大である。これが原因としてはジャワの糖業は集約經營の極致を示し、製糖工場數も非常に多く、又工場は自身の耕地を有するもの少く、大部分は

原住民の米作地を短期契約で借地して甘蔗を栽培、普通賃銀労働の形でその生産が行はれて居り、その他直接に糖業に關係する原住民は莫大な數に上つてゐた。このため軍政監部では戦後應急措置として、裁定後間もなく糖業管理事務執行員(花田菊造氏)を任命、糖業統制機關たるシュガー・シンジケート及び蘭印砂糖販賣組合(通稱ニヴァス)並に糖業試驗所をその管理下に置いて、ジャワ糖業の運営を持續せしめたが、糖業對策としては昭和十六年植付の甘蔗は昭和十七年ジャワ裁定後間もなく成熟期に達したので、これは全部製糖するに決し、約百三十萬トンの製糖を完了した。又十七年度植付十八年度製糖の分に就ては共榮團の需給情勢、島内ストック量その他から相當の縮減が豫想されたが、農園の土地契約關係、原住民經濟への影響も考慮して生産量六十萬トン(約四萬ヘクタール)と決定、十八年度植付十九年度製糖分も大體同程度の生産を持續した。この間戦後應急處理の完了に伴ひ、糖業に關する軍管理機關として昭和十八年六月五日糖業公園を設立、甘蔗園に於ける栽植、砂糖の製造、處分、貯藏等糖業に關する一切の事業を行ふことになつたが、同時に糖業管理事務執行員並にシュガー・シンジケート(糖業聯合會)ニヴァスを解消せしめ、又マラン州バスルアンの糖業試驗所は、同公園の管理下糖業に關する試験研究を行はしめることとした。又糖業に關する實際業務はジャワ裁定後間もなく進出して來た〇〇以下六社に依つて行はれて來たが、公園設立に伴ひ六社はその管理事務執行を公園に擔當せしめた。その後本年六月、農企業の全面的委託經營化に伴ひ、糖業關係事業も委託經營に移されたが、本年度甘蔗作付面積は現在〇〇工業の建設が極めて順調な推移を

みせてゐるも、これが本格的活動を開始し相當の甘蔗を消化し得るまでには多少時日を要するものと豫想されるので、食糧増産対策に基く甘蔗耕地の食糧農産物への轉換増大等により〇〇萬ヘクターと決定された。

#### 五、工業建設と製糖工場

ジャワには舊蘭印政府の自給自足政策により生必物資を中心とする一聯の輕工業の設備を有してゐるが、軍政監部は兵站基地ジャワの重要使命達成のため更に積極的工業化に乗出し、軍政二箇年の準備擴張時代を経て昭和十八年後半から本年に掛けてジャワ工業建設は本格的建設擴張時代に入った。その後急迫せる戦局は更に急進なる建設と龐大な増産目標の確保を要請するに至つたので、軍政當局では五月五日から七月三十一日までを第一期戦力増強推進期間と定め、全島重要工場八十三工場に對して夫々建設と増産の目標を指令し、今や軍官民一體となつて火の出るやうな建設と増産の進軍を續けてゐる。この素晴らしい工業建設に於いて島内製糖工場が極めて重要な任務を遂行しつゝあることは見逃がし得ない。即ちジャワの工業建設の當初に於いては島内に現存する工業設備は纖維工業その他輕工業設備を主體とする上、設備機械の大部分は歐米諸國より輸入設置したものであるため、工場設備の擴張及び新規建設資材はその主要部分の殆ど總てを内地に依存せざるを得ず、その他資材は戦争による遊休工場、即ち農企業に屬する工場の資材を利用する外なかつたのである。斯くして資材取得工場として、新規工場敷地として製糖工場が取り上げられた。ジャワの製糖工場はその機械設備として世界に於ける糖業地中ではキューバに次ぐ優

秀な機械設備を有し、且つ大部分の工場は豫備資材、自家發電設備とが専用機械修理工場を有してゐるため、工場建設に利用し得る資材は製糖工場を措いて外にはなく、戦争による破壊工場修理を手初めに砂糖工場の資材は各方面に利用され始めたのである。而るに戦局の進展に伴ふ船腹の不足とこれに反比例する戦争要請の増大は、長期に亘る内地機械設備の移入を待ち得ざるに至らしめ、製糖工場資材の利用は更に徹底化されつゝあり、現在全島各地に於いて、建設或ひは擴張されつゝある工場に於いて製糖工場敷地或は製糖工場よりの資材に依存しない工場は無いと云つても過言ではなく、製糖工場設備はジャワ工業建設の陰に測り知れざる貢獻をなして來たのである。

以上の如く、ジャワ糖業は軍政當局の適切なる措置によつて生産縮少による原住民經濟への影響を最少限度に止めると共に、これが生産力は戦力増強に餘すところなく利用されつゝあり、糖業關係原住民委員は新規建設工場要員として活躍し、維持工場は今後糖業管理官の適切なる指導と糖業聯合會の本格的活動によつて、一段と積極的維持運営が行はれてゐるものと期待され、刻下の戦争要請に對しても、現在並に將來に於いてもジャワ糖業対策は間然することなき着實なる推移を辿つてゐる。(八・二五)

#### ジャワ住民防衛と建設に挺身

ジャワは近日、獨立を許與されることになつた。それは五千萬全ジャワ住民の感激的であり、この歡喜は凝集

して米英撃たすんば止まずの闘魂と化して大東亞の諸民族に力強い感奮を與へてゐる。中央參議院議長スカルノ氏は決戦敢闘士氣昂扬週間及び大東亞の同志に呼びかけ「五千萬のジャワ住民は再びわれわれの土地を植民地化せんと必死の反攻を續ける敵米英の帝國主義を撃滅すべく敢闘を續けてゐる。戦局如何に熾烈化するとも、或ひは米英より正面から攻撃を受けようとも、われわれは猛虎の如き日本軍の敢闘精神に續き、最後の勝利獲得の日まで斷乎戦ふものであることを誓ふ」と烈々の決意を披瀝してゐる。ジャワ全住民の敢闘精神はこのやうに旺盛であり、而もこの精神を盛るべき機構としては既に昨年十月ジャワ防衛義勇軍が編成され、皇軍の指導下警防團、青年團、隣組、挺身隊と共に果敢な活動が行はれてゐる。義勇軍が皇軍の指導を受けて猛訓練を續けるや、ジャワ奉公會、義勇軍後援會、婦人救護隊、隣組等が活潑な銃後運動を起し、義勇軍に對する直接協力、衣料の提供、乳幼児の世話を進んで引き受け、義勇軍をして後顧の憂ひなく防衛活動に挺身せしめてゐる。上には陸海空の精銳皇軍滿を持し下には民族防衛組織斯くの如く完備し、南方の防波堤、ジャワの軍民防衛態勢今や全しの感が深い。

ジャワの決戦防衛態勢を鞏固ならしめるものは、單に軍事的要素ばかりではなく、南方に誇るジャワの豊かな經濟力がその背後をがっちり固めてゐる。戦定以來二年の間わが軍政當局の撻まざる努力によつて農工併進する産業建設の總進軍が進められた結果、今日では食糧ジャワから兵器庫ジャワへと飛躍するに至つた。しかも去る五月七日から同末日迄の第一期戦力増強期間を契機として、全島重要工場の増産と建設が進められて今や最高潮に達し、

船舶用機關、紡績、亜鉛、苛性ソーダ、カーバイド、石灰、カーボンブラック、自動車部品、硫酸、乾電池、紙其の他の重要工場の生産力は十九年度後半から劇的増大を見ることになつてゐる。工業と共に農業方面にも大規模建設が各地に進められ、そのうちジャワ第二の大河たる東部ジャワのプランタス河の大治水工事は七月末完成、治水による農地の造成はもとより大發電計畫も進められてゐる。ジャワの經濟建設の一つの特徴は五千萬民衆の總力が動員されてゐることであつて、去る四月末軍政監部より發表された住民經濟新體制要綱によつて、ジャワ住民に對して經濟界各方面に於ける活動が擴大されてゐる。

オランダ三百年の統治下に於て申譯ばかりの政治參與を與へられて土民兵として酷使され、戦前大東亞民族中最も低い地位に置かれて來たジャワ住民は、わが軍政施行と共に原住民官吏の全面的登用、本格的政治參與の實現、防衛義勇軍の編成、住民經濟新體制の實施によつて新しき大東亞の一員として更生の喜びに浸りつゝ、今日見る如き民族防衛と決戦經濟の態勢を確立したが、今又近き日に於ける獨立の榮譽を約束され、その感激は愈々米英撃滅の闘魂を湧き立たせてゐる。

(九・一四)

### ジャワ木船建造豫定量突破か

昭和十九年度に於けるジャワの重點産業たる木造船建造は新設二造船所の本格的建造開始により豫想以上の建造

數量を示し、現在既に〇〇隻を進水せしめてゐるが、更にこの程内地製材工場〇工場分の製材機械が現地に到着、既にその組立も完了して操業を開始し、從來船體建造の際の隘路たる製材能力の完備實現を見るに至り、エンジン等の現地製造にも成功を見、増産は一層の拍車を加へられるものと期待されてゐる。從來南方園木造船建造の際、難事をされてゐた機關部製造も關係方面の眞摯な努力で實を結び、現在までは某工場に於て月産〇〇臺、他の工場に於て月産〇〇臺、更に新設某工場の〇〇臺製造可能の見込等がこれに加はり、月産總數量は船體製作數量を上廻る状態にまでなつてゐるため、本年中に豫定數量突破が豫定されてゐる。

(九・二五)

### ジャワ敵産企業農園一部原住民に委託經營

ジャワ現地住民經濟力の向上發展を圖るべき住民經濟新體制の實施方策に就いては、先に住民經濟新體制建設準備委員會に於いてその大綱を決定、愈々住民經濟局を中心に實施されることとなつたが、この程その第一歩として敵産企業農園の一部を委託經營せしめることとなり、過日軍政監部はこれが實施要綱を發表した。これによると今回現地住民に開放される農園は、企業農園のうち比較的小規模な農園と不動産管理公園管理下にある小農園三百七十の外過敵食糧増産のため栽培企業公園から州廳に移管された農園中適當なものを原住民に擔當せしめる。又この企業擔當者の銓衡は各州長官が州内原住民中優秀で軍政協力の熱意があり、且つ農園經營能力あるものを選んで軍政

監宛に申請、更に軍政監部に於いて日本人、原住民よりなる特別委員會で審査決定することになつてゐる。

(一〇・三)

### 決戦完勝週間全島に展開

ジャワでは九月一日より決戦敢闘士氣昂揚週間が全島一齊に展開されたが、第一日の一日中央參議院議長スカルノ氏は日本並に大東亞の闘士諸君と題し、左の如く日本と共に戦ふ決意を披瀝した。

日本の同志諸君我々五千萬住民は再び我々の土地を植民地化せんと必死の反攻を續けてゐる敵米英の帝國主義を撃滅すべく敢闘を續けてゐる。我々が大本軍に協力して戦つてゐるのは正義人道が大日本軍にあるからである。われ等は戦局が如何に熾烈化するとも、或は米英により正面から攻撃を受けようとも最後まで戦ふのみである。我々は日本軍の猛虎の如き敢闘精神に續き、輝ける光榮の門を開く、即ち最後の勝利獲得の日まで斷乎戦ふものであることを誓ふ。

(九・二)

### スラバヤに牛車を大量生産

輸送の隘路が小運送にあるとされてゐる現在、陸輸總局では去る八月一杯を第一次輸送推進期間として、特種物

資及び重要物資の計畫重點輸送の推進を期し、特に小運送の能力が鐵道能率の向上及び各種物資の寛荷配給の圓滑急速化に重要な要因となることから牛車・二輪車の増産、勞務者確保、荷物收容設備の新設等を計畫、着々その具體化を進めつゝあるが、スラバヤ州ではこれら小運送能力の最高發揮のため、牛車(チソカール)を陸上輸送機關の根幹としてこれの大増産を計畫、今年中に一噸積牛車三千六百臺を建造、畜力(特に牛による)を人力を補助輸送力として陸上輸送の完備を期する一方小運送業者を一括統合して、陸上運送組合の結成を目下急ぎつゝあり。同組合の結成實現により牛車の増産も同組合を通じて材料其の他を斡旋、その急進建造を期する豫定である。また州内フランクス河、其の他の河川を利用する曳船による輸送力の強化をも目下考慮中で、このため曳船用動力船十隻の新造も豫定してゐる。

(九・二八)

### 敢闘するフロレス島の近況

チモールと並んでわが南方占領地の最前線フロレス島に在つて直接原住民を指揮して敵前建設に活躍してゐる齋藤司政官はこの程シンガラジャに來島、戦ふ全島の近況を次のやうに語つた。

面積は一萬七千五百餘平方キロもあつて略々九州地方に匹敵するが、人口は六十五萬、その密度は非常に低い。海岸線を除いては殆ど山岳と丘陵地帯に覆はれてゐる。この島は戦前不毛の地で、殆ど他島からの移入物資に依存

してゐるが、軍政の開始によつて食糧の現地自給方針が採用されて、水田や野菜畑が次々に拓けて相當の收穫を得るやうになつた。殊に豆、芋類、玉蜀黍、玉葱等は非常に豊富で、今では他島に移出するまでになつてゐる。また島民の努力は涙ぐましい程で數十キロの遠方から徒歩でやつて來て協力を懇願するものが各地に續出し、又いたいけな子供等も何か仕事をと依頼する程だ。現在では殆ど老若男女を擧げて軍政に協力してゐる。また青年層の敵撃滅の闘魂は物凄く、現在全島各州に亘つて男女青年團が結成され、旭日に櫻の花をあしらつた團旗が各團に授與され、〇萬名の男女青年が活躍してゐる。男子は現地將兵の直接指導下に軍事教練に勵んでゐる外、食糧増産や勤報に挺身して居り、女子青年團は手紡、手織の作業や勤勞奉仕に活躍してゐるが、現在續々と團員加入の中込みが殺到するといふ頼母しい状況だ。熾烈な戦局と共に島民の必勝の信念も愈々固く、自戦自活力強化に一丸となつて敢闘してゐるのが同島の實相である。

(八・二五)

### ボルネオ

#### ボルネオ建設二年半の成果

ボルネオ軍政發足以來二年有餘の間、敵前建設の成果は眞に輝かしいものがある。磐石の治安と軍政の確立、大

東亞共榮圈確立の意識に目覺めた現地住民の積極協力を不動の基盤とする建設體制は正に日本にしてよくなし得たのである。南ボルネオは今や過去の成果を總攬集して戦力資源の確立と郷土防衛に邁進してゐるが、軍政二年半の成果と現状を概観すれば次の如くである。

### 一 軍政二年半の成果

軍政開始以來の経験を基礎として昨年四月民政部直轄地域の外、〇州及び〇縣、〇〇分縣を設置し、奥地に至るまで監理官を派遣して軍政の迅速且つ圓滑なる施行を期し、名實共に軍政機構は充實鞏固なものとなつたが、更に決戦即應の態勢を一段と強化するため、本年五月第一線行政並に警察機構の整備強化を圖つた。而してこの間各地域相互間の連絡を強化するため、去る三月には初の州知事會議を開催、軍政首腦者が一堂に會して將來の施策を協議、更に各地域とも縣並に分縣監理官會議及び郡長、村長會議を開いて施策の圓滑なる推進を圖つて來た。一方帝國が先に海軍地域原住民に與へた政治參與實現の公約は、公約後僅か四箇月を出でずして本年三月ボルネオ直轄地域州會並にバンジェルマン市會となつて具現し、隨時重要問題を審問し答申を求めて來たが、これは從來持つてゐた民衆の要望と意欲に一定の形式と方向を與へ、協力する現地住民の衆戰參加の總進軍態勢を確立、大東亞建設戦への參加が當然の義務たる觀念を一般住民に徹底せしめ、勤務觀念を是正し、勞務動員態勢を強化して建設戦に協力すべきこと、及び消費節約、家庭生活の刷新、貯蓄心の昂揚等戦時生活の實踐を指導者階級自ら陣頭指揮に挺身

してゐる。これは現段階に於て現地住民がなし得る協力のすべてを端的に表示し、實踐したものとひび得べく、我が軍政要員は現地住民と渾然一體となり、熱情を以て萬事を處理する軍政の推進ぶりが現地人の心を根底から動かしてゐる。

### 二 驟起する原住民

敵反攻の熾烈化と戦局の動向を直視した原住民の撃滅戦參加希望數額は現地當局を悩ましてゐる程であり、一方斯る要望は夜警として結成された興南報國團並に青年團が縣、分縣の下部にまで組織を強化し、バンジェルマンでは婦人層の驟起となつて婦人會誕生となり、隣組制度も同市内八百數十に上る結成を完了した。これらの諸團體は非常時の錬成を積む傍ら、公學校、中等學校生徒と共に原住民、華僑、アラブを問はず食糧増産を首め、各種建設部門に對する勤勞奉仕に總出動、汗の奉仕はバンジェルマン郊外の一萬二千キロに及ぶ灌漑水路工事を僅々二箇月にして完成せしめるなど、驚異的成果をはじめ數々の勤勞美談や敢闘の記録を生んだ。

### 三 目覺しき經濟建設

ボルネオの經濟建設は舊蘭印軍により破壊された石油、石炭關係施設を首め道路、橋梁等の復舊に重點を置くと共に、一方戦前石油、石炭、ゴム、コブラと若干の木材事業以外未開發に擱置されてゐた資源調査に伴ふ現場恢復への努力は十七年末を以て殆ど完成し、漸く本格的建設時代に入つた。建設の重點は鑛物資源の開發に置かれるべ

きは當然であるが、この間緊急資源調査團、マカツサル研究所、軍政當局並に企業擔當社の一體的調査活動が著しく、各種重要地下資源の相次ぐ新規発見は、いよ／＼ボルネオの地位を重要ならしめたのである。これが開發戦力を基幹とし、民生安定の諸條件を綜合勘案して建設方策が策定された。即ち鑛物資源としては石油、鐵、石炭、滿俺、ダイヤ、水銀、白金、稀元素、農、林、畜、水産資源として米、木材、皮革、タンニン劑、沿海漁業、其の他の代用麻袋、醫藥品、陶器、煉瓦、耐火煉瓦、セメント、蠟燭、金物、ゴム油、カーボンブラック、ゴム加工、隣寸、機械修理、手漉紙、コークス、木船、船舶修理、倉庫など廣汎な分野に亙るもので、それが開發推進に當つては從來の經濟の大宗を占めてゐたコブラとゴムの二大農産物に對し、生産の抑制對策を講じ、これに代り食糧の自給、輸送力の増強など重點措置を講じた。斯くボルネオ建設は各部門で華々しい成果を擧げてゐる。

四 資源開發の現況

地下資源では石油を筆頭に、ダイヤは戦前の十數倍に躍進を見せたが、更に西ボルネオ地區で新たに大増産計畫及び白金、砂金の内地還送も軌道に乗つてゐる。

鐵鑛石は戦前から知られてゐた○○島を首め、新たに南部地區○箇所に極めて優秀な大鑛床を發見、これを原料とする現地木炭製鐵が間近に開始されんとしてゐる。水銀の採掘も緒に就き、目下開發が推進されてゐる。稀元素も東部並に西部に發見され開發を進めてゐる。この外ボーキサイト、滿俺が同様新規發見され、滿俺は既に對日還

送を續けてゐる。

五 農林部門も躍進

農林部門ではゴム、コブラは大幅の生産制限をみたといへ、民生安定の見地からなほ相當量の生産計畫が進められて居り、米に就ては増産計畫が效を奏し、現在では戦前不足量の約三分の一の數冊を他地域に仰げば足りる程度に自活度を昂めて居り、一兩年後には完全なる自活態勢が出来るであらう。木材は企業擔當者數社を數へる盛況で伐採、製材共十九年度は前年に比し約二倍の實績を確保する計畫で、林區の變更、製材機の擴充、勞務の確保對策を進めてゐる。

六 交通大動脈完成近し

輸送力増強對策としては河川を中心とするブラウ輸送に重點を置き、ブラウ建造を積極化して居り、また木造船も本年度は昨年度の二倍を建造目標としてゐる。交通施設は完全に修復し、港灣設備も修理擴張を見、道路も東部並に南部に於いて、各百數十キロに及ぶ幹線道路が計畫されたが、南部は既に完成を間近に控へてゐる。(八・二五)

北ボルネオの食糧増産顯著

北ボルネオの食糧増産は米發増産の劃期的推進及び休閑地利用のクピオカ、甘藷等代用作物の増産など目覺しく



進展して山野の開拓まで着々と行はれてゐる。山全體が内地のやうな階段式の山畑となり、原住民は椰子林の隙間や路傍の空地の果まで、勤勞の歡びを味ひ乍ら汝々として耕やしつゝある。斯くて北ボルネオに於ける食糧増産は漸く第一期の自給目的を達成して今や第二段階に入り、防衛體制の確立と並行する増産運動の展開は益々積極化し、強力に推進せられてゐる。

米穀増産では陸稻、水田の植付面積増大と共に西海岸州の水稻輪作着手が擧げられる。輪作は植付時期を約三箇月早めた結果、けふこの頃ではもう米穀生産地一帯は青田の波に蔽はれ、除草に、害虫驅除に、農村は従來にない活氣が溢れてゐる。生産地パールの二期作農園に於ける水稻増産試験は、日本の農業技術によつて種々の角度から探究され、現在收穫の時期となつたが、結局員粒といふ在來種が最適種と決定した。同國の技師は「從來の英反當り八ビクル平均から、二十五乃至三十ビクルまで大幅に引上げ得る確信がついた」と頼もしく語つた。西海岸州ではこの種を普及し、次期植付には一層増産運動を強力に展開しようとする種々準備を進めてゐる。代用作物の増産運動展開に當つては農民は進んで空地を提供し、クチン州の如きは一戸當りタピオカ二百本の植付を實行した。北ボルネオの地味は一般に非常に良く、食糧増産の積極化は都市の疎開に伴ふ農業勞働力の増大と相俟つて大いに期待される。當局では今回農民の要求に應へて、鉄一萬挺、スコップ一萬七千挺、單價五圓の市價で配給することゝなつた。配給順の第一位は都市の疎開者に置き、引續き農具の配給を行ふため鉄、スコップ等五萬挺を準備してゐる。(八二六)

### 最近の北ボルネオ經濟狀況

北ボルネオの決戦施策は積極果敢に展開され、第一線基地としての體制は着々として強化されつゝあるが、最近に於ける經濟狀況を摘記すれば次の如くである。

米穀増産に邁進 米穀増産の徹底推進に當つては

- (一) 農耕法の指導改良による反當り收量の増加
- (二) 植付面積の増加

を二大目標として具體的には排水工事及び病蟲害の積極的驅除、並に品種の選定に懸命の努力を拂ひ、食糧自給の完遂を目指して邁進しつゝある。即ち排水工事は短期完成のものから漸次改良が實施されて居り、病蟲害の積極的驅除は米穀増産上の重大施策として現在各種藥品の使用と共に除草による病蟲害防除に大奮である。品種は臺灣在來種が他品種に比し一段と成績が良好なので、各地では今後これを種親とすることゝなつた。初めて試みられた輪作は極めて順調な経過を辿り、來る十一月に於けるこの收穫には多大の期待がかけられてゐる。

石油開發と木船建造 北ボルネオ最大の期待物資たる石油はミリ、マリアの外着々と開發が進み、精油所の整備擴充と相俟ち一段と活潑化しつゝあるが、近く石油増産の一大推進力たるべき劃期的大工業が開始されることになつ

てゐる。尙〇〇商社で製作中のドラム罐代用品としての木樽は成績が良いので大量生産を目指して新たに〇〇會社が進出することになった。木造船建造は引き続き進捗し、その成果は海上運送力の増強となつて好成績を擧げてゐるが、今回懸案の焼玉機關補給を圖るため、相當規模の船用機關修理建造工場を建設することになり、かねて手配中の諸資材もこの程到着したので愈々工場建設に着手される。

貯蓄増強と勞務管理に金融一般は順調な経過を示してゐるが、本年度上半期資金計畫の飛躍的增加に伴ひ、これら放出金の吸収には積極的施策が講ぜられることとなつて居り、一方これとは別に從來比較的顧みられなかつた貯蓄増強運動が急速に展開をみ、先に在留邦人は貯蓄組合を結成したが、今回新たに原住民に對する貯蓄増強運動が各區域で積極的に展開されることになつた。又勞務面に於ては勞務者登録の強化並に公定賃銀の支拂を奨励した結果、勞務者の横流れは絶ち閑賃銀は是正され、勞務の適正配置が實現してゐる。

(九・二七)

### 西ボルネオにて椰子油を増産

コブラ蒐荷擔當商社では、コブラの蒐荷と併行して椰子油増産の要請に應へ、曩に華僑經營の搾油工場を接收し設備に改善を加へ月産〇〇トンの増産を行ひ、椰子油の需給調整に寄與しつゝあるが、今回更にボンチャナツク市の華僑經營搾油工場として操業中の夏密工場をも接收、合理的經營により月産〇〇トンの増産を行ふと共に、敵の焦土戰

術により半燒の状態のまま放置されてゐる部分に對しても、復舊並に擴張工事を加へて大増産をなす計畫である。

(九・二二)

### 南ボルネオでダイヤの増産實施

南ボルネオが開發増産に邁進しつゝあるダイヤは、我が國軍需工業の飛躍的増強に伴ひ益々量的確保が緊急の課題となつてゐるに鑑み、現地軍政當局は曩に裝飾研磨を全廢して専ら工業用として對日運送を行つて來たが、今回現地住民の保有する裝飾用ダイヤを市價を以て積極的に買ひ上げると共に、増産に就いても二週間の増産期間を設けて拍車を加へてゐる。増産期間は戦前の生産地に新規の生産地をも加へ、合計四箇所それぞれ最近二箇月間の生産実績平均の倍額増産を目標として、増産期間に於て擧げた実績に基づき當局より衣料、砂糖、煙草其の他の特配を以てその勞苦に報いんとするもので、當局係官を首め開發擔當商社總出動で督勵に當る一方、〇千名の勞務者はそれら増産目標の突破を目指して懸命である。

(九・二二)

### セレベス

#### セレベス勞務管理具體案成る

セレベス民政當局では、勞務管理の徹底を圖るため過般來銳意これが具體策の樹立を急がしめてゐたが、この程成案を得るに至つた。それによると、

一五二

一 本年度使用勞務者〇〇萬絕對確保のため、從來の勞務機關を統一整理して勞務の綜合機關を設立し、各縣廳に專任勞務官を置き、同時に各工場事業場にも邦人及び現住民の責任者をそれらに配置せしめて、當局指導の下に専ら勞務者の保健、待遇、住宅、食糧、娯樂、施設改善等勞務者の衛生の向上確保を圖り、併せて勞務者の勤勞精神昂揚のため新たに勤勞の歌を制定した。

一 食糧増産と脱み合せて、島内農業勞務者を効率有機的に移動せしめると共に、島内婦人學生等を新規動員して重點生産事業に振向けしめる。

一 技能者の急速大量養成を圖るため從來の船員、農業、工業、衛生等の各養成所を充實する他、各工場、事業場にも適當の養成所を設けしめる。

一 生産戰士援護會を新設して、勞務者及びその家族の積極的援護扶助に當る。

(九・二九)

### セレベス勤勞奉仕隊の活躍振り

軍政施行後二年有半、原住民は働く事の眞の喜びと、その働く事によつて増産或は建設へと飛躍する將來への脈々

たる希望をはつきりと掴み得た。彼らは歴史に會て見た事のない勤勞と努力との精神が知らぬ間に彼等の舊態と因習とを打破し、戦ふ原住民の燃え上る眞心は今や各地に各職域を通じて實踐となつて展開されつゝある。

南部セレベス〇〇分縣に擧つた勤勞奉仕隊の凱歌もその一つである。同地では數箇月前から某國防土木工事が住民の自發的勤勞奉仕の申出を個人的に受入れてゐたが、この認識して來た原住民の勤勞は急速に上り、遂にアンリロウ酋長(八十三)の主導によつて分縣全原住民が去る七月一日勤勞奉仕隊を結成、その日から毎日千數百名の隊員が勇躍作業に挺身した。隊員の中には一般農民以外の中上流階級男子四百餘名も加つて居り、又三十軒、四十軒と作業場から離れた地域の隊員は十日分の食糧持参で参加する等、無言のうちに彼等自身で把握した勤勞精神の發現は、協力から數歩前進した退しい戦ふ原住民の姿である。アンリロウ酋長は八十三歳の老軀もものは、工事完成までは現場に踏み止まり隊員の激勵指導に當る等、會ての彼等の因習では考へも及ばない涙ぐましい敢闘が續けられた。斯くてこの勤勞奉仕隊の連日の敢闘によつて工事はみるゝ進展し、この程見事に完成、この間奉仕隊の出動延人員〇〇人を數へた。この奉仕隊の努力と熱意に感激した當局では、何とか御禮の印と固く辭退する酋長を通じ一萬ギルダを贈つたところを、れは飽くまで勤勞奉仕の熱意で働いたのだからと、當局の褒賞金を最も有効に使はうと半分五千ギルダを國防獻金に、残りの五千ギルダのうち二千ギルダを、同地の回教寺院へ、二千ギルダを分縣の育英資金へ、さらに残りの一千ギルダを貧困者や藥事資金へそれらに獻金し、勤勞奉仕隊に輝かしい有

一五三

終の美を飾った。

一五四

(10・10)

### ブラウの建造進捗

セレベス民船運航會は本年四月一日より原住民造船所を總動員して、平均五十トン級のブラウ〇〇〇隻、〇萬トン建造に向つて邁進しつゝあるが、増産開始以來四箇月を経た現在までに、既に〇〇隻、〇千トンの進水を見、この調子で行けば本年度目標突破は確實といふ頼もしい増産振りを示してゐる。ブラウの建造は機帆船建造と異り、原住民の父祖傳來の造船技術をそのまま活用し得る點に大なる利點を有し、且つバラリ型(マカツサル附近)ランボ型(北セレベス、ブートン附近)及びマンダル型(南部セレベスのマンダル地方)等をそれらに建造中である。

(八・二八)

### セレベス運航會で帆船十三隻進水

セレベス民船運航會の帆船倍増建造計畫が見事奏功、一舉十三隻(四十トン型)の進水式が一月二十二日南部セレベスに於いて多數關係者の歡呼の裡に舉行された。南方海域間物資交流に決戦々力物資の輸送に異常な能率を發揮、海の龍兒譚とはれる帆船の一手統制に當るセレベス民船運航會では決戦輸送の緊急性に鑑み、本年初頭計畫された帆船建造計畫をその後倍増達成に變更、凡ゆる物的不足を克服すると同時に、生産隘路の探究に努め、原住民船

大工の救率的作業の促進を圖りつゝあつたのが、見事奏功、今回の如き大進水を見たのであるが、大型帆船の一舉十三隻、總トン數五百二十トンの進水はセレベス帆船建造開始以來初の快舉である。

尙同會では今後愈々技術の改良と資材の圓滑入手と帆船建造能率の昂揚を圖り、南海の雄たる帆船の増強を期す方針である。

(八・二八)

### 南セレベス衣料の自給達成に邁進

南部セレベス進出棉作擔當四社並に現地棉作關係者はこの程聯合會議を開催、現地民需用綿糸布確保対策を協議した結果、手紡手織による民需用綿糸布の大増産方針を決定、これに基づき本年度製織目標量完全達成に向つて邁進することになつたが、一方セレベス物資配給組合でも現在操業中のシンカン、パレバレ、マジエネ等各地の手紡手織工場並にマカツサル近郊の各家庭の手紡、手織材を動員、民需用綿布増産に一段の拍車を掛けることとなつた。又現地紡績業整備に關しては擔當業者の努力により着々進捗を觀て居り、現在の紡機〇千錠の完全据え付けも既に見透し成り、その他紡機の現地自給策に就き目下現地當局に於いてこれが準備を進めつゝあり、決戦下に於ける衣料品の現地自給対策は豊富な原棉と手紡、手織機を動員して快速調を不してゐる。

(九・一五)

一五五

## 比 律 賓

一五六

### 比島の参戦経緯

#### 一 比島遂に参戦

フィリピン共和国政府は昭和十八年十月十四日大東亞戦争の最中に獨立して以來、東亞の雄邦としての目覚しい自覺と矜持の下に帝國と緊密なる關係を保持し、着々内外の施策を整備し國運の進展を圖つて來たが、大東亞戦争は逐次緊迫重大化し來たり去る九月二十一日の米空軍による首都マニラに對する爆撃に見るが如く、戰禍は遂に比島本土に波及するに至つたので、ラウレル大統領は比島千八百萬の民意に隨ひ自由獨立、國土防衛のため斷然米英に對し宣戦すべく決意し、九月二十二日午前九時全國に戒嚴令を施行すると共に、引續き同月二十三日午前十時米英に對する宣戦を布告した。

斯くて比島の参戦により大東亞の諸國家、諸民族は大和團結相携へて擧げて東亞解放の征戰に従事するに至つたのであり、遂に大東亞有史以來の盛事であり、東亞の復興は期して俟つべく比島の参戦の意義絶大なるものがある。

#### 二 比島全地區に戒嚴令施行

以上の如く、比島は九月二十二日午前九時より全土に戒嚴令を施行したが、これに對し現地日本軍は全面的にこれに協力する旨、九月二十日正午次の如き現地軍當局談を發表した。

敵米はその暴虐なる空襲をマニラ市に及ぼすに至り、こゝに比島政府は國土防衛並に治安維持のため遂に本日全國に戒嚴令を施行せり。日本陸海軍は比島政府の斷乎且つ嚴然たる本措置に關し全面的に協力これを支持するものなり。

右の如く戒嚴令施行により、大統領は戒嚴令を確實に施行するに必要なすべての政治権限を掌握し、該権限を現在各民政機關に行使し或ひは情勢の緊迫度に應じて新機關を設置して戒嚴令の施行を圓滑化ならしめ得ることゝなつた。

而して戒嚴令施行と共に比島全土は九戒嚴地區に分割され（内七地區は去る八月二十六日に實施された七行政管區と同様であるが、他はマニラ市、プラカン、リサル、カピテ、バラワンの各州を含む）、七地區に於ては行政長官が夫々管内の戒嚴司令官となり、その隸下に市長並に州知事を、戒嚴司令地方代理に任命、また他の二地區ではマニラ市長が第八地區、内務次官が第九地區の戒嚴司令官になることになつた。

#### 三 對米宣戦布告文

ラウレル大統領は九月二十三日午前十時マラカニアン官邸に於て次の如き宣戦布告文を嚴肅に朗讀發表した。

比島國民は過去に外國支配下にあつた全期間に於て、己が自由と獨立獲得のため撓まざる努力を続け、これが目的達成のために二回に亙り戰爭を行ひ絶えざる革命を行ひ來つた。然るに一九四三年十月十四日比島長年に互

一五七

る念願たるこの自由と獨立は達成されたるを以て、共和國大統領は全世界の諸國民に對し親睦と融和とを訴へ、特に米合衆國に對しては我等の國土に軍作戦を再び繰返し、比島に災害と破壊とを及ぼさないよう請願せり。斯かる請願にも拘らず、米國竝に英國は比島の若干地域を空より侵寇し、共和國の領土保全を侵害し更に比島市民を殺傷、比島人財産を破壊せしめたり。今や比島はその獨立と領土保全を擁護せざるを得ず。然るところ比島共和國は比島の獨立と領土保全保持のため日本と主權竝に領土の相互尊重を企圖せる日比同盟條約を締結し居れり。仍つて今や比島共和國大統領ホセ・ビ・ラウレルは一九四四年九月二十三日午前十時より比島共和國が米國竝に英國との間に戦争状態に入りたる旨をこゝに宣言す。戦争の苛烈なる現實に直面し余はこの歴史的時間に於て全比島民が政府を支持し、確固たる忠誠を示されんことを衷心より要求するものなり。斯くて現在我等が経験した近き將來に被ることあるべき辛酸にも拘らず、我等が團結の下に比島の自由と獨立を擁護せんとするものなり。

四 帝國政府聲明

比島共和國大統領 ホセ・ビ・ラウレル

帝國政府は比島今回の舉に對し共感措く能はざるところにして滿腔の敬意を表し、二十三日午後一時十五分帝國政府聲明を發表帝國の所信を中外に闡明し、今後益々同國との提携を固くし日比同盟條約の示すところに基づき、同國に對し凡ゆる協力と援助を惜しまず、相携へて敵米英を撃滅し以て大東亞を建設せんとするの全幅的協力態度を明らかにした。

帝國政府聲明 (情報局發表)

九月二十三日フィリピン國政府は米國及び英國に對して戰を宣せり。大東亞の戦局漸く苛烈の度を加へ將に決戦の機を迎へんとするに當り、千八百萬フィリピン國民がその光輝ある獨立を擁護し祖國本土を防衛せんがため、驟然立つて劍をとるに至れる理由は、同國政府の宣戰の布告に明らかなるところにして、定に帝國の共感措く能はざるところなり。

フィリピン國は昨秋光榮ある獨立を具現して以來ラウレル大統領親ら陣頭に立ち、内は着々としてその内政を整へ外は帝國始め東亞の諸國と緊密に協力し來たり、而して今や敢然として敵米英撃滅の第一歩に立つに至る。斯くて大東亞の諸國諸民族が大和團結相携へて東亞解放の征戰に従事するは、實に有史以來曾て見ざる盛事にして、東亞の復興期にして俟つべきもの多し。帝國はフィリピン國がその名譽ある獨立を維持し、その國土の防衛を完ふせんことを衷心より希念し、今後更に益々同國との提携を固くし日比同盟條約の示すところに基づきフィリピン國に對し凡ゆる協力と援助とを惜まざるを明らかにすると共に、進んで相携へて戦争を完遂し、敵米英を撃滅し以て大東亞の建設に邁進せんことを期し、茲に帝國政府の所信を中外に聲明す。

五 在比帝國陸海軍最高指揮官談

比島共和國が參戰した九月二十三日午後零時、在比帝國陸海軍最高指揮官は次の如き談話を發表、帝國陸海軍の

全幅の支援を聲明、比島の戦争協力に對する努力を一般に要望した。

一六〇

比島共和國は今日米英に對し参戰の事實を宣言し直ちに交戰状態に入れり。右は大東亞侵略の野望に燃ゆる米英の非望を粉碎し東亞諸民族を解放し東亞永遠の平和を保全することに存すること既に普く中外に闡明せられたる所なり。比島は先に昭和十八年十月獨立以來道義的國家として只管その堅實なる發展に努むると共に、日比同盟に基きて帝國と共同防衛の本義に則り、對敵戦力の増強に寄與すること尠からず、他面敵米は暴戾にも再び比島を隸屬化してその東亞征服の據點たらしむべく夢見、遂に幾多無辜の民衆を殺傷し民屋を破壊するに及び憤激その極に達し、比島政府は遂にその國民と共に敢然起つて挑戰に應じ、この共同の敵に對し交戰状態に入るの決意を宣言するに至れり。蓋し獨立と正義を愛する比島千八百萬國民の興奮といふべし。皇軍は今や鐵壁の布陣を持つ比島の獨立政府を擁護せんとし、總ゆる敵の侵攻に對して假借する所なくこれを粉碎すべく待機中なり。正義は最後の勝利者なり。比島國民は皇軍の武力に絶對信倚し、益々全面協力の實を擧げると同時に、不撓不屈敵撃攘の闘志を昂揚し以て大東亞の平和確立の聖業達成に努められんことを望む。

#### 六 ラウレル大統領放送

敵アメリカの暴舉に對し九月二十三日對米英宣戰を布告したラウレル大統領は、九月二十六日午前八時マニラ放送局から要旨左の如きラジオ演説を行ひ比島國民を激勵した。

余は去る二十三日米國に對し我國と彼等との間に戦争状態が存する旨宣言したのであるが、この戦争状態は決して我々が自から造り出したのではない。我々は寧ろ戦争を欲しなかつたのである。昨年比島共和國が成立した時余は世界の國家と國民に對し友好と善隣を望み、我が國民が他の國民と共存共榮すべきことを強調した。余は戦争の齎らす悲惨なる結果に就いては何人にも劣らず知つて居り且つ體驗してゐる。さればこそ平和を希望する比島共和國が健やかに成育することを願つてゐたのであるが、アメリカは暴戾にも一部比島の地に空襲を加へ來り多數の比島人を殺し、家を破壊し、斯くして我々の願望を徹底に粉碎し去つた。斯くの如き状況に於て余のなすべきことは只一つ、即ち破壊者米英と戦ふことであつた。國民諸君は冷靜に事態を認識し、未だ會つて危局に破れた事のない比島民族の光榮を守り抜かう。

#### 七 参戰迄の國土防衛措置

フィリピンの参戰は飽くまで侵略者の手より國土を防衛せんとする千八百萬民衆の總意が結集したものであり、殊に九月二十一日の米空軍によるマニラ爆撃が急速な参戰を誘致したことは注目される。平和を愛好する比島民衆が遂に颯起したのを見ても大東亞戦争が飽くまで侵略に對する共同防衛の戦ひであることが明らかであらう。太平洋郵局が漸次緊迫化するにつれて、今春來フィリピンの参戰氣運が同國內で次第に濃化して來た。地方行政機構の整備、警察組織の強化及び八月二十四日の内閣改造と相俎いで打つた國內態勢強化方策により、比島は來るべき重大事

態に對陣する處置を終了したのである。ラウレル大統領がそれまで固く胸中に秘めてゐた參戰を始めて洩したのは九月初めの閣議の席上であつた。この時大統領は參戰の重大決意を抱きつゝあることを告げたのに對し、全閣僚は直ちにそれを察知して擧つて大統領を支持し、誓つて國土を防衛せんとの烈々たる熱意を示したと傳へられてゐる。地方行政機構の整備によりフィリピン全國は恰かも我國の地方行政協議會といつた七つの大きな行政地區に分たれ、夫々に地方長官が置かれた。この長官は例へば戒嚴令下にあつては、戒嚴司令官たる大統領に直屬する下級司令官といつた強力な権限を自己の行政地區に對して發揮し得るのである。警察組織の強化により従來アメリカ式の州警察であつたものを中央政府の警察に改組し、素質を向上し訓練を強化した。八月二十四日の内閣改選はそれまで大統領の兼攝してゐた内相、經濟相に専任大臣を置き、これに伴つて法相、土木相、無任所相並に内閣書記官長を更迭したのであり、これにより内閣自體は著しく強化されたのである。これ等の方策に伴つてフィリピン政府は近く更に輿論指導の積極化を圖るため新聞を發行、またリカルテ將軍等親日有力文士も悉く政府に參加せしめんとしてゐると傳へられ、スイリビンの輿國態勢は參戰と同時に急速に完備化せんとしてゐる。然も今回の比島參戰が單に國土防衛のみに止まらず、大東亞共同宣言の大精神に則り、東亞人の共通の念願として行はれた點、その意義は愈々大なるものがある。戦局が重大化し、寧ろ我に不利なる現在に於て敢て比島が參戰するに至つたのも正義の戦ひに參加せりとの確信の所以に他ならない。比島が今我と共に參戰し米國と戦ふ決意を固めたことは、比島の東亞への復歸を

如實に示したものであり、東亞人の血潮が千八百萬の全比島人の一人々々の血管に湧き上つたことを確認し得るのである。斯くて協同戦争完遂を目指す大東亞十億の結集態勢は愈々強固に確立されたのである。

#### 八 宣戰布告と比島經濟

比島の戒嚴令施行と參戰は、明らかに今後の比島經濟に大きな波紋を投げ著しい影響力を與へるものであるが、目下豫想し得べき影響は次の通りである。

- (一) 戒嚴令並に參戰は明らかに人心を緊張せしめ戦争の現實性を直視せしめる結果、目前に必要な必需物資殊に食糧の獲得貯蔵に拍車を加へ、これらの物價昂騰を醸成することゝならう。もつとも過度の食糧價格昂騰をみる時は戒嚴令下の經濟擾亂の理由を以て、権力行使により價格の抑壓が行はれるため一部には反動安を現出することも豫想出来る。
- (二) 今後の開發事業は作戦準備の強化に伴ひ輸送關係並に資材、勞力關係から相當制約されることが豫想されるが、反對に戒嚴令の徹底により治安維持に好結果を齎し、間接的に開發事業活動を助けることも豫測出来る。
- (三) 比島政府が日本と共同戦列に加はつた以上、日比の全面的協力は絶對的の要諦となり、現在比島政府が直面しつゝある經濟問題、殊に食糧問題は日比一體協力の下にこれが打開に努めらるべく、比島政府また自己の政治能力の限界度を知り、自發的に日本側の助力を求めつゝある事實もあつて、今後經濟統制方式には相當日本側の意向も



反映するものと見られる。

(四) また経済行政組織の刷新も断行され、今後国内の経済的決戦態勢の強化は日比協調の下に戦局の推移に即應して迅速に實行されるであらう。

### 九 比島戒嚴令の特質

米國の東亞侵略の非望を夢み、比島の獨立を蹂躪せんとするに對し、比島政府は既に瀕ち得たる獨立を死守するの態度を數回に亘つて闡明してきたが、去る九月二十一日、二十二日の米軍のマニラ盲爆を開始するや、比島政府は全國に戒嚴令を布き、次いで米英に對し宣戰した。これによつて比島朝野は完全に東亞の一盟邦として大東亞戦争完途、大東亞建設の光榮ある責務を分擔することとなり、大東亞保衛の鐵環は愈々強固なものとなつたのである。戒嚴と云へば日本人は日本の夫れを想起するが、比島の戒嚴は日本の夫れとは全く趣きを異にする。比島の戒嚴は憲法第二條第九節

大統領ハフイリピン共和國ノ一切ノ軍隊ノ總司令タルベク且ツ必要アル時ヘ不法行爲、侵略、暴動又ハ叛亂ヲ防  
止シ又ハ鎮壓スル爲、右軍隊ヲ出動セシムルコトヲ得、侵略、暴動若クハ叛亂又ハソノ危險ノ緊迫入場合或ヒハ  
公共ノ安全上必要ナル場合ニハ大統領ハ人身保護令ノ特權ヲ停止シ、又ハフイリピン國若クハソノ何レノ部分ニ  
モ戒嚴令ヲ布クコトヲ得

の規定するところである。即ち戒嚴令下に於いては比島國民の身命の保障すら停止されるのである。一度戒嚴令が公布されれば、憲法の諸條項は必要の限度に於いて停止され得る事となる。従つて司法立法が政府の最高長官である大統領の權限に歸一するのみならず、行政の實施に當つても大統領は情勢の必要に應じ、必ずしも憲法上の制限に拘束される事を要しない。一語にして云へば、國家の權力は、戒嚴司令官たる大統領は云はゞ非常時獨裁の立場に置かれるのである。これは獨立國たる比島の憲法第二條第九節の發動であり、斯様な獨裁非常時態勢が實施されたからと云つて比島が獨立國たるの實質は少しも毀損せらるゝものでないことは説明の要もないことである。日本式戒嚴の觀念ならされてゐる考へ方によると、比島の戒嚴公布を以て恰も比島の政治が再び日本軍の手に歸し比島が日本の軍政下に置かれるものと誤斷し易いがそれは全く誤解である。然し乍ら戒嚴の實施によつて比島朝野の戦争完途、即ち日本軍に對する協力態勢が平時状態と比較して完壁を期し得るものとなつたことは疑ひないことである。

### 十 比島朝野の決意

比島の參戰は大東亞戦争完途に關する比島朝野の決意と努力とを明確にしたものである。比島の獨立が大東亞戦争の完途によつてのみ全きを得ると云ふことは、比島朝野の深く認識するところであり、従つて比島側は宣戰布告の前に於いても戦争完途のために凡ゆる貢獻、凡ゆる寄與をなし來つたのであるが、參戰によつて比島朝野のこ

の決意と努力に拍車をかけることになつた。米國が盛んに逆宣傳してゐることであるが、比島には依然として米國に頼り、米國から形式だけの獨立を供與して貰ふと云ふ風なことを考へてゐるものは一人もない。この意味に於いて比島には親米感はない。米國の再侵略を防止するのみである。現に比島の國內情勢を見るに本年七、八月以來或ひは内閣の改造強化、或ひは警察の改革、或ひは又地方行政の改革及びこれによる中央政府の地方に對する把握力の強化等々内政の改革が實施されたのであつて、大統領の地位は夙に高くなり、國內非常時態勢は非常な勢を以て整備されて來た。一方又國民精神作興の點から見ても、ダンスの禁止、ダンスホール或はナイトクラブの閉鎖、料理店の午後八時閉鎖、一食一皿主義の普及等比島政府の發意と國民の自肅心とが相俟つて生活の切替へ、東洋精神の作興が現實の比島の生活を戰時生活、戰時建設へと昂揚せしめつゝある狀況である。斯くして比島の參戰は單に一片の布告に止まることなく、比島朝野を擧げての現實の決意と努力とを示したものであることは疑ひない事實である。比島の現情は以上の如きものである。斯らしい比島國民は大東亞の有力構成分子として大東亞戰爭の完遂並に大東亞建設に立ち上りつゝある。我々は愈々その努力を尊重すると共に比島朝野に對する協力を一層眞剣なるものにすべきである。

(九・三三—一〇・四)

## 比島經濟の新段階

### 一 新段階に入る經濟政策

比島經濟の建設戰は近時その様相を一變した。即ち外的には戰局が愈々苛烈となり、この外的激動は比島經濟建設戰に一層の速度を強く要求しつゝあり、一方内的には直接の戰闘力として、一切の經濟力を急速に再組織すべき秋となつた。この爲に今日の比島建設戰に最も緊要となつたのは強力なる政治指導力であり、從來の如く經濟的原則に立つて案出實行しつゝあつた經濟政策に代り、この政治力の強力な發動が比島經濟の防衛態勢の飛躍的推進の一原動力となつたのである。今最近の比島經濟の建設戰の新段階を展望しよう。

### 二 ラウレル政治の強力化

比島經濟は最近資材勞力の不足によつて、或部門に稍滯滯傾向を現はしてゐた。この傾向打破は前述の如く内外環境の變化に應じて急速に行はねばならなかつた。斯くてラウレル大統領の政治的強力手段發動の段階が來、共榮圈内の重要要塞の一角としての充實飛躍の態勢が出來上つたのである。ラウレル政治の強力な展開は今主として食糧問題解決に向つて居るが、今日迄の強力政治の發展の跡を辿つて見れば、新段階に立つ比島の力強い動向の一斑を傳へ得るだらう。二月廿二日「比島非常時宣言法」の成立を見、これによつて非常時局に際し、比島大統領の必要とする強力な行政權の行使が認められた。同法案は法令第卅九號として

「非常時事態を宣言し比島大統領をして國民の保安、保健、秩序の確立に就き必要な法律或は命令を發せしむ

法令で公有私有を問はず施設、人の徴發徵用に關して特別權限を持つものである。該法令の目的を見れば比島經濟建設を毒し、又は毒さんとしつゝあつた要因に對しての政治力による積極的攻勢の開始を観ることが出来る、目的を簡條書に見ると

- (一) 食糧、藥品、被服、燃料、肥料、化學品等々の供給に影響する缺乏、占有、隠匿、投機への戦ひ
- (二) 農耕地の徵用
- (三) 必需物資商品の價格統制
- (四) 農業又は公益のため必要な労働確保のための國民徵用
- (五) 國民保安、保健、救済のための凡らゆる手段の採用
- (六) 賃金利潤の統制と生産施設徵用、生産的企業停止の防止、工場農場閉鎖、同盟罷業の禁止、運輸機關の徵用
- (七) 公共施設の強制使用、又は徵用
- (八) 法令及び豫算の改竄實施の停止、又は時効にかゝり運営不能となるべき法令豫算の有効化
- (九) 支拂停止令の宣言
- (十)

(七) 其他必要と見做す権力の發動

等にある。二月廿四日引續き同法に基き第一弾として強制農耕令の公布を見たが、同令の要旨は

「國家の存立を維持するため、食糧増産並に供給を確保する徹底的方策を講ずる絶對的の必要を生じた。」

と述べ、一般經濟政策の段階より飛躍して總躍起を要望し一舉に強力に諸問題を解かんとする意慾を示してゐる。

三、強制農耕令の實施

三月十日強制農耕令の施行細則が決定したが、これによれば男女を問はず、十六歳より六十歳の全住民を動員、一週一日八時間の勤務奉仕により食糧増産を促進することとし、農耕の中核體は隣組が當り、身體健全な住民は全部登録の義務があり、非固定収入者は長期服務とし、除外者は軍隊、外交團體、農民又は農産に直接間接従事してゐる官吏雇傭人又は病人、妊婦だけを認め、眞に舉國一致の農耕救國運動としてゐる。マニラ市に於ける初の農耕動員は五月十四日に開始、マニラ市中に於ける休閑地二千二百ヘクタールを徹底的に耕作しようとしてゐるが動員可能者四十萬人(男廿三萬三千、女十八萬五千)強で食糧に對する闘争は強力に進められてゐる。

四 軍當局より自主的協力

軍當局は常に比島經濟の強化に大なる關心を拂ひ、比島側へ可能な限り援助してゐるが、今回の比島政府の強力なる措置に就いても特に比島政府を強く支持援助する旨の聲明を發し、比島政府の政治的強力措置の實行に多大

の便益を與へた。即ち五月十七日發表の軍當局談に依れば

一七〇

「各種米穀政策に全幅の支援を惜しまざるものにして、その圓滑なる運営になし得る限りの力を藉さんとするものなり。」  
とあり、又

「更に進んで……積極的手段を講じ、一人の國民と雖も食に飢ゆることなきを期するものなり。」  
と述べ、日本軍當局の協力は頗る自主的積極的である。具體的には價格吊上げを策する者の嚴罰、正當買付妨害者の撲滅、米穀の必要量以上の隠匿者等の奸悪の徒輩の殲滅を宣言し、尙一部地方町村長の中には日本商社の買付に對し、法外なる附値をなすやう指導する者あり。之等の徒輩を假借なく摘發し新、最高價格一カウン二百比の勵行に遺憾なきを期し、これに加へて根本對策としての外米の大量輸入計畫中なることを聲明し、新段階に處する軍當局の斷乎たる決意を明らかにした。

五 日本側建設戰の現段階  
決戰を控へた比島建設に對し日本側の努力も亦一段と様相を新たにした。この根本的變化は作戰と併行する自治主義への努力である。戦後への經濟的願慮を捨て、現實に今日の強力な生産を行ふことに重心を置換へた。このため具體的には

五 日本側建設戰の現段階  
決戰を控へた比島建設に對し日本側の努力も亦一段と様相を新たにした。この根本的變化は作戰と併行する自治主義への努力である。戦後への經濟的願慮を捨て、現實に今日の強力な生産を行ふことに重心を置換へた。このため具體的には

(一) 生産戰も第一線へ重點を置くこと

(二) 各日本側商社間で手持資材の積極的融通を行ひ合ふこと

等の方針を決定してゐる。即ち建設要員は重要事業地へ集中し、從來の産業建設戰に於ける第一線の貧弱な部門を拂拭し、中央マニラは單なる連絡所程度とすることにしてゐるのは力強い。卑近な例では産業戦線の第一線では日本人監視員皆無で機械生産設備の損耗を招いたり、生産工場の警戒は比人任せ等の惡事例を見たが

之等は先づ第一線産業要員の充實によつて多大の改善を見ることは明らかであり、又資材融通の促進に就いては地區別生産團體間に隣保制度を造り、責任生産制として各商社が自主的に責任者を定めることにより生産上必要な資材の相互融通を促進し、生産實績を擧げんとするもので、從來の如く各社夫々多量の資材を手持して死蔵したり、又は重點的に使用すれば効果の擧る資材、例へばトロツコを各同種業者が夫々頭割に分けて所有して使用する結果、その能率は著しく落ちたりした例がある。

斯る非能率的個人主義はこの際徹底的に捨てねばならぬこととなつたのは顯著な進歩である。決戰下産業建設上の強力なる措置に就いては以上の二、三に止まらないが、根本的對策としての治安の確保に就いては軍當局は強力なる前進の巨歩を進めつゝあり。敵前建設は今新たに瞻目すべき展開を示してゐる。(七・二一日産)

比島の政治經濟自活に整備

一七一

敵の對日作戰は過般の真珠灣會談に於て、比島奪取による日本内地と南方資源地帯との遮断に重點が置かれるやうになつたと傳へられ、比島を中心とする彼我の決戦が刻々近づかんとしてゐる。この決戦に於ては廣大な地域と老大な戦力及び強靱な補給力によつて、これまでの如き狹隘な島嶼戦と異つて決定的殲滅戦が展開されるであらう。

#### 一 南方第一線に立つ比島

南方第一線に立つた比島は嘗てない多數の軍隊と、大飛行場群と、沿岸要地總てに張り繞らされた防備陣を以つて今や鐵壁の一大要塞と化し、嚴然と驕敵の到来を待つてゐる。又軍事的決戦態勢の整備と相俟ち政治、經濟面に於ても決戦即應主義が執られ、各分野に於ても着々強力施策が推進されつゝある。

#### 二 自戦自活の大方針

南方軍政の三大目標はこれまで重要資源の開発、還送、現地自給に置かれて來たが、決勝段階に直面してこれは當然自戦自活の方向に重點を移行しつゝある。日本と南方資源地帯との連絡は如何なる敵の猪突猛攻によつても容易に断ち得るものではないが、今後起り得べき凡ゆる連絡状態の變化を想定すれば、決戦を目前に控へる比島に於ての自戦自活の方針は特に強力且つ急速に實行されねばならぬ。これに比島側の徹底的戦争協力が甚だ大きな役割を持つて登場する。

#### 三 經濟の決戦的切り換へ

斯くて比島に於ては最近現戦局に即應した現地自活が強く前面に押し出され、更に自戦の爲の軍需經濟力の急速増進の努力が拂はれつゝある。この方向を更に徹底する爲には決戦に役立ち得ぬやうな事は一時停止し、これを他に活用するといふ思ひ切つた措置も必要であらう。又自戦に必要な國防産業の建設擴充に必要な一部戦力資材を抽出する爲に、一部不急産業勞務資材を轉用するとか、完全自活經濟を確立する爲の一部産業（例へば石炭業の如き）の擴充の爲、事實上繼續不能に陥つたり、重要性を減じた企業戦力資材を割讓するといふやうなことも要請される。こゝに比島開發事業の大調整は必至とされ、現地自活と現地獨力競争遂行への方向に再編成されるのである。斯くて比島は臨戦態勢より決戦態勢に切換へを完了し、比島防衛陣は背後の強力政治、經濟態勢に支へられて強靱なる弾力性を著しく増加し、來らば來れの態勢を整へつゝある。

(九・七)

#### 比島の鑛産物對日還送順調

銅、クロム、マンガンを中心とする比島の重要鑛物資源は、今後の緊迫情勢を豫想しこれが急速戦力化を目指して、過般來凡ゆる資材、勞力、資金を注入して増産に努めつゝあるが、殊に對日還送は極めて順調な成果を示しつゝある。即ち日本内地の目前に於ける決戦經濟力を増強すべく、老大な期待量に應へて先般來比島重要鑛物資源の増産に拍車をかける一方、輸送關係から鑛山元に相當貯鑛を見てゐる鑛物に就いては、他の不急開發事業より〇〇〇臺

に上るトラックの緊急大動員を行ひ、貯蔵を一掃して對日還送に努めた結果、極めて満足すべき成果を收めつゝある。従つて對日特別還送は近く大體終了する豫定であるが、爾後は日本の絶對期待量を充足しつゝ、比島の自活に必要な礦物資源の増産に重點が移行せしめられる筈である。

(九・一〇)

### 比島でカツサバを増産

比島政府ではこの程八百八十萬ベソの豫算を計上、食糧増産の一翼としてカツサバの大増産運動を全島に展開することになった。栽培目標は面積四千六百ヘクタールで主として糖業者によつて行はれる事になつてゐるが、此れがため政府では増産に必要な農業機械の確保を援助する外助成金として九十二萬ベソを給與する。(九・一一)

### 比島生必品の生産配給を統制

食糧其の他重要生必品等の生産、收買、配給を強力なる國家統制下に置き、現下の緊迫せる決戦段階に對處すべくラウル大統領は此の程大統領令及び行政命令を以つて從來の食糧管理局を廢止すると共に、サビト新經濟大臣に對し國家所有、若くは管理下の會社又は組合の統轄權を附與した。即ち今回發令された大統領令第三十四號並に行政令第八十四號の要點は左の如くである。

- (一) 食糧管理局は廢止すると共に從來同縣長官に附與されてゐた權限、義務、機能は總て經濟大臣に移讓される。但し食糧管理局長官が發令した命令は修正乃至は廢止されぬ限り依然有效とす。
- (二) 前軍政監部當時に創設され、其の後比島政府側に移讓された食糧並に其の他生必品の政府收入又は管理會社及び組合に對し從來大統領が有してゐた監督統制權を總て經濟大臣に附與する。
- (三) 經濟大臣の統制下に置かれる會社または組合は次の通りである。國立興發會社、國立麻會社、國立椰子會社、國立倉庫會社、比島鹽配給組合、比島葉煙草組合、比島砂糖協會は従前通り農業資源相の統轄下に屬する。

(九・一二)

### 比島農業視察團感想發表

フィリピン食糧局長官(國務大臣)オホセ・ジー・サンピクトレス氏を團長とする比島農業視察團一行九名は九月下旬以來臺灣各方面の農業實情を視察、近く歸國の途に就くが、十月七日臺南州廳主催の懇談會に於いてサンピクトレス團長は視察感想を左の如く語つた。

臺灣は五十年に亘る日本の多大な犠牲と島民の撓まざる努力によつて非常な發達を遂げてゐる。比島が戰爭完遂のため日本に協力する途は戦線に比島兵を送ること、自分の力を養つて日本に世話をかけない、所謂自給自足

の經濟態勢を確立する二つであるが、比島政府はスペイン領有以來農業の重要性を認識せず、廣大な沃土を貧困な粗放農業で放任してゐた。臺灣では一つの試験研究に三十萬圓、五十萬圓と資金を投じて研究してゐるが、比島ではたゞ土地を殖すことのみを専念し、機械肥料を外國に依存してゐたため集約農業は成功しなかつた。併し氣質、習慣など農業に適合してゐる比島民が四十年の經驗を有する日本の農業を見習つたならば、近き將來に裕福な國家と爲し得るものと確信する。今回の貴重な視察の結果に基いて歸國後は臺灣の農業技術を導入し、牛、水牛を飼畜し、堆肥の増産、優良米種の輸入改善、甘藷の開作、蔗園の轉換、小規模の灌漑、灌漑用貯水池などを早急に施設し、戰爭中出來得る最大の努力を拂ふならば比島食糧の自給自足は決して不可能ではない。

### 參戰比島に二億圓信用供與

(10.11)

政府は去る九月二十三日參戰を斷行せるフィリピン共和國に對し、日銀を通じて二億圓の信用供與を行ふこととなり、十月十一日同國駐日特命全權大使ホルヘ・マ・バルガス氏と濹澤日銀總裁との間に正式調印を了した旨、同日午後三時情報局より左の如く發表した。今回の信用供與はフィリピン參戰を機として兩國經濟關係を増進、強化せんとするフィリピン政府の要請に基くもので、十月十四日を以て獨立一周年を迎へる同國の財政基礎を一段と強化確立するものとして大いに期待される。

### 情報局發表 (昭和十九年十月十一日午後三時)

帝國政府はフィリピン共和國の要請に依り、兩國間の經濟關係の増進に資する爲め、今回日本銀行よりフィリピン共和國政府に對し、二億圓の信用供與をすることとし、右に關する契約は十月十一日、日本銀行總裁濹澤敬三と駐日フィリピン國特命全權大使バルガスとの間に調印を了した。右二億圓の信用供與に關しラウル大統領は十一日次の感謝聲明を發表した。

比島共和國政府は今回大日本帝國政府より二億圓の信用供與を受けた。この信用供與金は比島財政を安定せんとする努力を繼續し、又國內經濟の發展を圖るため、比島によつて緊急に必要とする金額たること明らかである。今日比島政府及び比島國民は比島を終局には自給自足國たらしめんと農業生産の増産に邁進し、且つ又治安の回復並に復興再建の事業に努力を傾けつゝある。これら事業は現在の限られたる収入では到底賄ひ得ざる巨額の支出を要するものである。

なほ政府は國民の苦痛を緩和すべく相當額の公共資金を支出しつゝあり、かゝる時に適宜の支援を差伸べられたることに對し、政府並に全國民を代表して余は日本政府に深甚の謝意を表明するものである。

### 供與契約要綱

フィリピン政府に對する信用供與契約の要綱は次の通りである。

- 一 フィリピン共和国政府は本契約締結の日より五箇年以内に日本銀行より日本通貨二億圓を限度とし借入れをなし得るものとす。
- 二 フィリピン共和国政府は右借入れをなした場合、これを一回または分割した本契約締結の日より五箇年以内に随時返済するものとす。
- 三 右借入れをなし得る機関及びこれが返済の期間は日本銀行及びフィリピン共和国政府間の協議によりこれを延長し得るものとす。

(10・11)

### 緬甸

#### 最近のビルマ經濟

ビルマの雨季明けも近づき、米、棉花、落花生、胡麻、蓖麻等のビルマの重要農作物は豊富な降雨に育つて漸く收穫期を迎へようとしてゐる。これらの作物は黄麻を除き凡べて好調で、昨年度は五十年來の雨量不足の年として主要作物の減産を見たが、本年度は天候は頗る順調であり、農民の生産意欲も農産物の値上りに刺激され、更に企業擔當者の熱心な栽培指導を受けて勞力、資材の不足をよく克服、増産に努力した結果、米は昨年度の二割増、棉花

落花生、胡麻の三種は何れも平年作突破が見込まれるに至り、衣服原料の自活能勢確立に強力な基礎を與へてゐる。たゞ黄麻のみは本年度雨量が多すぎた爲作物は多少不良なので、關係當局は嘆息、その他代用麻袋の増産に努力を傾注してゐる。

仲買人制度再検討の斯様に一般農産物の増産が見込まれる以上、今後の問題はこれら農産物の蒐荷及び配給の組織と政策である。これに關聯し、日本軍のビルマ進駐以來二箇年以上續けられて來た仲買人制度に對し、目下慎重再検討が加へられてゐる。ビルマでは農産物の蒐荷を擔當企業社に一任し、擔當企業社は更に仲買人を使用して蒐荷を行はせしめて來たが、これらの仲買人は斯る蒐荷を行ふに當り、農産物を生産費以下に買つたり又買付物資を市價より高價に横流し、或ひは買占め、賣惜しみを行ふ等私腹を肥やす弊害が屢々で、この弊は昨年度天候不順に基く農産物の作柄不良と相俟つて愈々顯著となりつゝある。本年度重要農産物も依然として一般仲買人を經由して收買する時は、折角の増産も確保し得ない懸念が極めて多い。斯る見地から仲買人制度を廢止し、新蒐荷組織の問題が眞剣に考慮されて居り、農産物合作社運動と地方行政廳の活用などが検討されてゐる。

合作社組織の活用はモルメン、ク・トン、ベグーの三縣に結成された合作社組織の農業振興會は野菜、肉類の供出を行ふ外八月に入つてより豚、鶏、代用麻袋の本格的増産に敢闘中で、こゝでは既に仲買人制度を合作社に切替へるに至つた。振興會が蒐荷を行ふに當つては従來仲買人が蒐荷のみを行つて來たのとは異り、農産物増産の積極



的指導と併行して蒐荷を行ひ、その指導目標を各縣自活達成の推進に置いてゐる。また未だ合作社組織を持たない地方に於いては行政機關を中心に、直接生産者たる農民のうちから有力者を動員し、これを通じて蒐荷と増産を行ふべきで、現に上ビルマでは斯る方法により相當の成果を収めてゐる。關係當局も斯る事情に着目し目下配給、蒐荷の機構刷新に關し立案中である。

斯様にしてビルマでは今豐作を豫想される農産物の收穫を前にして、蒐荷の方法を改善、着々實質的な増産確保に邁進しつつあるが、これと同時に従前の適地栽培を或る程度まで修正し、縣内不足物資の多角的生産に努力する方向こそビルマ經濟今日の課題たる輸送問題を含む増産対策であらう。

激動期に直面しながらもビルマ經濟界は堅實な歩みを続けてゐる。最近最も注目すべきことは物價が八月に低落して後落着きを示し、經濟界に好影響を與へてゐる點である。この物價動向は今後注視を要するところで政府は物價昂騰抑止、インフレ防止に種々の對策を講じ、また地方各縣では合作社組織が擴大されてビルマ經濟界の健全な發展への推進力の役目を果しつつある。

物價低落傾向は累月騰貴の一途を辿つて來たビルマの物價は八月日本より五十萬枚のロンギ主地到着を契機として初めて綿製品を中心に一、二割方の低落に轉じ、次いで九月に入つてからも本年度棉花、油脂作物の作柄良好予想、ビルマ政府の囤積取締實施氣運その他の樂觀材料により一般に弱保合を続け、經濟界全般に好影響を與へてゐる。

この物價選減傾向が今後持續するか否かは頗る注目されるが、既に本年度農産物作柄が好調である以上前途は頗る好望といへる。

インフレ防止に積極化しインフレ防止のため去る六月ビルマ政府は通貨對策委員會を設置したが、軍當局は九月邦人商社に對し軍委託事業會計監督規定及びビルマ國內軍關係事業給與統制規定を發令、また日緬印各銀行の連絡機關として去る八月結成されたビルマ銀行協會はその第一回事業として有獎定期預金による貯金吸收に乗り出した。これらの對策は通貨面よりする施策としてそれ々々有效であり成果が期待されるが、一層重要な對策は物心よりする施策である。増産と物資流通の円滑化といふ物資對策がビルマインフレ防止の決定的手段であらう。

合作社組織擴大し新生ビルマ經濟組織機關として期待される下ビルマ三縣の合作社運動はその後、好調な發展を續けてゐる。各縣とも農業振興會は組合員數、事業の増加を來し、既にモールメン縣では全縣の八割、クートン縣では同様七割の地域に組織を擴大した。既存組織の強化と共に本運動は隣接縣の農産に大きな影響を及ぼし、近く新地域に於いて農業振興會が續々結成される氣運にある。而して本運動が新生ビルマの組織的經濟機關となると共に現下當面の急務たるインフレ防止の對策として最も有效であることが注目される。即ち各縣とも農業振興會は軍民需要の農産物及び家内工業品の完全充足を目指し、縣内不足物資の増産による縣經濟自活態勢の強化と牛車、小船等の増産統制による縣内交通の円滑化を圖る一方賣惜しみ、買溜めを行つて流通を攪亂するブローカーを排除す

一八二  
べく努力を續けてゐる。既に三縣に於いてはこれらの點に於いて着々成果が擧り、これに應じてプロセカド使用を  
合作社との提携に切替へた邦人榨當企業者に對し農民の好感が増大しつゝある。ビルマの主要地區に斯る農業振興  
會を多數結成せしめることこそビルマ經濟を飛躍的に向上せしめる基本對策であらう。(一〇・一九)

### バンハン調査團長語る

バンハンビルマ政府特別調査團長は歸國以來、共榮團各國の戰爭協力の實相及びビルマ國復興繁榮の具體策に關  
する報告書を作成中のところ、此の程右報告書を政府に提出する運びとなつたので、八月二十一日記者團と會見を  
行ひ、左の如き所感を述べた。

報告書では私が日本に於て學んだ二つのことを特に強調した。

その一つは日本國民が唯一の目的、即ち最後の勝利に向つて全力を集中してゐることであり、他の一つは日本國  
民が總て 天皇陛下に歸一し奉つてゐることである。日本國民は大東亞戰爭が日本の死活を決する戰であること  
を充分に認識し、戰爭完勝の爲めに國民の全力を集中してゐるが、この戰の結果は獨り日本の死活のみならず、東  
亞人の死活に關與することを我々は知らなければならぬ。日本の眞の力は國民各人の力に存するのではなくし  
て、一の目的に向つて集約されたる國民全體の力に存するのである。現在ビルマに於ける經濟施策の重點はイン

フレ對策で、その解決策は現在日本で行はれてゐる隣組配給制度を土臺とする制度を利用すべきである。現在の  
日本人は個人の利潤、個人の資澤と云ふことを念頭に置いてゐない。飯田前ビルマ方面最高指揮官に會つた時、  
繼ぎの當つた軍服を着ておられたが、而も氣にして居られなかつた。日本人の此の氣持、此の態度は他國民が手本  
としなければならぬ。ビルマに於ける生活必需物資たる米、油、鹽、着物は資澤をさへしなければ充分である。  
日本に於て行はれてゐるところをビルマに於て行ふならビルマのインフレ防止は容易である。共榮團各國を廻つ  
てみて各國が大東亞戰爭遂行に重大關心を持つてゐることを知り、私は必勝の信念を更に固めた。日本人の一人  
の兵隊に「何の爲めに戰つてゐるか」と問へば、「天皇陛下の爲め」と答へた。米國の軍隊に同じことを問へば  
「支那と商賣する爲め」と答へた。此の精神の差は戰爭の長期化と共に力の差となつて現はれて來る。私は滿洲國、  
朝鮮、臺灣、昭南等を視察して、日本が如何に經濟的資源に富んでゐるかを知つた。戰爭には物資力の必要なこ  
とは云ふまでもないが、之と共に精神力の尙一層必要であることを私はこの視察旅行を通じて認識したのである。

(八・三二)

### ビルマの植物油栽培順調

ビルマの主要作物たる胡麻及び落花生の本年度の栽培は、前年度不足の後を受け、過去の最高植付面積が計畫さ

れ、何れも六月から播種が開始されたが、其の後高価格による栽培刺激と共に適雨に恵まれて、栽培は順調に推進、この程その收穫量は何れも昨年度の倍額に上り、最小限に見積つても平年作突破が見込まれるに至つた。早生胡麻は既に本月中旬より收穫を開始、落花生は十月より行はれるが植物油は南方の生必需品である上に、潤滑油の原料となる重要物資なので、本年度胡麻、落花生の作柄順調は關係方面を大いに喜ばせてゐる。

(九・五)

### ビルマで蕁収大量生産開始

麻袋はビルマの物資輸送に不可欠な緊急品であり、その材料となるビルマ黄麻の本年度の作柄は降雨過度のため期待に及ばなかつたので關係當局は雜纖維、木皮、薬等を原料とする代用麻袋の増産に努力を倍加し、先づ蕁収の大量生産を行ふこととなつた。依つて關係商社六社はこの程収増産協議會を設立して収需給の調節、原料の蒐荷、供給を一元的に統制し、米の主産地たるビルマ地方に働きかけて、乾季の農閑期に農民を動員し、収工場を多數新設すると共に家内工業による収増産の國民運動を起すこととなつた。これによる本年度収生産目標は〇〇萬枚であるが、内一定數量は農家々内工業により供給される見込みで、各社共九月中旬に収手織機を農村に持込み、農家への講習を開始する。従来ビルマでは米の收穫に當り稻種より五、六寸下を切り、殘餘の藁は焼却または鋤込むのみで他に利用の道なく、また農閑期には何等行ふべき副業もなかつたが、今回の収製造を機として薬工品工業が盛んとなり、民生安定と自活態勢の強化に役立つと期待される。

(九・二)

### 在緬邦人に二規定を施行

在緬邦人商社の經營を監査し且つこれに従事する邦人役職員の給與を適正化するため、在ビルマ軍當局ではこの程軍委託經營事業會計監督規定及びビルマ國內軍關係事業給與統制規定を發令した。會計監督規定は來る十二月一日より、又給與統制規定は十月一日より施行されるが、前者はこれにより在緬邦人商社の事業をして一層國家的性格を昂むべく經營内容を監査し、損失、補償と共に利益金處分の認可制を明確に規定し、後者はこれによりインフレ防止の一助たらしむべく在外手當、在勤慰勞金、報酬等を規定したもので、その内容は日本に於ける會社經理統制令と同様である。南方進出邦人商社の經理と給與に就いては、先づ軍政地域に於いて昨秋以來關係兩規定の發令を見て來たが、今回同一の規定が在緬邦人商社にも適用されたわけである。

(一〇・四)

### 印度

#### 回印ボンベイ會談決裂

インド獨立の第一歩として數世紀に亙る回印兩教徒の對立打開に乗出したガンジツ翁は、パキスタン案を基調とする建設基案を提示して、九月九日以來ボンベイに於て回教徒聯盟の首領ジンナーと前後十數回に亙り會談を遂

一八五

一八六  
げたが、交渉は一應不調に終つた様子でボンベイからのロイター電報によれば、ジンナーは九月二十七日次の通り  
言明したといはれる。

ガンジー翁を改宗させる仕事に失敗したことを認めねばならぬのは遺憾である。随つて兩人間に交換された文書  
を新聞に發表するに決定したが、今回の會談が我等の努力の最終結末でないことを期待する。

會議派の巨頭ガンジー翁と回教聯盟の首領ジンナーとの會見は、九月九日以來長時間且つ継続的に開催されて  
るので、兩派の間の歩み寄りの可能性を示唆するものと見られてゐたが、由來ガンジー翁はジンナーの主張するパキ  
スタンの原則、即ち回教徒の多數を占める地方に於て回教徒の獨立國家を認めると云ふ原則に對しては「母なる印  
度の生體分割」だとなして反對して來たものであるが、客觀的情勢の變化に伴ひ、ガンジー翁はこの點で讓歩しても  
結局印度の政治的獨立を促進出來れば却つて有利であると判斷、七月ジンナーは從來からの經緯もあり會見受諾を  
躊躇してゐたが、マドラス州知事で人望のあるラジャゴバラチャリの斡旋で會談の運びとなつたものである。ガンジ  
ー翁は同時に印度總督ウエーベルに對しても會見を申し込み、總督が即時印度の獨立を約束すれば國民會議派は全  
力を擧げて、反輻軸軍の戰爭努力に協力する旨申し入れた。ところがウエーベルは會議派は印度三億九千萬の人口の  
僅か一部を代表してゐるに過ぎないとの見地から、今ガンジー翁と會見しても何ら實益はないと回答して來たので、  
ガンジー翁は先づジンナーと話を付けて印度國內の戰線統一を企圖したと云ふこともあらう。現在ガンジー翁が英

政府に對して要求してゐることは「民政の全權を有する戰時國民政府」の承認であるが、英政府は若し民政の全權  
を委任した場合には、印度政府が印度の國防に關する限り英當局と協力することはあつても東亞の侵略戰には協力を  
拒否することを危懼して居り、この點で英政府の意圖を引いてゐると云はれるジンナーがガンジー翁の提議に同意  
するか否かは初めから疑問視されてゐる。然し乍らジンナーとて回教徒一般の獨立に對する熱望を阻止することは  
出來ないから印、回兩巨頭の間は何等かの妥協點が見出される可能性も決して尠くないと見られたが、以上の如く  
十數回の會談の結果遂に不調に終つたのである。  
(九・二九)

### ポース首班我が航空機増産に百萬圓献金

皇軍と協力して東亞の解放に邁しき進軍を続けねばある自由インド假政府首班チャンドラ・ポース氏は、現地陸  
軍部隊を通じて小磯首相宛航空機生産に資するため、帝國陸海軍に對し金百萬圓を獻金する旨左の電報を寄せ來つ  
たので、小磯首相並に杉山、米内陸海兩相は連署を以てポース首班宛電報を發し深甚な謝意を表した。

電文 自由インド假政府首班チャンドラポース

小磯内閣總理大臣閣下、余は自由インド假政府を代表し、日印協同の戦ひに於いて日本とインドを結ぶ強き結  
束と親交の證として、本日、航空機生産のため大日本帝國陸海軍に對し、各々五十萬圓の獻金を爲すの光榮を

有する。この細やかな献金が受納せらるゝならば、余竝にインド民衆の最も感謝する所なり。(九・一〇)

一八八

## 南方一般

### 南方の邦人商社重點開發に邁進

現在南方全域では千に達する邦人商社が進出して居り、馬來だけでも數百に上つてゐる。資源開發に、その重要資源の内地還送に、また工業の現地自活に大童の活動を續けてゐる。特に決戦段階に直面した今日、その機能を充分に發揮することが望ましい。多くの商社は昭和十七年の夏から十八年の夏にかけて進出したもので、馬來は經濟建設の最中であり、作戦に協力することを以て軍政の目標としてゐた時代である。然るに今日では情勢は全く變つてしまつた。當面する作戦遂行に如何に戦争を遂行せしめるかといふことになつた。

#### 一 堅實なる經理内容

之等多くの商社の健全なる發展を圖り、建設即作戦の目的達成のため南方では南方獨特の經理統制令が出来目下施行中であるが、同令の規定に基き最近馬來に於ける重要十一商社の經理内容を現實に調査したところ非常に堅實であり、監査官自身が驚いてゐる位である。經理監査は南方では今回が第一回目であり、戦時下のことゝて相當難か

しい經理内容であり、叩けば埃も出るだらうと一部では考へてゐたが實際は非常に堅實である。監査の結果注目すべき點は、

(一) 帳簿組織が内地のまゝであり、日本人でなければ付けられぬかと思つてゐたが、今日では現住民が立派に處理してゐる。會計部門に於ける原住民の進出は相當なもので、日本人は最後の締括りだけ見てゐるればいゝやうになつた。

(二) 交際費、機密費等は經理統制令の要許可事項であり各社とも交際費、機密費の使途には慎重である。

#### 二 重要的の業務轉進

商社が進出して來た當時は南方建設と云ふ標語が端的に示す如く建設に力點を置いてゐた。従つて進出商社の範圍も廣く、進出した商社が全部働けば輕工業から重工業まで一切の仕事が完遂出來る筈であつた。總花式に進出してきた嫌ひはあるが、建設期には當然のことかも知れぬ。然るに時局の緊迫に伴ひ、總花式開發は必要でなく、重點的開發及び建設が焦眉の急務である。そこで重點部門に資金と勞力と資材を配置することが必要である。

ジャワでは砂糖會社が數社進出してゐるが、砂糖はジャワでは過剩物資であり、假令ブタノール計畫が豫定通りに進捗しても砂糖は可成り豊富である。そこでジャワの砂糖會社は食糧増産に轉進した、砂糖關係は最大の産業である。これが全力を擧げて轉進したのであるから食糧増産の實績もよく、流石豐穰なジャワだといふ感が深い。フ

一八九

イリピンでは棉花栽培業者が食糧増産に轉進してゐるので、南方全域が夫々各地の特殊事情に應じて轉進してゐる。

一九〇

馬來ではゴム林が食糧畑に、錫の浚渫機を稀元素やボーキサイトの採掘に轉用してゐるのが目に付く。決戦は目睫に迫つてゐる、もつと南方進出商社の再編成をやらないと南方進出商社は戦争傍觀者になつて了ふであらう。

### 三 事業資金計畫

昭和十九年度馬來新規事業資金計畫のうち、第一位を占めるのは交通業であり、第二位は鑛業、第三位は農林業であり、以下交易業、鑛工業、造船業、機械工業、化學工業、電力業、鑛業、水産業、倉庫業といふ順序になつてゐる。十九年度民間事業資金計畫の特徴は左の通りである。即ち

- (一) 南方開發企業に於ける事業資金の完全なる自立達成を期した。
  - (二) 資金の放出の強力なる抑制と資金吸收の計畫化を圖つた。
  - (三) 軍政下開發の超重點化を促進すべく作戦即軍政たるの要請に基き決戦産業に對する資金の重點供給を期した。
  - (四) 資金面より邦人企業の刷新強化並に原本人企業の育成を圖り、以つて産業活動に對する刺戟を付與せんとした。
- 馬來の新規事業資金は數億の巨額に達し、このうち設備金と運轉資金との比率は二對一である。

### 四 工場の方分散

空襲必至の備への下に馬來の工場分散も著々進捗して居る。工場分散を徹底的にやつてゐるのは獨逸で、ベルリン、ハンブルグ、ブレイメンの三大都市では農村民の新しく働くことを禁じ新工場は全部農村に建てゝゐる。伊太利では人口十萬以上の都市に職工百人以上を使ふ工場の新設を禁じてゐる。馬來では法規で強制することはしないで内面指導により地方分散をやつてゐるが賢明な方策である。

馬來の籠城經濟は著々進捗してゐるから二年や三年の籠城にはへこたれぬ。「内地から物資が來なくなつても大丈夫です、安心して下さい」と言へる。

(七・二六―日産)

### 儲銀の對南方蓄積資金膨脹

儲備銀行では本年一月以來對南方爲替集中別を實施し、正金銀行東京支店に開設された特別圓爲替資金を以つてこれが決済處理に當つてゐるが、現在までの爲替賣買の決済殘高は約八百萬圓(特別圓建)に達し、同行の蓄積資金となつてゐる。これらの大部分は華僑送金を以て占められ、交易面に於ける輸出關係の超過は戦局の進展に伴ふ輸送關係の逼迫等により華中、華南對南方との交易關係にも殆ど杜絶状態にあるため極めて僅少である。この八百萬圓の決済殘高の内譯は佛印、タイを除く其の他の地區が五百萬圓弱、佛印、タイ地區が約三百萬圓となつて居

一九一

一九二  
り、前者は月額平均五十萬乃至六十萬圓、後者は月額平均タイ國にあつては二十萬圓乃至三十萬圓、佛印にあつては約三十萬圓見當と見積られ、就中タイ國にあつては最近二、三箇月間華中方面よりタイ國向けの特種筋逆送金により收支相殺された形にある。また華僑送金も上海地區への送金は月額平均五、六萬圓程度に過ぎず、大部分は廣東、汕頭、香港等の華南地區向け送金を以つて占められてゐる。

(九・二八)

### 東印度に對する獨立許容の聲明

小磯首相は九月七日の第八十五臨時議會に於ける施政演說中東印度民族に對し、將來その獨立を認めんと左の如く中外に闡明した。小磯首相演說要旨

大東亞諸國家諸民族は、現下の戦局にも拘らず聊かの動搖もなく、寧ろ戦局の推移と共に大東亞復興に關する使命達成の必要を自覺し、皇國と一致結束、敢然戦ひ抜く態勢を強化しつつある實情で、衷心力強く感ずる次第である。

東インドに於ては、帝國は昨年原住民の念願に基き、その政治參與に關する措置を執つて參つたが、此の間これら各地の原住民は克く帝國の眞意を解し、終始一貫、大東亞戦争完遂のため多大の努力を續けて參つたのであつて、現地軍政に對する協力又眞に見るべきものがある。この實情に鑑み帝國は東インド民族永遠の福祉を確保す

るため、將來その獨立を認めんとするものなることを茲に聲明する。

斯くの如く帝國政府としては、大東亞地域に對する從來の政策を將來に向つて堅持するは勿論、今後益々大東亞共同宣言の精神を強力に展開して、大東亞諸國家諸民族の信頼に應へんことを期する。

斯くして皇國を中核とする大東亞が堅確なる必勝信念の下愈々一致結束を固くし、物心兩面に互る一切の總力を結集し、大東亞復興の聖戦に邁進する時、必ずや米英の野望を粉碎し、以て萬古不滅の皇國の世界理念を悠久に顯揚し得ることを確信するものである。

(九・八)

# 統計

## 南支各地域別在留邦人人口概計表

(昭和十九年三月一日現在)

地方別	内地人		朝鮮人		臺灣人		合計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
廈門市	3,333	5,635	1,216	2,105	1,216	2,105	5,765	9,845
鼓浪嶼	1,500	2,500	1,000	1,500	1,000	1,500	3,500	5,500
金門	500	1,000	500	1,000	500	1,000	1,500	2,500
滯留	200	400	200	400	200	400	600	1,200
不計	300	600	300	600	300	600	900	1,800
總計	5,833	10,135	2,416	4,605	2,416	4,605	10,665	19,345

## 二汕頭

汕頭市	2,100	3,500	1,200	2,100	1,200	2,100	4,300	7,700
南澳島	1,000	1,500	500	750	500	750	1,500	2,250
湖陽	500	1,000	300	600	300	600	600	1,200
達嶼島	200	400	100	200	100	200	300	600
澄海	100	200	50	100	50	100	150	300
饒平	50	100	25	50	25	50	75	150
潮州	100	200	50	100	50	100	150	300
庵埠	50	100	25	50	25	50	75	150
彩塘	20	40	10	20	10	20	30	60
浮洋	10	20	5	10	5	10	15	30
總計	4,600	7,700	2,025	3,850	2,025	3,850	6,625	11,550

## 三廣東

廣州市	1,200	2,400	600	1,200	600	1,200	1,800	3,600
沙面	500	1,000	250	500	250	500	750	1,500
河南	1,500	3,000	750	1,500	750	1,500	1,500	3,000
總計	3,200	6,400	1,600	3,200	1,600	3,200	4,050	8,100

市州廣















種類	品名	單位	價格
穀類	白米	一斤	七.八〇
	白粉	一斤	二.五〇
	綠豆	一斤	七.〇〇
	白豆	一斤	六.五〇
	花生油	一斤	三三.五〇
	白糖	一斤	一七.〇〇
	食鹽	一斤	一.八〇
	紅茶	一斤	六.五〇
	六安	一斤	六.〇〇
	嗜好品	六	三三.〇〇
肉類	豚肉	一斤	二五.〇〇
	牛肉	一斤	二〇.〇〇
	鷄卵	一箇	一.三五
魚類	魚	一斤	七.五〇
	紅魚	一斤	四.八〇
	白魚	一斤	〇.六〇
	菜	一斤	〇.八〇
	菜	一斤	〇.三〇
	菜	一斤	一.六〇
	炭	百斤	一〇五.〇〇
	炭	一斤	三.五〇
	油	一斤	〇.四五
	薪	一包	一.〇〇
燃料	石	一斤	〇.四五
	石	一斤	〇.四五
木	大	一包	一.〇〇
	小	一包	一.〇〇

華僑送金表

(昭和十九年三月中)

(香港出張員事務所)

地方別	前月未拂額	口數	到達銀額	口數	支拂銀額	未拂額
日本	二二.五〇	二	二九.三六	九	二九.〇七	二.六六
香港	五.五〇	〇	三〇.四九	三	二九.四九	九〇.四九
廣東	六.〇〇	一	三〇.四九	一	三〇.四九	六〇.五〇
廣西	五.〇〇	一	二四.九四	〇	三三.五九	四二.五九
福建	三.〇〇	五	二九.九八	四	二九.九八	三〇.〇一
浙江	三.〇〇	一〇	二九.九八	六	二九.九八	九三.九八
江蘇	九.〇〇	一〇	二九.九八	六	二九.九八	九三.九八
安徽	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
江西	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
湖南	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
湖北	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
四川	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
雲南	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
貴州	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
陝西	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
甘肅	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
山西	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
山東	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
河南	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
河北	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
察哈爾	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
綏遠	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
熱河	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
遼寧	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
吉林	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
黑龍江	三.〇〇	一	二九.九八	一	二九.九八	六三.九八
總計	一〇三.六四	八六	四三三.七三	六〇	四四一.六五	一〇七.九三

(廈門總領事館)

二汕頭

地方別	二月中送金高	三月中送金高	累計(一三月)
比島	六〇〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇
佛印	二、〇〇〇、〇〇〇	二、六四三、四・五〇	二、八、四三三、四・五〇
泰哇	二七、七九〇、〇〇〇	三六、八九五、〇〇〇	二、三三、九六八、〇〇〇
爪哇	一八、三八七、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇
馬來	一、二六〇、〇〇〇	八九、六一九、〇〇〇	一一、一五六、〇〇〇
ボルネオ	一、二六〇、〇〇〇	一〇九、〇〇〇	二三五、〇〇〇
スマタラ	一、二六〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇
海島	一、二六〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇
合計	四八、八九二、〇〇〇	一五六、六七七、五〇〇	二七〇、〇九三、五〇〇

〔汕頭領事館〕

三海南島

地方別	二月中	三月中	累計(一三月)
佛國	三〇	四	三四
泰國	六三	二六	八九
合計	九三	三十	一二三

〔海口總領事館〕

馬來	香港	其他	合計
三三	二	一	三四
八、六六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	八、八一〇、〇〇〇
二、三三〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二、四八〇、〇〇〇

〔海口總領事館〕





昭和十九年十二月二十六日印刷  
昭和十九年十二月三十一日發行

【非賣品】

### 臺灣總督府外事部

臺北市新富町一丁目一九四番地

印刷者 安東正紹

臺北市新富町一丁目一九四番地

印刷所 株式會社 光明社商會

